

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第173集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第26集

# 白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

弥生・古墳時代遺物観察表編

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団

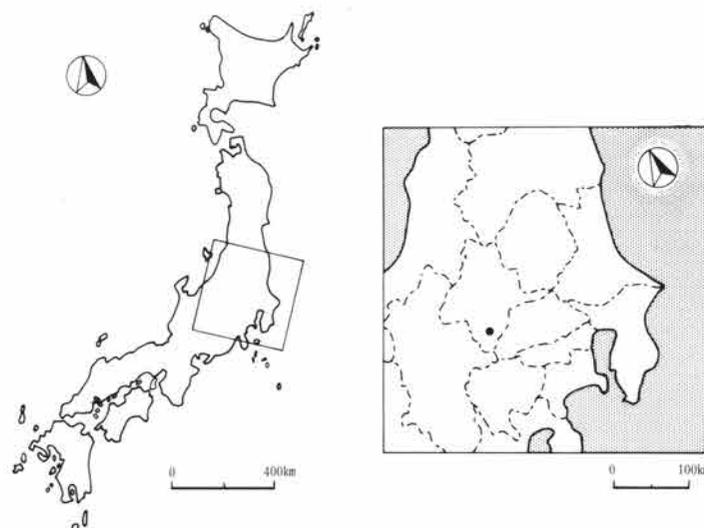


(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第173集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第26集

# 白倉下原・天引向原遺跡III

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

弥生・古墳時代遺物観察表編



1 9 9 4

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団



## 凡 例

1. 土器の法量の数値のうち、( )で示したものは残存値で、カッコのないものには復元値も含まれている。
2. 土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』1988年版に基づいている。
3. 「器形・整成形の特徴・文様」における「→」は施文等の順序を示す。
4. 「出土位置」の表記は、例えば「中央床直」は、「住居中央の床面直上からの出土」を示し、「北西床直・+11 (2片)」は、「住居内北西部の床面直上と床面から11cm上の位置からの2カ所のものの接合からなっている」ことを示している。また「+6~10」と記してあるのは、「床面から上に6cmないし10cmの間に接合した破片が分布していた」ことを示している。「-6」とあるのは、床下構造の調査で発見されたもので、「付近の床面から下へ6cmの位置にあった」ことを示している。
5. 土器破片資料で拓本掲載のものについては、必要最小限の観察事項を記しておいた。

# 遺物觀察表編目次

## 1. 弥生住居出土遺物

### 土器

白倉A区46号住居跡出土土器	1
白倉A区52号住居跡出土土器	1
白倉B区5号住居跡出土土器	1
白倉B区7号住居跡出土土器	2
白倉B区13号住居跡出土土器	3
白倉C区1号住居跡出土土器	5
白倉C区7号住居跡出土土器	5
白倉C区8号住居跡出土土器	6
白倉C区9号住居跡出土土器	6
白倉C区14号住居跡出土土器	7
白倉C区30号住居跡出土土器	7
白倉C区32号住居跡出土土器	8
白倉C区34号住居跡出土土器	8
白倉C区35号住居跡出土土器	9
白倉C区39号住居跡出土土器	10
白倉C区47号住居跡出土土器	10
白倉C区53号住居跡出土土器	11
白倉C区55号住居跡出土土器	11
白倉C区72号住居跡出土土器	11
白倉C区90号住居跡出土土器	12
白倉C区91号住居跡出土土器	12
天引2号住居跡出土土器	12
天引4号住居跡出土土器	13
天引5号住居跡出土土器	13
天引12号住居跡出土土器	13
天引19号住居跡出土土器	14
天引22号住居跡出土土器	14
天引42号住居跡出土土器	15
天引43号住居跡出土土器	17
天引53号住居跡出土土器	17
天引55号住居跡出土土器	19
天引56号住居跡出土土器	20
天引58号住居跡出土土器	21
天引60号住居跡出土土器	21
天引62号住居跡出土土器	21
天引65号住居跡出土土器	23
天引74号住居跡出土土器	24
天引84号住居跡出土土器	25
天引85号住居跡出土土器	26
天引91号住居跡出土土器	27
天引100号住居跡出土土器	27
天引105号住居跡出土土器	28
天引108号住居跡出土土器	28
天引109号住居跡出土土器	28
天引110号住居跡出土土器	28
天引112号住居跡出土土器	30
天引116号住居跡出土土器	31
天引119号住居跡出土土器	32
天引121号住居跡出土土器	32
天引132号住居跡出土土器	33
天引135号住居跡出土土器	33

天引136号住居跡出土土器	34
天引146号住居跡出土土器	34
天引151号住居跡出土土器	34
天引152号住居跡出土土器	35
天引153号住居跡出土土器	35

### 石器

白倉A区52号住居跡出土石器	36
白倉B区5号住居跡出土石器	36
白倉B区7号住居跡出土石器	37
白倉C区1号住居跡出土石器	37
白倉C区7号住居跡出土石器	38
白倉C区8号住居跡出土石器	39
白倉C区9号住居跡出土石器	40
白倉C区14号住居跡出土石器	40
白倉C区30号住居跡出土石器	41
白倉C区32号住居跡出土石器	41
白倉C区34号住居跡出土石器	42
白倉C区35号住居跡出土石器	43
白倉C区39号住居跡出土石器	45
白倉C区47号住居跡出土石器	46
白倉C区53号住居跡出土石器	46
白倉C区55号住居跡出土石器	46
白倉C区72号住居跡出土石器	46
白倉C区90号住居跡出土石器	47
白倉C区91号住居跡出土石器	47
天引2号住居跡出土石器	48
天引4号住居跡出土石器	48
天引19号住居跡出土石器	48
天引22号住居跡出土石器	48
天引42号住居跡出土石器	49
天引43号住居跡出土石器	50
天引53号住居跡出土石器	50
天引55号住居跡出土石器	50
天引56号住居跡出土石器	50
天引58号住居跡出土石器	51
天引60号住居跡出土石器	51
天引62号住居跡出土石器	51
天引65号住居跡出土石器	52
天引74号住居跡出土石器	52
天引84号住居跡出土石器	52
天引85号住居跡出土石器	53
天引91号住居跡出土石器	53
天引100号住居跡出土石器	53
天引105号住居跡出土石器	54
天引110号住居跡出土石器	54
天引112号住居跡出土石器	54
天引121号住居跡出土石器	55
天引116号住居跡出土石器	55
天引151号住居跡出土石器	55
天引153号住居跡出土石器	56

## 2. 弥生方形周溝墓出土遺物

### 土器

白倉C区1号方形周溝墓出土土器	56
白倉C区2号方形周溝墓出土土器	56

### 石器

白倉C区1号方形周溝墓出土石器	57
白倉C区2号方形周溝墓出土石器	57

## 3. 弥生土壙出土遺物

### 土器

白倉B区16号土壙出土土器	58
白倉B区83号土壙出土土器	59
白倉B区97号土壙出土土器	59
白倉B区152号土壙出土土器	59
白倉B区162号土壙出土土器	60
白倉B区163号土壙出土土器	60
白倉B区179号土壙出土土器	61
白倉B区183号土壙出土土器	61
白倉B区231号土壙出土土器	62
白倉B区263号土壙出土土器	62
白倉B区谷出土土器	63
白倉C区1号土壙出土土器	63
白倉C区2号土壙出土土器	63
白倉C区3号土壙出土土器	64
白倉C区5号土壙出土土器	65
白倉C区11号土壙出土土器	66
白倉C区15号土壙出土土器	66
白倉C区16号土壙出土土器	67
白倉C区29号土壙出土土器	68
白倉C区30号土壙出土土器	70
白倉C区31号土壙出土土器	70
白倉C区32号土壙出土土器	71
白倉C区72号土壙出土土器	71
白倉C区105号土壙出土土器	71
白倉C区124号土壙出土土器	72
白倉C区209号土壙出土土器	72
白倉C区222号土壙出土土器	72
白倉C区253号土壙出土土器	73
白倉C区255号土壙出土土器	74
天引46号土壙出土土器	74
天引59号土壙出土土器	74
天引65号土壙出土土器	75
天引66号土壙出土土器	75
天引69号土壙出土土器	76
天引109号土壙出土土器	76

### 石器

白倉土壙出土石器	76
----------	----

## 4. 古墳住居出土遺物

### 土器

白倉B区14号住居跡出土土器	77
天引1号住居跡出土土器	78
天引6号住居跡出土土器	79

天引10号住居跡出土土器	80
天引11号住居跡出土土器	82
天引13号住居跡出土土器	83
天引18号住居跡出土土器	84
天引20号住居跡出土土器	84
天引23号住居跡出土土器	85
天引24号住居跡出土土器	85
天引25号住居跡出土土器	86
天引28号住居跡出土土器	87
天引30号住居跡出土土器	88
天引31号住居跡出土土器	89
天引35号住居跡出土土器	90
天引51号住居跡出土土器	91
天引69号住居跡出土土器	91
天引77号住居跡出土土器	91
天引88号住居跡出土土器	92
天引90号住居跡出土土器	92
天引94号住居跡出土土器	93
天引96号住居跡出土土器	93
天引106号住居跡出土土器	93
天引107号住居跡出土土器	94
天引114号住居跡出土土器	95
天引117号住居跡出土土器	96
天引122号住居跡出土土器	97
天引131号住居跡出土土器	97
天引142号住居跡出土土器	99
天引143号住居跡出土土器	100

### 石器

天引6号住居跡出土石器	100
天引10号住居跡出土石器	101
天引11号住居跡出土石器	101
天引18号住居跡出土石器	101
天引23号住居跡出土石器	101
天引25号住居跡出土石器	101
天引28号住居跡出土石器	102
天引30号住居跡出土石器	102
天引31号住居跡出土石器	102
天引51号住居跡出土石器	102
天引69号住居跡出土石器	103
天引88号住居跡出土石器	103
天引90号住居跡出土石器	103
天引106号住居跡出土石器	103
天引107号住居跡出土石器	104
天引114号住居跡出土石器	104
天引117号住居跡出土石器	104
天引122号住居跡出土石器	104
天引142号住居跡出土石器	105
天引143号住居跡出土石器	106

## 5. 古墳方形周溝墓出土遺物

### 土器

天引1号方形周溝墓出土土器	106
---------------	-----

### 石器

天引1号方形周溝墓出土石器	107
---------------	-----

## 6. 古墳土壙出土遺物

白倉B区266号土壙出土土器	107
天引160号土壙出土土器	107
天引171号土壙出土土器・石器	107

## 7. 遺構外出土遺物

### 土器

白倉遺構外出土土器	108
天引遺構外出土土器	110

### 石器

遺構外出土石器	112
---------	-----

## 1 弥生住居出土遺物

白倉 A 区46号住居跡出土土器 図132 PL77

1	甕	LR縄文、内面横へら磨き、砂粒を含む、橙色、外面に薄いスス 覆土中
2	甕	RL縄文、内面横へら磨き、砂粒を含む、鈍い橙色、内面スス 炉内

白倉 A 区52号住居跡出土土器 図132 PL77

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型甕 胴部	口 — 底 — 高 (8.1)	胎 砂粒を混じる 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 RL縄文 内面 横へら磨き、二次加熱	外面スス 東床直
2	甕 胴部	口 — 底 — 高 (7.1)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 暗赤褐色	口頸部は緩やかに外反する 外面 LR縄文 内面 横へら磨き、器面は二次加熱を受けている	外面スス、内面体部中 位ヨゴレ 東床直
3	小型甕 頸部～底部	口 — 底 5.0 高 (15.5)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 褐灰色ないし橙色	外面 胴上部RL縄文、胴下部横へら磨き、底部平底でナ デ→へら磨き 内面 横へら磨き	底面周縁スレ、二次加 熱により器面剥落 東床直 (4片)
4	甕 底部	口 — 底 6.1 高 (4.4)	胎 緻密、小礫を含む 焼 良好 色 褐灰色ないし黒褐色	外面 へらナデ、二次加熱を受ける、底部平底でナデ 内面 横へら磨き	外面スス、底部被熱痕 あり、内面ヨゴレ 東床直
5	甕 底部	口 — 底 5.4 高 (4.4)	胎 小砂粒を混じる 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 横へら磨き、底部平底でナデ 内面 横へら磨き	外面・底部スス、内面 コゲ、ヨゴレ 東床直 (2片)
6	高 坏	口 — 底 10.4 高 (5.6)	胎 緻密、砂粒を混じる 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 ナデ整形後、くびれ部は縦・脚部は横へら磨き 内面 横ナデ	断面スス 東床直
7	台付甕 脚部	口 — 底 9.6 高 (7.4)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 へら削り→縦へらナデ 内面 横ナデ、甕部の埋め込みが明瞭 外面・甕部内面赤色塗彩	外面接合部・断面スス 東床直
8	甕		LR縄文、砂粒を含む、橙色 東床直		

白倉 B 区 5 号住居跡出土土器 図133 PL77・78

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁部	口 21.7 底 — 高 (5.8)	胎 砂礫が目立つ 焼 普通 色 浅黄橙	口縁端は受け口状をしている 内外とも器面の摩耗が著 しい 外面 口縁端に波状文	2号炉周辺+6 (3片)
2	壺 口～頸部	口 17.5 底 — 高 (9.2)	胎 小砂粒を含む、ザラ ザラしている 焼 普通 色 明黄褐色	外面 口頸部縦ハケ→口縁部横ナデ 内面 横ナデ 文様 くびれ部 2 節籬状文、胴上部波状文 2 段 (上→下)	東壁+9～+15 (3片)
3	甕 底部	口 — 底 (6.6) 高 (2.3)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ハケ→縦へらナデ	外面スス 覆土中

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	壺 ほぼ完形	口 22.0 底 9.2 高 44.9	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 浅黄色ないし橙色	胴中位に最大径、折り返し口縁 外面 胴下部ヘラナデ、口縁は縦ヘラナデ 内面 ナデ整形と思われるが、器面の摩耗が著しい 文様 くびれ部単節簾状文3段→胴上部波状文4段（上→下）、折り返し部波状文	底面外縁スレ  中央床直
5	甕	口 19.3 底 7.2 高 14.6	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙～明赤褐色～暗褐色	外面 胴下部ヘラナデ→縦ないし斜め縦ヘラ磨き→下端寄り横ナデ 内面 胴上部横ヘラ磨き 文様 外面口縁端・胴中位有刺突円形浮文→くびれ部2節簾状文→胴上部波状文5段（上→下）、口縁部波状文3段（上→下）。口縁部の波状文乱雑	外面全体にスス 内面口縁端スス、体部下位～頸部までヨゴレ  南東床直
6	蓋	口 3.4 底 — 高 (4.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄色	外面 ナデ整形→部分的にヘラナデ→つまみ部ヘラ整形 内面 指ナデ	内外面スス  入口周辺+27
7	台付 甕 脚 部	口 — 底 9.6 高 (7.1)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 暗赤灰色～赤褐色	外面 縦ヘラ削り→下端部横ナデ 内面 上寄りは縦指ナデ→下半は横ナデ 二次加熱を受けている	入口周辺+6・+57(2片)
8	鉢 口縁			外面縦ハケ→口縁端斜め横ハケ、砂礫を含む、橙色 南東床直	
9	壺			折り返し口縁→折り返し部波状文、砂粒を含む、明黄褐色 覆土中	
10	甕 口縁			口縁端部波状文、くびれ部2節簾状文、緻密、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 南壁+13	
11	高坏・口縁			口縁端水平に開く、砂礫の混入が目立つ、鈍い黄橙色、内外面赤色塗彩 入口周辺+10	
12	壺			口頸部内外面とも赤色塗彩、砂粒を含む 入口周辺+49	

白倉B区7号住居跡出土土器 図134・135 PL78・79

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～頸部	口 22.4 底 — 高(15.0)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い黄橙ないし橙色	口縁ラップ状に開く 外面 口縁ナデ→口頸部縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ→口頸部横ないし斜め横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文（2組の櫛をセットにして施文）→胴上部波状文2段（上→下、10条）。 内面赤色塗彩	外面薄いスス、内面体部にスス、体部割れ目にスレ 柱穴3周辺床直・+16（2片）
2	鉢 口縁～胴部	口(20.0) 底 — 高(9.1)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 赤褐色	やや内湾気味に立ち上がる 外面 縦ハケ後口縁横ナデ、口頸下半部縦ヘラナデ 内面 横ナデ	内外面薄いスス  南東床直
3	甕 口縁～胴部	口(30.0) 底 — 高(18.6)	胎 精良、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 縦ないし斜め縦ハケ→縦ヘラナデ→胴中位をのぞき縦ヘラ磨き、胴中位横ヘラ磨き、口縁横ナデ 内面 横ないし斜め横ハケ→口縁横ナデ、体部横ヘラ磨き、口縁端を除いて部分的にヘラナデ	外面口頸～体部帯状にスス、内面口縁スス、中位ヨゴレ・吹きこぼれ 覆土中～+14（8片）
4	壺 頸～胴部	口 — 底 — 高(35.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 胴中位横ヘラ磨き 内面 器面の剥落が著しい 文様 くびれ部単節簾状文2段（上→下）→波状文4段～5段（上→下、7～8条）	内外面一部スス  北西床直・+11（2片）
5	高坏 接合部	口 — 底 — 高(4.0)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い橙色	外面 ナデ整形後縦ヘラナデ 内面 横ナデ	中央床+5

1 弥生住居出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	壺 口縁～ 胴上部	口 15.2 底 — 高 (9.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし明赤褐色	口縁端波状文、口縁端わずかに内傾ぎみに立ち上る 外面 口頸横ヘラナデ後部分的に縦ヘラ磨き 内面 横 ナデ 文様 くびれ部 2 節簾状文、胴上部波状文 2 段(上 →下、6 条)、口縁波状文	内外面スス  北床直～+29 (5 片)
7	甕 口縁～胴部	口 19.0 底 — 高(17.2)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 縦ナデ後胴下部横ヘラ磨き 内面 口頸部横ナ デ、胴部ヘラナデ 文様 口縁上端波状文、くびれ部 2 節簾状文 (13 条) → 胴上部波状文 3 段 (上→下、13 条)。 丁寧な作りで施文もしっかりしている	外面強いスス、口縁吹 きこぼれ、内面口縁薄 いスス、体中位ヨゴレ 入口周辺+9
8	甕 口縁～ 胴上部	口 18.3 底 — 高(10.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし赤褐色	内面 横ナデ後、口頸部のみ横ヘラ磨き 文様 2 節簾 状文、胴上部波状文 2 段以上(上→下、19 条)、口縁部波 状文 4 段 (上→下)	口縁内外面に強いスス 外面体部スス 中央床直
9	甕 胴部～底部	口 — 底 6.4 高(10.5)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色～におい橙色	外面 胴下部 (上から) ヘラ削り→縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 胴上部波状文	外面に強いスス、内面 帯状にヨゴレ、底部ス スけ 柱穴 3 内
10	甕 胴下部～ 底部	口 — 底 7.2 高 (5.7)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色ないし橙色	外面 横ナデ、底面ヘラナデ 内面 横ナデ	外面スス、内面底部ヨ ゴレ 柱穴 1 内
11	壺 底 部	口 — 底 9.2 高 (4.7)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし黒褐色	外面 縦ハケ整形後部分的に縦ヘラナデ、底面平底→ヘ ラ削り 内面 横ナデ	底面周縁スレ  北床直
12	甕		口縁端部から口唇部波状文、砂粒を含む、鈍い赤褐色 覆土中		
13	高坏		口縁端に円形貼付文、砂粒を含む、橙色、内面赤色塗彩 北+22		
14	甕		口縁端波状文、くびれ部波状文、砂粒を含む、橙色 覆土中		
15	台付甕		口縁端波状文、くびれ部から胴上部波状文、緻密、砂粒を含む、橙色 中央+16		
16	甕		くびれ部 2 節簾状文→胴上部波状文、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 覆土中		
17	壺		くびれ部 2 節簾状文→胴上部波状文、微砂粒を含む、橙色 (4 と同一個体か?)		
18	甕 口縁		口縁波状文 (下→上)、砂粒を含む、鈍い赤褐色、外面スス 中央床直		
19	甕		くびれ部 2 節簾状文→胴上部波状文 5 段 (上→下)、口縁部波状文 3 段以上 (下→上)、砂粒を含む、鈍い赤褐色、 外面スス 中央床直		

白倉 B 区 13 号住居跡出土土器 図 135・136 PL79・80

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 胴 部	口 — 底 — 高(20.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴上半横ないし斜め横ヘラ磨き、胴中位横ヘラ磨 き、胴下半斜め横ヘラ磨き 内面 摩耗が著しい 外面赤色塗彩	北壁-7
2	壺	口 — 底 — 高 (6.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色 ないし鈍い橙色	口縁はラップ状に開く 外面 口頸部縦ヘラ磨き、頸部 横ナデ 内面 横ヘラ磨き 内外面赤色塗彩	外面スス  覆土中～+20 (4 片)
3	甕 胴部～底部	口 — 底 6.4 高 (5.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 黒褐色、部分的に鈍 い黄褐色	外面 横ヘラ削り後縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ナデ後部分的に横ヘラナデ、2 次加熱のため底 面を除き全体に黒褐色を呈する 文様 胴中位有刺突貼 付文	外面スス  南東-6
4	壺	口 — 底 13.6 高 (4.1)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ヘラナデ→下端指ナデ 内面 全体に器面剝落	中央床直

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
5	壺?	口 — 底 5.3 高 (2.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	甕・壺の底部とは形態を異にする 外面 ヘラ削り 内面 ナデ	貯蔵穴周辺床直
6	大型壺	口 — 底 12.2 高 (15.5)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 横ないし斜め横ハケ後、横ないし斜め横ヘラナデ 内面 底面ナデ 内外面とも器面の剝落が著しい	中央床直
7	小型支脚	口 — 底 8.3 高 (5.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	外面 ハケ整形後縦ヘラナデ、下端横ナデ 内面 横斜め縦ハケ→上端指ナデ 内面の整形が粗いのと外面のスス付着から炉の支脚の可能性を考えた	頂部・外面・内面スス 頂部外縁スレ 北+22
8	小型甕 頸部～底部	口 — 底 6.6 高 (9.3)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙ないし黒褐色	外面 胴下半ヘラ削り後縦ヘラ磨き、底面ヘラ削り後不定方向ヘラ磨き 内面 横ナデ後胴部横ヘラ磨き 文様くびれ部2節籬状文→胴上部波状文2～3段(上→下)	外面体部上位にスス 内面体部下位～上位に コゲ・ヨゴレ 中央床直
9	高坏 脚部	口 — 底 3.8 高 (3.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 横ないし斜め横ヘラ削り後、縦ヘラ磨き、下端横ナデ 内面 縦指ナデ後、下端横ナデ 外面赤色塗彩	南東床直
10	高坏 脚部	口 — 底 10.4 高 (4.6)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 地は鈍い黄橙色	外面 赤色塗彩後横ヘラ磨き 内面 ハケ整形後横ナデ	柱穴4周辺床直・+27 (2片)
11	台付甕	口 — 底 7.4 高 (6.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 縦ヘラナデ→脚上端・下端横ナデ 内面 横ハケ後ナデ	外面接合部・断面にスス 東床直
12	高坏 脚部	口 — 底 13.4 高 (12.4)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 地は鈍い黄橙色	外面 塗彩後縦ヘラ磨き 内面 横ナデ 外面赤色塗彩	接合部・内底部・断面 にスス 入口床直～-6(4片)
13	高坏 接合部	口 — 底 — 高 (3.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面・坏部内面赤色塗彩	柱穴2周辺床直
14	甕 胴部～底部	口 — 底 6.8 高 (6.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色ないし暗褐色	外面 胴下半～底部縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面・底部スス、内面 体部下位ヨゴレ 南東-6・-8(2片)
15	甕 胴部～底部	口 — 底 6.8 高 (3.7)	胎 緻密、砂粒を混じる 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 胴部縦ヘラ磨き、底部横ヘラナデ 内面 横ナデ→横ヘラ磨き	外面スス、底面コゲ 北壁-8(2片)
16	甕 胴部～底部	口 — 底 7.4 高 (4.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし褐灰色	外面 縦ハケ後縦ヘラナデ、底面ヘラナデ 内面 粗い横ハケ後横ヘラ磨き、底面指ナデ	外面スス 東壁床直
17	甕?	口 — 底 6.4 高 (2.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 下端横ナデ、底面ヘラナデ 内面 横ナデ	外面スス 入口周辺床直
18	甕 底部	口 — 底 7.0 高 (3.4)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦ヘラ削り→下端横ヘラ削り→部分的に縦ヘラナデ、底面ヘラ削り 内面 横ナデ後横ヘラ磨き	外面スス、内面コゲ 柱穴4周辺+16

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
19	手捏土器	口 2.9 厚 0.7 高 1.1	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	上半部が剥落している可能性もある	覆土中
20	埴		内外面とも赤色塗彩、砂粒を含む、橙色 覆土中		
21	壺		胴上部波状文 4 段以上 (13 条)、緻密、微砂粒を含む、橙色、内外面スス 北壁-10		
22	甕		胴上部波状文 3 段以上、微砂粒を含む、鈍い橙色、外面スス 貯蔵穴内		
23	甕		くびれ部単節簾状文 2 段→胴上部波状文、砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス、内面剥落 覆土中		

## 白倉 C 区 1 号住居跡出土土器 図137 PL80・81

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 頸部～胴部	口 — 底 — 高 (21.5)	胎 砂礫を混じる 焼 良好 色 鈍い黄橙 ないし黒褐色	いちじく形を呈する 外面 胴部はハケ整形後ヘラナデ 内面 横ヘラナデ 文様 くびれ部単節簾状文→胴上部 波状文 1 段 (6 条)	東壁+7
2	壺 頸部～胴部	口 — 底 — 高 (9.4)	胎 砂礫を含む、ガラガラ している 焼 普通 色 鈍い黄橙色	最大径胴中位に来る 外面 胴上半縦ヘラナデ、胴中位 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 胴上部波状文	外面・断面にスス、内 面にスス・ヨゴレ 北西際床直
3	壺 頸部～底部	口 — 底 9.0 高 (21.9)	胎 砂粒を多量に含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	内外とも器面の摩耗が著しい 外面 赤色塗彩後ヘラ磨 き、底部はよく使いこんでいるため丸みをおびる 文様 胴上部波状文 2 段	外面中位・頸部帯状に スス、内面ヨゴレ 南東壁際床直
4	甕	口 — 底 — 高 (16.7)	胎 砂礫を混じる 焼 良好 色 明褐色な いし鈍い黄褐色	外面 胴上半横ヘラ削り→胴下半縦ヘラ削り→縦ヘラナ デ 内面 胴上部横ヘラ磨き→胴下半斜め横ヘラナデ 文様 胴上部波状文 2 段→胴中～下部羽状櫛	外面・断面スス、内面 中位ヨゴレ、下位コゲ 覆土中
5	高 坏 脚 部	口 — 底 8.7 高 (7.0)	胎 緻密 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 ヘラナデ→部分的にヘラ磨き 内面 脚部ヘラナ デ→下端横ナデ、坏部横ヘラナデ 外面・坏内面上部赤色塗彩	北西際床直
6	小型壺 口縁		口縁短かく外反し、横ナデ無文、口唇部刻み、微砂粒を含む、鈍い橙色、内面赤色塗彩 東壁+11		
7	埴か高坏		坏部、口縁端やや立ち上がる、内外面とも赤色塗彩、砂粒を含む 覆土中		
8	甕 口縁		外面縦ハケ→口縁端横ナデで無文、内面横ハケ、砂粒を含む、灰黄褐色、外面スス 覆土中		
9	甕 口縁		口縁部外反、横ナデ無文、くびれ部単節簾状文 (6 条)、胴上部波状文、砂粒を含む、灰褐色 入口周辺+11		

## 白倉 C 区 7 号住居跡出土土器 図138 PL81

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	高 坏 坏 部	口 16 底 — 高 (6.6)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 地は黄橙～褐灰色	口縁立ち上がり気味 外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内外面とも赤色塗彩	柱穴 2 周辺+15
2	高 坏 坏 部	口 — 底 — 高 (6.5)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ないし斜め縦ヘラ磨き 内面 横ナデ→ヘラ磨き 内外面上半赤色塗彩	覆土中
3	小型高坏 脚 部	口 — 底 8.0 高 (3.1)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 黄褐色	外面 横ヘラ磨き、赤色塗彩 内面 横ナデ	炉周辺+18

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	壺 底部	口 一 底 13 高 (5.7)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 ヘラ削り→縦ヘラナデ、底面ヘラ削り→ヘラナデ 内面 ナデ、器面の摩耗が目立つ	北西+34
5	甕 底部	口 一 底 7.4 高 (2.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ削り、底面ヘラ削り→ヘラ磨き 内面 ナデ	外面・断面スス 東壁+47
6	土製紡錘車	径 5.1 孔径 0.7 厚 1.2	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし 鈍い赤褐色	外面 不定方向ヘラナデ 断面は低い山形を呈する	中央+26
7	甕(?)				
8	壺				
9	甕				
10	甕				
11	壺				
12	甕				
13	壺				
14	甕				
15	壺				

白倉C区8号住居跡出土土器 図137 PL81

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁部	口 16.6 底 一 高 (5.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 淡黄色	外面 縦ヘラナデ→口唇部横ハケ→口縁横ナデ 内面 横ナデ、赤色塗彩 文様 口唇部に間隔をあけ刻み	北際床直
2	台付甕 口縁部～ 胴部	口 11.2 底 一 高 (6.8)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 鈍い橙色	外面 器面の剥落が著しい 内面 横ナデ後横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文、口唇部押圧(櫛?)	外面・内面口縁端部スス、 体部中位ヨゴレめぐる 南東壁床直
3	甕 胴部～底部	口 一 底 5.2 高 (6.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦ヘラナデ→下端は横ヘラナデ、底面ヘラ削り→ヘラナデ 内面 ヘラ削り→横ヘラ磨き	外面スス、内面体部コグ・ヨゴレ 南西壁床直～+6 (3片)
4	壺 口縁				
5	壺				

白倉C区9号住居跡出土土器 図138 PL81

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 一 底 一 高 (22.5)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴中位横ヘラ削り、胴下部縦ヘラ削り→縦ヘラ磨き 内面 横ハケ→横ナデ 表面の摩耗が著しい	甕として転用、外面胴中位と断面にスス付着 中央床直
2	甕 底部	口 一 底 5.8 高 (2.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色		外面スス 炉周辺床直

1 弥生住居出土遺物

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	甕 底部	口 — 底 6.2 高 (2.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い明赤褐色	外面 横ナデ→縦ヘラナデ	外面スス 覆土中
4	甕 口縁	外面縦ハケ→口縁端部横ナデ、砂粒を多く含む、鈍い赤褐色、外面スス 柱穴1周辺+5			
5	甕 口縁	口縁端波状文、くびれ部→胴上部波状文(上→下)、砂粒を含む、灰黄色 炉周辺床直			
6	甕	くびれ部単節簾状文、砂粒を含む、暗赤褐色、外面スス 覆土中			
7	甕	くびれ部単節簾状文→胴上部波状文、砂粒を含む、橙色、外面スス 中央+12			

白倉C区14号住居跡出土土器 図139 PL82・83

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁	口 17.2 底 — 高 (6.4)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦ハケ→縦ナデ→上半横ナデ 内面 横ナデ 文様 頸部単節簾状文	外面スス 中央床直+7 (2片)
2	高坏 脚部	口 — 底 — 高(11.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き、赤色塗彩 内面 坏部横ナデ、脚部指ナデ	内底部・脚部内側にスス 北床直
3	甕 口縁	口縁短かくやや立ち上がり気味、波状文、口唇部押圧、くびれ部簾状文、砂粒を含む、橙色 覆土中			
4	壺か高坏	外面ヘラ磨き無文、緻密、砂粒を含む、橙色、内面赤色塗彩 東際床直+7 (2片)			
5	甕 口縁	口縁横ナデ無文、口唇部刻み、微砂粒を含む、鈍い橙色 覆土中			
6	甕? 口縁	受け口状口縁、横ナデ無文、微砂粒を含む、灰褐色、外面スス 覆土中			
7	壺 口縁	外面斜め縦ハケ→縦ヘラナデ、口縁端横ナデ無文、口唇部間隔をあけた鋭い刻み、砂粒をやや多く含む、鈍い浅黄褐色 内面赤色塗彩 覆土中			
8	甕	胴下部羽状櫛描文、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 柱穴3周辺+8			
9	甕	胴上部波状文(上→下)、微砂粒を含む、鈍い橙色、外面スス 覆土中			
10	甕	くびれ部単節簾状文→口縁部波状文、砂粒をやや多く含む、橙色 西+9			
11	甕 底部	外面ヘラ削り、内面横ナデ、砂粒を含む、鈍い橙色 覆土中			
12	高坏	外面・坏部内面赤色塗彩、砂粒を多く含む 柱穴1内			

白倉C区30号住居跡出土土器 図141 PL82・83

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	坏	口 13.0 底 3.8 高 4.1	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	内外面とも横ヘラ磨き、赤色塗彩 底面ヘラ削り、ナデ	中央床直
2	小型高坏 脚部	口 — 底 — 高 (3.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色～褐灰色	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ナデ	掘り方
3	壺	口 — 底 8.4 高(11.3)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 斜め横ヘラ磨き、下端横ヘラ磨き 内面 横ナデ、剥落	外底縁スレ、断面スス 6と同一個体 西床直
4	甕 口縁	口縁 LR 縄文 覆土中			
5	小型甕	胴中位 LR 縄文、微砂粒を含む、橙色 覆土中			
6	壺	胴上部 RL 縄文、砂粒を多く含む、浅黄色 東			

遺物観察表

白倉C区32号住居跡出土土器 図139 PL82・83

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型甕	口 14.9 底 6.7 高 15.9	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙～暗赤褐色	外面 口縁は縦ないし斜め縦ナデ後口縁端横ナデ、口唇部に不定間隔に押圧文(櫛)、胴下部縦ハケ→斜め縦ないし縦ナデ、底面ナデ、内面 口縁部横ナデ、胴部横ハケ→横ナデ 文様 くびれ部単節簾状文2段(左回転)	外面体部上位～口縁端部にスス、内面体部中にヨゴレ帯 南西床直
2	壺 胴上部	口 — 底 — 高(15.0)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴部縦ヘラ削り→部分的に縦ヘラ磨き 内面 斜め横ヘラナデ 文様 くびれ部単節簾状文→胴上部波状文(4条)1段	南西+6～+16
3	小型壺 底部	口 — 底 6.9 高(2.4)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラナデ→下端横ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ハケ 外面赤色塗彩	南西+9
4	甕 口縁			外面縦ハケ→縦ヘラナデ、口縁部端横ナデ、無文、内面横ハケ→横ナデ、砂粒をやや多く含む、鈍い赤褐色、内外面スス 南西壁際+7	
5	壺 口縁			口縁部やや立ち上がり気味、外面縦ハケ→横ナデ、口唇部刻み、内面赤色塗彩、砂粒を含む、鈍い黄橙色 覆土中	
6	甕 口縁			外面斜め横ハケ→口縁端横ナデ、口唇部刻み、砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス 覆土中	
7	壺			外面横ナデ無文、内面赤色塗彩、砂礫を含む、鈍い黄褐色 覆土中	
8	甕			くびれ部単節簾状文→胴上部波状文、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 覆土中	
9	甕			くびれ部単節簾状文(4条、逆どめ)、微砂粒を含む、黒褐色、外面スス 覆土中	
10	甕			外面ハケ→くびれ部単節簾状文(6条)→胴上部波状文1段→下側に羽状櫛描き、砂粒を含む、黒褐色 覆土中	
11	壺 底部			外面縦ヘラナデ→下端横ヘラナデ、底面ナデ、内面横ナデ、砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス 覆土中	

白倉C区34号住居跡出土土器 図140 PL82・83

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口～胴部	口 14.6 底 — 高(18.5)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 灰白色ないし浅黄橙色	外面 口頸縦ハケ→口縁横ナデ、胴上部縦ハケ、胴中位横ヘラ削り→部分的に縦ヘラナデ 内面 横ヘラ削り→胴部部分的横ヘラナデ→口縁横ナデ 文様 くびれ部14条の横櫛描き→等間隔のヘラT字文	北-23
2	壺 口～胴部	口 13.8 底 — 高(12.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 淡黄色ないし灰白色	外面 口頸斜め縦ハケ→横ナデ、胴上部縦ないし斜め縦ハケ 内面 口頸横ナデ、胴部横ハケ→胴上半横ナデ 文様 くびれ部単節簾状文→胴上部波状文2段(上→下7条)、外面頸部・内面口縁端に剥落あり	外面全体・断面・内面口縁端部・体部数ヶ所に縦長にスス 南+15
3	壺 胴部	口 — 底 — 高(21.5)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 灰白色ないしにぶい黄褐色	外面 胴上部斜め縦ヘラ削り→縦ヘラ磨き、胴中位横ヘラ削り、ナデ→横ヘラ磨き、胴下部縦ハケ 内面 横ナデ	外面全体にスス、内面体部中にヨゴレ 炉周辺床直(2片)
4	甕 口縁～胴部	口 19.7 底 — 高(15.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明褐色	受け口状口縁 外面 口縁部斜め縦ハケ→口縁横ナデ、胴部横ないし斜め横ハケ→胴上半斜め縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ削り、ナデ→口縁横ナデ→全体に横ヘラ磨き 文様 口縁端波状文、くびれ部2節簾状文(9条)→胴上部波状文2段(上→下)	外面全体・内面口縁端部にスス、体部上位～中位にヨゴレ 東床直
5	甕 底部	口 — 底 8.0 高(5.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい赤褐色	外面 縦ヘラ削り→縦ヘラ磨き、底面ヘラ削り→ヘラ磨き 内面 底面指ナデ、胴下半横ヘラ磨き	外面スス、内面コゲ 覆土中

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	壺 口縁		受け口状口縁、微砂粒を含む	覆土中	
7	埴 口縁		内外面とも赤色塗彩→横へら磨き、緻密、砂粒を含む	覆土中	
8	壺 口縁		外面横ナデ無文、内面赤色塗彩、砂粒をやや多く含む、黄橙色	南+23	
9	甕 口縁		外面縦ハケ→ナデ、くびれ部単節簾状文（逆回転）口縁部波状文2段、砂粒を含む、黒褐色、外面スス	炉周辺+13	
10	甕 口縁		口縁端がやや立ち上がり気味、波状文4段以上（上→下）、砂粒を含む、暗褐色、外面スス	南+22	
11	甕		胴上部波状文→その下側に羽状櫛描き（7条）、砂粒をやや多く含む、鈍い黄橙色、外面スス、内面ヨゴレ	中央+7	
12	小型甕		くびれ部単節簾状文（12条）、下側に波状文→胴上部横へら磨き、緻密、鈍い黄褐色、外面スス	覆土中	
13	甕		胴部羽状櫛描き（9条）、緻密、砂粒を含む、赤褐色、外面スス	北+11	

## 白倉C区35号住居跡出土土器 図141・142 PL83・84

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口～胴部	口 21.0 底 — 高 (33.8)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 橙色ないしにぶい橙 色	口縁端立ち上がり気味、最大径が胴中位よりやや下にくる 外面 胴上半縦ハケ、胴中位斜め横ハケ、胴下半縦ハケ 内面 横へらナデ 文様 くびれ部～胴上半にかけて波状文5段（上→下、6条）、口縁端波状文	外面スス、内面体部下 ～中位ヨゴレ、下位コ ゲ 床直～+15（8片）
2	鉢	口 20.6 底 8.2 高 (9.7)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 黒褐色	口唇部外側から内側へ押圧 外面 縦へら削り→口縁横 ナデ、体部縦へら磨き 内面 横ハケ→横ナデ	外面スス、内面下位に ヨゴレ 覆土中
3	甕 口～頸部	口 15.4 底 — 高 (4.9)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	口縁端受け口状をなす、口唇部押圧 外面 縦ハケ→口 縁端横ナデ 内面 横ナデ→横へら磨き 文様 くびれ部単節簾状文	外面スス 柱穴4内（2片）
4	壺 胴部	口 — 底 — 高 (13.8)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 にぶい橙ないし橙色	胴中位に最大径がくる 外面 縦ハケ→縦へらナデ、部 分的に横ナデ 内面 横ナデ 文様 くびれ部単節簾状 文→胴上部波状文2段（上→下、7条）	外面体部中～上位にス ス 貯蔵穴周辺床直～ +20（9片）
5	壺 胴部	口 — 底 — 高 (10.8)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴中位斜め横へら削り、胴下半縦へら削り→縦へ ら磨き 内面 横へら磨き 文様 胴上部波状文2段	外面スス、内面体部中 ～下位ヨゴレ、下位コ ゲ 柱穴2内
6	甕	口 — 底 7.2 高 (3.2)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 浅黄色	外面 縦ハケ→縦へら磨き、底面ナデ 内面 横へら磨き	外面スス 柱穴4周辺床直
7	甕	口 — 底 — 高 (5.7)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 へら削り後横ナデ 内面 横ハケ→ナデ 文様 くびれ部単節簾状文→胴上部波状文	入口周辺床直
8	甕 口縁		くびれ部単節簾状文2段、口縁部無文、口唇部鋭い刻み、砂粒を含む、鈍い黄橙色	柱穴4周辺+13	
9	小型甕?		口縁無文、内面赤色塗彩、緻密、砂粒を含む、鈍い黄橙色	覆土中	
10	壺 口縁		受け口状口縁、口縁端波状文、文様帯部分を除いて内外面とも赤色塗彩、砂粒を含む、鈍い橙色	覆土中	
11	壺 口縁		受け口状口縁、口縁端波状文、口唇部深い刻み、口縁無文、緻密、微砂粒を含む、暗赤褐色、外面スス	柱穴2内	
12	甕		ずん胴に近く、くびれ部単節簾状文（8条）→胴上部波状文2段、砂粒をやや多く含む、明黄褐色、外面・断面スス、内面ヨゴレ	覆土中	
13	甕		羽状櫛描文、砂礫を含む、鈍い黄褐色、外面スス、内面ヨゴレ	柱穴2周辺+13	
14	甕		くびれ部単節簾状文→胴上部波状文（上→下）、砂粒をやや多く含む、黒褐色	入口周辺床直	

遺物観察表

白倉C区39号住居跡出土土器 図142・143 PL83・84

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～頸部	口 22.5 底 — 高(10.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ヘラ削り→縦ヘラナデ→口縁横ナデ 内面 斜め横ヘラナデ→口縁横ナデ、内面の剥落が目立つ 文様 口縁端波状文、くびれ部単節簾状文(10条) →胴上部波状文	外面スス 柱穴1周辺床直
2	壺 口縁～頸部	口 15.8 底 — 高(9.6)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	口唇部押圧 外面 縦ヘラ削り→口縁横ナデ 内面 横ナデ→口縁横ヘラ磨き、内面剥落 文様 くびれ部単節簾状文(10条)→胴上部波状文	外面スス 柱穴2内床直
3	甕	口 20.0 底 7.0 高 25.2	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 淡黄色	外面 口頸から胴上部縦ないし斜め縦ハケ→口縁端・くびれ部横ナデ、胴上部斜め縦ヘラ削り 内面 ハケ→口頸部横ヘラナデ、胴下部横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文2段(上→下、9条)、胴上部斜行櫛描き、胴部内面赤色塗彩	外面全体にスス、底部ススけ、内面体部中位までヨゴレ 柱穴2・3(2片)
4	甕 底部	口 — 底 6.2 高(2.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 ヘラ削り→縦ヘラナデ 内面 ナデ→横ヘラ磨き	外面ススけ、内面ヨゴレ 中央+5
5	甕 底部	口 — 底 7.4 高(5.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 にぶい赤褐色	外面 縦ヘラ削り→底部下端横ヘラ削り、底面ナデ 内面 底面指ナデ→体部ナデ	内面ヨゴレ 北+15
6	壺 胴部	口 — 底 — 高(24.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないしにぶい橙色	外面 ヘラ削り→部分的にハケ→胴上部縦ヘラ磨き 胴中位横ヘラ磨き、胴下部斜め横ヘラ磨き 内面 横ナデ、器面の剥落が著しい	外面スス 柱穴3周辺
7	高坏	口縁	外面縦ハケ→横ナデ、内面赤色塗彩、砂粒を少し含む、灰白色 東+7		
8	壺	口縁	外面斜め縦ハケ→口縁端横ナデ、無文、内面の剥落が著しい、砂粒を多く含む、浅黄褐色 柱穴3周辺+15		
9	甕?	口縁	外面斜め縦ハケ→ナデ、砂粒を含む、明褐色、外面スス、内面スス・ヨゴレ 柱穴1周辺+9		
10	壺	口縁	外面縦ハケ→くびれ部簾状文(又は十字文)、胴上部波状文(9条)、砂粒を含む、外面スス 柱穴3周辺+14		
11	壺	口縁	くびれ部単節簾状文(6条、逆どめ)、胴上部波状文、砂粒をやや多く含む、浅黄褐色、外面スス 覆土中		
12	壺	口縁	外面胴下部縦ハケ→縦ナデ、内面斜め横ハケ→横ナデ、砂粒をやや多く含む、灰白色、外面スス 中央+18		
13	甕	口縁	くびれ部単節簾状文2段、胴上部波状文1段その下側に羽状櫛描、口縁部波状文、砂粒をやや多く含む、黒褐色、外面スス 北+7		

白倉C区47号住居跡出土土器 図144 PL85・86

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴部	口 17.9 底 — 高(24.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 灰白色	外面 口頸縦ハケ、胴上部縦ないし斜め縦ハケ→口縁上部・頸部横ナデ、胴部部分的にナデ 内面 横ないし斜め横ハケ→口縁上部・胴部横ナデ 文様 くびれ部単節簾状文→胴上部波状文2段(6条)	加熱痕 西床直
2	壺 胴上部	口 — 底 — 高(11.5)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 明黄褐色 ないしにぶい黄褐色	外面 縦ハケ→胴上半縦ヘラナデ、胴中位斜めヘラ削り 内面 斜め横ハケ→横ヘラナデ 文様 胴上部波状文2段以上(7条)	外面スス、内面コゲ・剥落 入口周辺床直
3	甕		くびれ部単節簾状文、胴上部波状文、緻密、微砂粒を含む、明黄褐色 掘り方		
4	壺		くびれ部T字文(ヘラ描)、微砂粒を含む、灰白色 掘り方		

白倉C区53号住居跡出土土器 図143 PL85・86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 — 底 10.2 高 (3.9)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 黒褐色	外面 縦ヘラ削り、下端横ヘラ削り 内面 横指ナデ	外面スス、内面コゲ 柱穴4周辺+5
2	壺			くびれ部簾状文(単節?)、胴上部波状文2段(上→下)、文様帯を除き赤色塗彩、緻密、浅黄色	北西床直

白倉C区55号住居跡出土土器 図144 PL85・86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 15.0 底 — 高 (19.0)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 におい黄橙色	ずん胴形 外面 横ないし斜め縦ハケ→口縁横ナデ、胴部部分的にナデ 内面 横ないし斜め横ハケ→口縁横ナデ、胴下半斜め横ヘラナデ 文様 くびれ部単節簾状文(7条)	外面スス、内面下位にコゲ、中～上位にコゲ・ヨゴレ帯 南東床直
2	甕	口 16.0 底 — 高 (10.1)	胎 緻密、微砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 におい黄橙色	口縁は立ち上がりぎみ 外面 縦ハケ→横ナデ 内面 横ナデ→横・斜め横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文(7条)→胴上部波状文1段、口唇部押圧による細かい刻み	外面・内面口縁端部までスス、内面体部中位ヨゴレ 柱穴4周辺床直～+11(4片)
3	甕 底部	口 — 底 7.0 高 (4.7)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 におい褐色	外面 縦ハケ→縦ナデ、底面ヘラ削り→磨き 内面 縦ハケ→ナデ	外面スス、外底縁スレ 内面コゲ・ヨゴレ 覆土中・+11(2片)
4	壺 底部	口 — 底 9.0 高 (4.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ないし斜め縦ナデ→斜め横ヘラナデ、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ヘラナデ 外面赤色塗彩	外底縁スレ 柱穴4内
5	壺 底部	口 — 底 10.6 高 (6.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明褐色ないしにおい橙色	外面 縦ヘラ削り→ヘラナデ、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ナデ→ヘラナデ 内面は全体に黒色を呈する	外面スス、外底縁スレ 貯蔵穴周辺床直
6	甕 口縁			外面縦ハケ→口縁端横ナデ、くびれ部単節簾状文、口唇部間隔をおいた刻み、砂粒をやや多く含む、鈍い褐色、外面スス 入口周辺+7	

白倉C区72号住居跡出土土器 図145 PL85・86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁～胴部	口 21.7 底 — 高 (19.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	口唇部押圧 外面 口縁～胴上部ハケ→ナデ→部分的に縦ヘラ磨き、胴下部横ハケ→横ヘラナデ 内面 口縁～胴上部横ないし斜め横ハケ→口縁横ナデ、胴下部横ナデ 文様 くびれ部単節簾状文(7条)→波状文上下に1段	外面口縁端までスス、内面体部中位にヨゴレ 柱穴1内
2	壺 頸～胴部	口 — 底 — 高 (11.5)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 縦ハケ→くびれ部より縦ヘラナデ 内面 縦ヘラナデ	外面スス、内面体部中位に薄いヨゴレ 東床直
3	甕 底部	口 — 底 6.0 高 (6.7)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ハケ→縦ヘラナデ 内面 横ないし斜め横ハケ→底面指ナデ	中央+31

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	高 坏	口 一 底 9.2 高(13.0)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 縦ヘラ磨き、脚部下端横ナデ 内面 横ヘラ磨き、 坏部・脚部とも横ヘラ磨き 脚部内面は全体に黒色を呈 する 外面・坏部内面赤色塗彩	北床直
5	高坏 口縁	口唇部間隔をおいた刻み、内外面 赤色塗彩、緻密、浅黄橙色 覆土中			
6	甕	くびれ部簾状文→胴上部波状文（上→下）、砂粒を含む、暗褐色、外面スス、内面ヨゴレ 覆土中			
7	壺	くびれ部単節簾状文（逆どめ）、内面剥落、砂粒を多く含む、淡黄色 覆土中			

白倉C区90号住居跡出土土器 図145 PL85・86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 一 底 7.2 高 (1.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 灰白色・鈍い黄橙色	外面 下端横ナデ→縦ヘラナデ、底面ヘラ磨き 内面 横ナデ	外面スス 柱穴1周辺+11
2	高 坏	口 一 底 一 高 (6.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ナデ 外面赤色塗彩	内底面スス 柱穴1周辺床直
3	土製紡錘車	径 (4.6) 厚 1.3 孔径 (0.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	表裏面 不定方向のハケ、側面ナデ 焼成前に穿孔	南壁-22
4	甕 口縁	口縁部無文、くびれ部単節簾状文（8条以上）、口唇部押圧、砂粒をやや多く含む、明褐色 柱穴1周辺+18			
5	甕	羽状櫛描き、内面横ヘラ磨き、砂粒をやや多く含む、橙色、外面スス付着 柱穴1周辺+18			

白倉C区91号住居跡出土土器 図143 PL86

1	甕 口縁	口縁短かく外反、くびれ部単節簾状文、緻密、黒褐色、外面スス 覆土中			
2	壺	外面縦ハケ→胴上部波状文2段（10条、上→下）、砂粒を含む、灰白色 覆土中			
3	甕	くびれ部単節簾状文、胴上部波状文、砂粒を含む、暗褐色、外面スス 覆土中			
4	壺?	胴部単節簾状文（5条）、外面赤色塗彩、緻密 覆土中			

天引2号住居跡出土土器 図146 PL89

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	高 坏? 口縁~胴	口 14.8 底 一 高 (5.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 口縁横ヘラ磨き、体部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内外面赤色塗彩	覆土中
2	甕	外面口縁から頸部細かい縦ハケを充填、くびれ部2節簾状文（6条）→胴上部波状文2段（上→下）、砂粒をやや多く含む、明黄褐色、外面スス、内面薄いヨゴレ 中央床直			

## 天引4号住居跡出土土器 図146・147 PL87・89

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 16.2 底 — 高 (18.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	口縁部は直立ぎみ 外面 口縁斜め縦ハケ→上半部横ナデ、胴中位横ヘラナデ 内面 横ナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文、口縁斜め櫛、胴上半部横走羽状櫛、口唇部刻み	外面スス厚く附着、内面口縁端スス、体部上位ヨゴレ 柱穴2内
2	小型甕 頸部~胴部	口 — 底 — 高 (9.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 胴下半縦ヘラ磨き 内面 横斜め横ヘラナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文(9条)→胴上部波状文3段(上→下)	外面スス、内面体部中位ヨゴレ 南床直
3	高坏 坏部	口 13.2 底 — 高 (4.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	外面 口縁端横ナデ、体部横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内外面赤色塗彩	炉周辺+15
4	壺	口 — 底 14.8 高 (31.4)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	内外面とも剥落、摩耗が著しい	床直~+18 (7片)
5	壺 底部	口 — 底 8.2 高 (3.9)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗褐色	外面 縦ハケ→縦ヘラナデ、底面ナデ 内面 横ナデ	西南+12
6	壺 底部	口 — 底 8.5 高 (2.6)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗褐色	外面 横ヘラ削り、底面ナデ 内面 横ナデ	外面スス、内面体部コゲ 柱穴3周辺床直
7	甕			くびれ部2節簾状文2段(下→上、10条)、上側に接して波状文、胴上部波状文3段(上→下)、緻密、砂粒を含む、明黄褐色、外面スス 炉周辺床直	
8	甕 底部			外面縦ヘラ磨き、内面横ヘラ磨き、砂粒を含む、黒褐色、外面スス 西+12	

## 天引5号住居跡出土土器 図147 PL89

1	壺			胴上部波状文4段以上、内面剥落、微砂粒を多く含む、橙色、外面スス 柱穴1周辺床直	
2	甕			くびれ部2節簾状文(9条)、胴上部波状文、内面ヘラ磨き、緻密、明黄褐色ないし暗褐色、外面スス 覆土中	

## 天引12号住居跡出土土器 図147 PL87

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 12.6 底 — 高 (18.7)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面胴部中位にスス 中央+9
2	甕 完形	口 14.6 底 8.4 高 22.4	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄褐色ないし鈍い褐色	折り返し口縁 外面 口縁端横ナデ、縦ハケ→縦ヘラナデ→口頸部縦ヘラ磨き、胴部斜め横ヘラ磨き、底部寄り縦ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 口縁端横ナデ、口縁部横ヘラ磨き、胴部ナデ、無文	外面全体に強いスス 胴部下位に剥落 内面全体に強いヨゴレ 剥落後も使用 南床直
3	甕	口 10.0 底 — 高 (6.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	内面 横ヘラ磨き	内面コゲ 東+5
4	甕			外面胴中位横ヘラ磨き、下半部縦ヘラナデ、内面横ヘラ磨き、砂粒をやや多く含む、鈍い黄褐色、外面スス 東+5	

遺物観察表

天引19号住居跡出土土器 図147 PL87

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 胴下部～ 底部	口 ー 底 8.0 高(11.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 胴部斜め横ハケ、胴下端横へら削り 内面 横へら磨き、胴下部→縦へら磨き 文様 胴中位斜行櫛	外面スス、内面胴中位 スス、胴下～中位ヨゴ レ 中央床直
2	小型壺 底部	口 ー 底 5.2 高(4.8)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 斜め縦ハケ→斜め縦へら磨き、底面へら削り→ナ デ 内面 ナデ→斜め横へら磨き	外面スス  中央床直

天引22号住居跡出土土器 図148・149・150 PL87・88・89

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴部	口 22.6 底 ー 高(17.6)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙ないし灰褐色	外面 口頸部縦へら磨き、胴部横へら磨き 内面 横ナ デ→横へら磨き 文様 口縁端部波状文、くびれ部2節 簾状文(7条)→その上側に接して波状文1段、胴上部波 状文4段(上→下) 内面全体に黒色を呈する	外面スス  中央床直～+10(15片)
2	壺 口縁	口 21.0 底 ー 高(7.2)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	折り返し口縁 外面 口縁上半横へら磨き、口縁下半縦 へら磨き 内面 口縁上半横へら磨き、口縁下半斜め横 へら磨き、折り返し部下端に刻みを施した後にへら磨き をしている 内外面赤色塗彩	南床直・+7(2片)
3	壺 頸部～胴部	口 ー 底 ー 高(41.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	胴中位でくの字形に屈曲し、ソロバン玉形を呈する 外面 胴部横ハケ→横へら磨き→部分的に縦へら磨き 内面 器面の摩耗が著しい 文様 くびれ部単節簾状文 3段→胴上部波状文3段(上→下)、波状文は充填波状文 施文法は非常に粗雑である	外面一部ススけ、加熱 痕ではない  入口周辺+16・+22(2 片)
4	甕 口縁～胴部	口 17.6 底 ー 高(14.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 口縁横ナデ、胴中位以下横へら磨き 内面 横ナデ→横へら磨き 文様 口唇部刻み、くびれ 部2節簾状文(9条)、胴部波状文3～4段 波状文は充 填波状文	外面強いスス  南東壁際-30
5	甕 胴～底部	口 ー 底 6.6 高(6.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	外面 縦へらナデ、下端部横へらナデ、底面ナデ 内面 横へらナデ	外面スス  中央床直(2片)
6	甕 底部	口 ー 底 5.4 高(4.3)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 縦へら磨き 内面 横へら磨き	外面スス  貯蔵穴周辺
7	甕 底部	口 ー 底 7.2 高(2.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤灰色	外面 縦へらナデ、底面へら磨き 内面 ハケ→横ナデ	外面スス  中央+9
8	甕 底部	口 ー 底 7.1 高(4.7)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 灰白色	外面 縦ハケ→横ナデ 内面 横指ナデ	外面スス  南東床直
9	壺 底部	口 ー 底 11.6 高(9.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴下半斜め縦ハケ→斜め縦へらナデ、胴下端横へ ら削り、底面摩耗のため丸味をおびている 内面 全体に摩耗している 底面 靱痕か?	外面スス、底外縁スレ 内底面コゲ 中央床直～+28(3片)

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
10	台付甕 甕部	口 12.0 底 — 高(10.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 口縁横ナデ、胴中位横ハケ→横ヘラナデ、胴下半 縦ヘラナデ 内面 横ナデ→横ヘラ磨き 胴中位に円形貼付文(8ヶ)、無文	外面スス、内面体部下 ～中位にヨゴレ、底部 コゲ 中央床直(7片)
11	台付甕 口縁～胴部	口 15.0 底 — 高(7.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ、胴部縦ヘラ削り→横ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き、無文 内外面赤色塗彩 (12と同一個体か?)	二次加熱のため剥落し ている部分がある 南西床直
12	台付甕 脚部	口 — 底 10.6 高(4.9)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 暗赤褐色	外面 縦ヘラナデ 内面 横ヘラナデ (11と同一個体か?)	二次加熱のためいたみ が著しい 貯蔵穴周辺(2片)
13	高 坏 接合部～ 脚部	口 — 底 12.5 高(13.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色 ないし鈍い赤褐色	外面 坏部斜め縦ヘラ磨き、接合部横ナデ、脚部縦ヘラ 磨き、脚下端部横ヘラ磨き 内面 脚部横指ナデ、坏部 横ヘラ磨き 外面・坏部内面赤色塗彩	外面・断面スス 坏内底面剝離、脚内側 にスス 中央床直
14	台付甕 脚部	口 — 底 (8.6) 高 (8.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 脚部縦ヘラ磨き 内面 上寄り指ナデ、下半横ヘラ削り 外面赤色塗彩	外面接合部スス 坏内部・脚内部スス 貯蔵穴周辺
15	台付甕 脚部	口 — 底 9.0 高 (6.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色な いし鈍い褐色	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面スス 南西床直
16	壺 頸部～底部	口 — 底 11.0 高(59.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	胴中位でやや丸味をおびたくの字形に屈曲する 外面 胴上位～中位横ヘラ磨き、胴下部縦ヘラ磨き 内面 器面の摩耗が著しい 文様 くびれ部単節簾状文 2段→頸部波状文2段、胴上部波状文5段(上→下)→ 波状文に接して下側に単節簾状文2段、波状文は充填波 状文	底部外縁スレ 中央床直(7片)
17	壺 胴～底部	口 — 底 11.0 高(18.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き、下端横ナデ、底面ナデ 内面 剥落が著しい	外面・断面スス 床直～+15散在(5片)
18	壺 口縁	口唇部水平に開く、外面斜め横ヘラ磨き、内面横ヘラ磨き、口唇部刻み、無文、砂粒が多い、内外面黒色	南西+11		
19	壺 口縁	折り返し口縁、くびれ部2節(3節の可能性もある)簾状文、口縁無文、緻密、微砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面・口縁内側スス	北西床直		
20	甕 口縁	くびれ部簾状文、口縁部波状文2段、砂粒をやや多く含む、褐色色	覆土中		
21	台付甕口縁	口唇から口縁部波状文、くびれ部2節簾状文、緻密、赤褐色、外面・口縁内側にスス	西+28		
22	甕 口縁	折り返し口縁で垂直気味に立ち上がる、口縁部は短い、砂粒を含む、暗褐色、外面・口縁内側にスス	覆土中		
23	壺	胴上部波状文→2節(多節)簾状文→波状文→単節簾状文→沈線区画内に懸垂波状文、砂粒を多く含む、黒褐色、外面スス	中央+8		
24	壺	くびれ部2～3節簾状文、口縁ヘラナデ、無文、緻密、微砂粒を含む、橙色、内外面・断面スス	覆土中		
25	甕 底部	外面ヘラ削り→ナデ、底面ヘラ磨き、内面縦ヘラ磨き、緻密、微砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス	南+22		

## 天引42号住居跡出土土器 図151・152・153 PL89・90・92

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～ 胴上部	口 24.2 底 — 高(13.3)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 外面 口頸縦ヘラ磨き→横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部3節簾状文(5条) →胴上部波状文4段(上→下)(2と同一個体か?)	貯蔵穴周辺床直～+22 (5片)
2	壺 胴下部～ 底部	口 — 底 9.4 高(17.0)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き (1と同一個体か?)	貯蔵穴周辺+12～+26 (3片)

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	壺 口縁～頸部	口 19.4 底 — 高 (7.9)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	複口縁 外面 頸部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 口唇部・口縁部 (RL) 縄文 (6と同一個体か?)	内外面ススけ 東壁床直
4	壺 胴部	口 — 底 — 高 (21.4)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし明赤褐色	外面 縦ヘラナデ→胴中位から下半横ヘラ磨き、下端縦 ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 胴上部 RL 縄文 2 段 (2と同一個体か?)	外面スス 内面ヨゴレ 西壁床直
5	台付甕 口縁～ 胴下部	口 12.1 底 — 高 (14.1)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗赤褐色	折り返し口縁 外面 口頸縦ハケ→口縁横ナデ、胴部横 ヘラ削り→胴下半横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 折り返し部波状文、くびれ部 2～3 節簾状文 (10 条) →口頸部波状文 2 段(上→下)、胴上部波状文 2 段(上 →下)→波状文の下側に接して円形貼付文 (4 ヶ)、外面 胴下部・内面口縁部赤色塗彩	外面・口縁内部にスス 内面胴下位～中位にコ ゲ・ヨゴレ 中央床直
6	甕 口縁～ 胴上部	口 15.7 底 — 高 (14.9)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	折り返し口縁、球形胴 外面 胴下半横ヘラ磨き、口縁 部横ナデ 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部 2 節簾状 文 (19条) →口頸部波状文 3 段 (下→上) →胴上部波状 文 3 段 (上→下)、波状文は充填波状文	外面全体・内面口縁部 にスス 内面胴中位～ 上位にヨゴレ 東床直
7	甕 頸部～底部	口 — 底 7.0 高 (23.3)	胎 緻密、砂粒をやや多 く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴上部横ヘラ磨き、胴下部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部から胴上部波状文 5 段(上→下)、波状文は充填波状文、波状文の下端に接し て円形貼付文 (4 ヶ)	外面胴中～頸部スス、 内面胴下～中位コゲ、 胴上位～頸部ヨゴレ 柱穴 2 周辺床直 (3 片)
8	壺 胴下部	口 — 底 10.4 高 (22.5)	胎 緻密、砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 胴中位横ヘラ磨き、胴下部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ、剥落	中央床直
9	小型甕	口 8.3 底 3.1 高 7.1	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ないし斜め横ヘラ磨き (ミニチュアの可能性あり)	外面スス、内底面～胴 下部にかけて薄いヨゴ レ 貯蔵穴内
10	壺 底部	口 — 底 5.2 高 (2.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ削り、底面網代痕 内面 指ナデ	弥生中期 覆土中
11	小型壺? 底部	口 — 底 4.0 高 (1.7)	胎 緻密、砂粒を多く含 む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 横ないし斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	西際床直
12	壺 底部	口 — 底 8.4 高 (2.1)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 黒褐色	外面 横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ナデ→横ヘラ磨き	中央+14
13	台付甕? 脚部	口 — 底 6.4 高 (6.0)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 縦ヘラ磨き→下端部横ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ナデ、剥落	外面・断面スス 柱穴 3 内
14	壺 胴下部	口 — 底 7.2 高 (9.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし黒褐色	外面 縦ヘラ磨き→下端横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面底～体 部下位コゲ、下～中位 ヨゴレ 西際床直

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
15	大型壺 頸部～底部	口 — 底 15.6 高(64.5)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	胴中位でくの字形に屈曲する 外面 胴上部・胴下部縦 へら磨き→胴中位横へら磨き 内面 使用によるものと 推測され器面の剝落、摩耗が著しい 文様 くびれ部6 ～7節簾状文(13条)→胴上部波状文5段(上→下、10条) →その下側に接して4～5節簾状文 外面は文様帯及び 胴下部を除いて、内面は口縁部に赤色塗彩	入口周辺床直～+20 (9片)
16	台付甕			くびれ部2節簾状文→胴上部波状文2段、砂粒を含む、鈍い橙色、外面スス 覆土中	
17	甕			口縁縦ハケ無文、くびれ部2節簾状文→胴上部波状文、緻密、微砂粒を含む、鈍い赤褐色、外面スス 覆土中	
18	大型壺			胴上部波状文(上→下)、緻密、砂礫を含む、橙色 貯蔵穴周辺+16	

天引43号住居跡出土土器 図154 PL91

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 胴部	口 — 底 — 高(15.2)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 胴上～中位横へら磨き、胴下部縦へら磨き 内面 横へら磨き	外面体部中位にスス 貯蔵穴周辺+17
2	台付甕 口縁～胴部	口 12.0 底 — 高(9.2)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い橙色	折り返し口縁 外面 胴下部横ないし斜め横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2節簾状文(6条) →胴上部波状文2段(上→下)、施文が粗雑	外面スス、内面口縁ス ス、中～下位ヨゴレ 貯蔵穴周辺+12
3	埴 口縁～底部	口 14.0 底 4.2 高 5.6	胎 緻密、砂粒を多く含 む 焼 良好 色 橙色ないし赤褐色	外面 横へら削り→横へら磨き 内面 横へら磨き 内外面赤色塗彩	西北床直
4	小型高坏 完形	口 11.5 底 5.5 高 9.3	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 横へら削り→坏部上半横へら磨き、坏部下半縦へ ら磨き、脚部縦へらナデ 内面 坏部横へら削り→横へ ら磨き、脚部横指ナデ	柱穴4内
5	小型台付甕 接合部	口 — 底 — 高(2.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へらナデ 内面 甕部横へら磨き	外面スス 貯蔵穴周辺+10
6	小型台付甕 脚部	口 — 底 8.4 高 4.0	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	脚端部を外側に折り返し 外面 縦ハケ→横へら磨き 内面 横へらナデ	貯蔵穴周辺+10

天引53号住居跡出土土器 図156 PL92・131

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	大型浅鉢	口 25.0 底 — 高(12.0)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 鈍い橙色	内外面とも横へら磨き 成形及び胎土・焼成・色調が7と極似しているため異形 の甕の可能性もある	内外面スス 東際床直
2	小型甕 口縁～胴部	口 12.0 底 — 高(11.8)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 赤褐色～暗赤褐色	折り返し口縁 外面 口頸部縦ハケ→縦へらナデ、胴下 部横へら磨き 内面 横ナデ→横へら磨き 文様 折り返し部波状文、くびれ部2節簾状文(8条)→ 口頸部波状文3段(上→下)、胴上部波状文3～4段(上 →下)、波状文は充填波状文 外面胴下部赤色塗彩	外面スス・剝落 内面口縁端スス 柱穴4内

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	堝 口縁～底部	口 14.6 底 3.7 高 6.7	胎 緻密 焼 良好 色 ー	内外面とも横へら磨き 内外面赤色塗彩	覆土中
4	堝 口縁～底部	口 14.2 底 4.6 高 6.5	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	内外面とも横へら磨き 内外面赤色塗彩	底部スレあり 覆土中
5	小型甕 口縁～胴部	口 8.0 底 ー 高 (4.7)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 褐色	外面 LR 縄文 内面 横へら磨き	外面スス 中央床直
6	甕	口 ー 底 4.6 高 (1.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 にぶい橙色	外面 横へら磨き、底面へら磨き 内面 横へら磨き 底部に焼成前の穿孔 (0.9cm)	西床直
7	壺 底部	口 ー 底 6.0 高 (3.1)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 横へら削り→横へらナデ 内面 横ナデ、器面摩耗	外面スス 北西壁際+29
8	高 坏	口 ー 底 9.2 高 (5.7)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 へら削り→縦へらナデ→下端横ナデ 内面 接合部横指ナデ、下半部横ナデ	外面スス 西+13
9	器台 ミニチュア	口 3.3 底 4.4 高 3.4	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	手捏成形 下端輪積、外面 ナデ (上下が逆転して高坏の可能性もある)	炉周辺-13
10	土製紡錘車	厚 1.4 径 4.2 孔径1.3	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 ナデ	中央部分にスレあり 東床直
11	土製勾玉	長 3.4 厚 1.3 孔径 0.5	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い褐色	手捏成形	貯蔵穴周辺床直
12	土製勾玉	長 2.9 厚 1.5 孔径 0.4	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い褐色	手捏成形	覆土中
13	土製勾玉	長 4.2 厚 1.4 孔径 0.5	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 鈍い褐色	手捏成形	中央床直
14	甕 口縁	口縁横へら磨き無文、くびれ部3節簾状文、胴上部波状文、緻密、砂粒を含む、鈍い褐色、内外面スス			覆土中
15	壺 口縁	折り返し口縁、外面ハケ→へら磨きで無文、内面横へら磨き、砂粒をやや多く含む、黄褐色、外面スス			炉周辺+7
16	甕 口縁	口縁輪積痕を残す、砂粒を含む、暗褐色、外面スス			覆土中
17	甕 口縁	口縁波状文3段、口唇部刻み、緻密、砂粒を含む、褐色、外面スス			覆土中
18	甕 口縁	LR 縄文、輪積痕を残す、砂粒を多く含む、にぶい橙色			覆土中
19	甕 口縁	LR 縄文、砂粒をやや多く含む、鈍い橙色、外面スス			覆土中
20	甕	RL 縄文、内面横へら磨き、砂粒を含む、暗褐色、外面スス			炉周辺床直・+7 (2片)
21	台付甕	くびれ部簾状文、胴上部波状文2段(上→下)→胴下部横へら磨き、砂粒を含む、橙色～鈍い褐色			覆土中
22	土製匙	長 3.1 幅 3.9 厚 2.2	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	手捏成形 内外面ともへら磨き	覆土中

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
23	土製勾玉	長 3.1 厚 1.4 孔径0.4	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	手捏→ナデ	覆土中
24	壺 ミニチュア	口 4.4 底 — 高 (3.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	口唇部刻み 外面 口頸部横へら磨き、胴上部縦へら磨き 内面 横ナデ	

## 天引55号住居跡出土土器 図154・155 PL91・92

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 18.0 底 — 高(14.5)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	折り返し口縁 外面 口頸・胴下部縦へら磨き 内面 横へら磨き 文様 折り返し部波状文、胴下部波状文3段以上 内外とも器面の摩耗が著しい	外面スス 貯蔵穴周辺床直(3片)
2	甕 口縁へ頸部	口 15.6 底 — 高(10.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色ないし鈍い橙色	外面 縦ハケ→口縁端横ナデ→RL 縄文 内面 横へら削り→横へら磨き、部分的に縦へら磨き	外面スス 内面口縁スス 柱穴2内
3	甕	口 15.1 底 5.4 高 22.0	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	折り返し口縁 外面 口縁横ナデ、胴下部へら削り→へらナデ 内面 横へら磨き 文様 折り返し部波状文、くびれ部2節簾状文→口頸部波状文3段以上、胴上部波状文2段 内外面とも器面の剝落が著しい	外面全体にスス (口縁部・胴部・底部を図上復元) 南西+7
4	甕? ミニチュア	口 1.4 底 0.6 高 2.4	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	手捏	覆土中
5	壺 ? 底部	口 — 底 7.4 高 (3.9)	胎 砂礫を含む 焼 普通 色 黄褐色	外面 横走条痕、底面網代痕 内面 横ナデ	外面スス 弥生中期 貯蔵穴周辺
6	ミニチュア 土器	口 3.0 底 2.0 高 1.1	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	手捏	入口周辺床直
7	壺 底部	口 — 底 5.6 高 (2.7)	胎 緻密、砂礫を多く含む 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 縦ハケ→横へら磨き 内面 横へら磨き、内底面剝落	貯蔵穴内
8	短頸壺 口縁へ胴部	口 11.3 底 — 高 (8.9)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴下半横へら磨き 内面 へら磨き 文様 くびれ部3節簾状文(8条)→口縁波状文2段(上→下)、胴下部波状文4段(上→下)、波状文は充填波状文	外面スス 内面体部中位に薄いヨグレ 南東床直～+16(8片)
9	埴	口 14.4 底 4.0 高 7.5	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦へら削り→横へら磨き 内面 横へら磨き 内面は黒色を呈する	北東床直～+5(4片)
10	小型高坏 坏部へ脚部	口 8.4 底 — 高 (6.2)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦へら削り→縦ナデ→口縁横ナデ 内面 横ナデ	外面口縁部スス 北東+7
11	高坏 坏部へ脚部	口 — 底 — 高 (5.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 地は橙色	外面 坏部横へら磨き、脚部縦へら磨き 内面 坏部横へら磨き、脚部横ナデ 外面・坏部内面赤色塗彩	床直～+5散在(3片)

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
12	高脚部	口 — 底 10.0 高 (7.9)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 縦ヘラ磨き 内面 脚部横ナデ、坏部横ヘラ磨き 外面脚部黒色を呈する	接合部外面スス 貯蔵穴内
13	片口	口 7.4 底 5.4 高 11.7	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 暗赤褐色	折り返し口縁、口唇部に浅い片口が取りつく 外面 横ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き 文様 折り返し部・胴中に LR 縄文	外面全体にスス 内面体部中に帯状にヨゴレ 南西床直(2片)
14	壺	口 — 底 14.6 高(11.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラナデ 内面 横ヘラナデ 内面黒色を呈する	南東+5
15	壺	口 — 底 7.0 高 (2.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 黒褐色	底面中心が円形にくぼむ 外面 横ナデ 内面 ヘラナデ	底面～体下部にスス 北+24
16	甕底部	口 — 底 6.6 高 (3.7)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 横ヘラ削り 内面 横ヘラ削り→横ヘラナデ 内面黒色を呈する	西壁際+32
17	土製匙	長 8.5 幅 4.1 厚 2.1	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 ナデ 内面 指ナデ	柄が破損後も使用したため端部が丸味をおびる 入口周辺+5
18	甕口縁	折り返し口縁、折り返し部無文、口縁～胴上部 RL 縄文、砂粒を多く含む、鈍い橙色、内面朽痕	炉内床直		

天引56号住居跡出土土器 図157 PL93

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕頸部～底部	口 — 底 9.8 高(24.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明褐色～橙色	外面 胴上部横ハケ→横ヘラナデ、胴下部斜め縦ハケ→斜め縦ヘラナデ→縦ヘラ磨き 内面 胴上部横ハケ→横ヘラナデ、胴下部横ナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文(10条)→胴上部波状文2段(上→下)	外面体部中位～頸部にスス、内面中～下位に茶色の変色体 掘り方-3～-18(6片)
2	小型甕口縁～胴部(台付?)	口 11.6 底 — 高 (6.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 口縁横ナデ、胴部横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 胴上部波状文2段(上→下) 文様は器面調理によって消えている部分がやや多い	外面スス、内面口縁端スス、体部中～上位ヨゴレ 南東床直(5片)
3	甕口縁	口縁端波状文、口縁部無文、砂粒を含む、明黄褐色、内面黒色を呈する	覆土中		
4	壺	胴上部波状文、その下側に接して有刺突円形貼付文、砂粒を含む、明赤褐色	覆土中		
5	壺	くびれ部2節簾状文2段→胴上部波状文、砂粒を含む、明黄褐色	覆土中		
6	甕	胴上部2節簾状文、下側に波状文2段(6条)、砂粒を含む、暗褐色、外面スス、内面黒色を呈する	西南床直		
7	甕口縁	口縁斜め縦ハケ→口縁端横ナデで無文、くびれ部単節簾状文、砂粒を含む、明褐色～橙色、外面スス(1と同一個体)			
8	甕底部	口 — 底 7.4 高 (5.0)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 下端横ナデ→縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 底面指ナデ→横ヘラ磨き	外面スス、内面下位にコゲ 掘り方

天引58号住居跡出土土器 図157 PL93

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～頸部	口 18.8 底 — 高 (12.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	口縁端立ち上がり気味 外面 横ないし斜め縦ハケ→口縁端横ナデ→縦ヘラナデ 内面 横ハケ→口縁端横ナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文、胴上部波状文	内外面スス 中央
2	壺 底部	口 — 底 10.0 高 (4.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 縦ヘラナデ→部分的に縦・横ヘラ磨き 内面 器面の剥落が著しい 外面赤色塗彩?	底部スス 中央+38
3	手捏鉢 ミニチュア	口 7.3 底 3.6 高 3.7	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙ないし暗褐色	外面 縦ナデ 内面 横ナデ	北東+10
4	小型壺 口縁～胴部	口 8.8 底 — 高 (6.5)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ヘラナデ→口縁横ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラ磨き→くびれ部横ヘラ削り、無文	覆土中
5	壺 底部	口 — 底 (8.0) 高 (5.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い黄褐色	外面 ハケ→縦ヘラナデ、底面網代痕 内面 横ヘラナデ	外面スス 弥生中期 中央+21
6	甕 底部	口 — 底 7.2 高 (2.0)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 縦ハケ→横ナデ、底面ヘラ削り 内面 横ヘラ磨き	外面スス 炉内
7	台付甕口縁	くびれ部2節簾状文、口唇部刻み、砂粒をやや多く含む、黒褐色 覆土中			
8	台付甕口縁	くびれ部単節簾状文→胴上部・口縁部波状文→口縁端部円形貼付文、砂粒を含む、灰黄褐色、外面スス 入口周辺+15			
9	壺	胴上部波状文(上→下)、砂粒をやや多く含む、暗褐色～灰褐色、外面スス 入口周辺+7			
10	壺	胴上部波状文、その下側に沈線による有刺突鋸歯文、交点に有刺突円形貼付文、砂粒を含む、鈍い黄褐色、鋸歯文の区画部分赤色塗彩 北東+17			
11	甕	くびれ部2節簾状文、口縁部無文、内面横ヘラ磨き、緻密、微砂粒を含む、暗褐色、外面スス 覆土中			

天引60号住居跡出土土器 図155 PL94・97

1	甕 口縁	くびれ部2節簾状文(9条)、口縁部無文、口唇部刻み、砂粒を含む、明赤褐色、外面スス 中央+14・+16(2片)			
2	甕 口縁	口縁ないし斜め縦ハケ→口縁端横ナデ、無文、緻密、砂粒を含む、褐色 外面・口縁内側スス 覆土中			
3	甕 口縁	くびれ部2節簾状文(7条)→胴上部波状文1段、口縁上部波状文3段(上→下)、砂礫を含む、灰黄褐色、外面・口縁内側にスス 柱穴2周辺床直			
4	甕	くびれ部単節簾状文(9条)→胴上部充填斜行櫛描、砂粒やや多い、赤褐色、外面スス 炉周辺+13・+19(2片)			
5	甕	くびれ部2節簾状文→胴上部波状文2段(上→下)、砂粒を含む、暗褐色、外面スス 中央+6			

天引62号住居跡出土土器 図158・159 PL94・97

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～頸部	口 26.6 底 — 高 (16.8)	胎 砂礫を少し含む 焼 良好 色 橙色	口縁は2段の段状 外面 口頸部横ないし斜め横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 上側の突帯に RL 縄文、胴上部 RL 縄文、くびれ部付近の横断面が楕円形、外面口頸部無文帯と内面口頸部が黒色を呈する	外面スス 柱穴3周辺+6

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
2	壺 口縁～ 胴上部	口 21.4 底 — 高 (18.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い赤褐色	複口縁 外面 口頸部横ヘラ磨き、胴上部縦ヘラ磨き 内面 口頸部横ヘラ磨き、胴部横ヘラ削り→ヘラナデ、 くびれ部付近の横断面がやや楕円形	内外面・断面スス 柱穴 4 床直+12 (4 片)
3	甕 口縁～ 胴下部	口 14.1 底 — 高 (20.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色ないし暗赤褐色	外面 胴下部縦ヘラ削り→上寄り横ヘラ磨き、下寄り縦 ヘラ磨き 内面 ナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部 3 節簾状文 (8 条)→口頸部波状文 4 段 (上→下)、胴上部 波状文 4 段 (上→下)、波状文は充填波状文	外面全体・内面体部中 位～口縁端に強いス ス、体部下～中位にコ ゲ・ヨゴレ 西壁際床直
4	壺 (?) 底部	口 — 底 7.5 高 (5.3)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ナデ→横ヘラ磨き	内外面・断面スス  中央床直
5	甕 底部	口 — 底 6.8 高 (2.2)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	外面 横ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き	外面底～体部加熱剝 落?、スス、内面コゲ 1 号炉周辺+18
6	甕 底部	口 — 底 4.4 高 (2.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 黒褐色	外面 横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	断面スス  西際+8
7	甕 底部	口 — 底 5.0 高 (2.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	  西際+6
8	壺 ? ミニチュア? 底部	口 — 底 3.2 高 (1.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 ヘラ磨き 内面 横ナデ	覆土中
9	台付甕 口縁～胴部	口 11.5 底 — 高 (9.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし黒褐色	外面 胴下部横ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部 3 節簾状文 (10 条)→口頸部波状文 2 段 (上→下)、胴上部波状文 1 段	内外面口縁端部にスス 内面胴中位に帯状にヨ ゴレ 柱穴 4 周辺床直
10	塊	口 13.2 底 3.6 高 5.2	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗褐色ないし黒褐色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 器面の摩耗が著しい 内外面赤色塗彩	覆土中
11	高脚 坏部	口 — 底 — 高 (5.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 縦指ナデ	外面ススけ、断面スス  覆土中
12	甕 ミニチュア	口 5.8 底 1.0 高 2.8	胎 緻密、砂粒を少し含 む 焼 良好 色 鈍い橙色	折り返し口縁、内外面ともヘラ磨き 底面中央に径 0.8cm の穿孔 (焼成前)	北東壁際床直
13	壺 底部	口 — 底 16.3 高 (6.5)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 斜め横ないし縦ヘラ磨き 内面 器面の摩耗が著しい	1 号炉周辺+7
14	壺 底部	口 — 底 6.4 高 (3.6)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦ナデ→下端横ナデ、底面網代痕 内面 横ヘラナデ	外面スス 弥生中期 中央+17
15	甕 口縁	口縁輪積痕を残す、上に RL 縄文、砂粒を含む、明赤褐色、外面スス 貯蔵穴内			
16	甕	外面斜め横ハケを充填→胴上部波状文 2 段以上、砂粒を含む、明赤褐色、内外面・断面スス 覆土中			
17	壺	くびれ部 3 節簾状文 (10 条)→胴上部波状文 3 段以上 (上→下)、緻密、橙色 覆土中			
18	壺	胴上部波状文 (上→下)→下端に接して有刺突円形貼付文、砂粒を含む、暗赤褐色ないし暗褐色、外面スス 西際+9			

天引65号住居跡出土土器 図159・160・161 PL95・97

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 28.4 底 — 高(12.2)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明褐色ないし鈍い褐色	口縁は3段の段状 外面 縦ハケ→横ヘラ磨き 内面 横ヘラ削り→横ヘラ磨き	内外面・断面スス 柱穴1周辺床直(2片)
2	壺 口縁～頸部	口 18.9 底 — 高(6.0)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	複口縁 外面 口縁縦ナデ→LR 縄文、頸部縦ヘラ磨き、 口唇部縄文押圧 内面 横ヘラ磨き	覆土中
3	甕 口縁～胴部	口 15.5 底 — 高(11.7)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 赤褐色	口縁は2段の段状 外面 口頸部横ヘラナデ→横ヘラ磨き、くびれ部部分的に縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き→ 口縁部分的に縦ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文(6条)、胴上部波状文2段	外面口縁～胴・内面口縁にスス、外面胴部加熱によるアレ 柱穴1周辺床直(2片)
4	甕 口縁～胴部	口 10.7 底 — 高(6.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	口縁は2段の段状、輪積痕を残す 外面 横ヘラナデ→まばらに LR 縄文 内面 横ヘラ磨き	内外面口縁部スス 北床直
5	甕 口縁～頸部	口 15.8 底 — 高(6.9)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 ナデ→LR 縄文 内面 横ヘラ磨き	外面・内面口縁端部に薄いスス 覆土中
6	壺	口 — 底 — 高(10.1)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色ないし鈍い褐色	球形胴 外面 ヘラ削り→横・斜め横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き、無文	外面・断面スス、外面胴中位に加熱によるアレ 覆土中
7	甕	口 14.3 底 6.9 高 27.3	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 胴中位横ヘラ磨き→胴下部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部2～3節簾状文(3節が主体)→口頸部波状文5段(下→上)、胴上部4～5段波状文(上→下)、波状文は充填波状文	外面体中～口縁部・内面口縁端スス、内面中位帯状・下位に強いヨゴレ 北壁際床直
8	甕(?)	口 — 底 — 高(10.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ヘラ磨き→下端横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面体中～下位コゲ 床直～+21散在(4片)
9	壺(?) 底部	口 — 底(8.6) 高(7.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ヘラ削り→横ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ヘラナデ	外面スス、内面体下部コゲ・ヨゴレ 貯蔵穴周辺床直
10	塊 底部	口 — 底 4.0 高(2.8)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 褐色	外面 横ヘラ磨き、下端部縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内外面赤色塗彩	底部外縁スレ 中央床+11
11	壺 底部	口 — 底 7.8 高(2.7)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 縦ハケ→縦ナデ→下端部横ナデ 内面 横ナデ	外面スス 中央床+40
12	壺 胴～底部	口 — 底 9.8 高(19.5)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 褐色	外面 横ヘラ削り→横・斜め横ヘラ磨き 内面 ナデ→横ヘラ磨き	外面胴部・断面スス、内面体部コゲ・ヨゴレ 床直～+31散在(4片)
13	甕 底部	口 — 底 5.4 高(2.2)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 明赤褐色ないし鈍い赤褐色	外面 縦ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面体下部コゲ 柱穴1周辺床直
14	台付甕(?) 甕部	口 — 底 — 高(7.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 斜め横・斜め縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面胴下部スス、内面ヨゴレ 北壁際床直

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
15	高坏部	口 13.4 底 — 高 (7.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 ヘラ削り→横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 外面・坏部内面赤色塗彩	加熱痕なし 北床直
16	台付甕	口 11.2 底 7.8 高 14.0	胎 砂粒をやや多く含む 焼 普通 色 鈍い褐色	外面 甕部ヘラ削り→部分的に横ヘラ磨き、脚部縦ハゲ →縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き、無文	外面口縁～脚中位まで スス 脚下部加熱による 変色 2号炉内
17	台付甕脚部	口 — 底 7.0 高 (6.2)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし黒褐色	外面 脚部縦ヘラ磨き、接合部横ナデ 内面 甕部横ヘラ磨き、脚部指ナデ→横ナデ	東壁際床直
18	高坏接合部	口 — 底 — 高 (4.4)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 坏部横ヘラ磨き、脚部指ナデ	覆土中
19	塊	口 9.8 底 3.7 高 4.5	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし黒褐色	外面 横・斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 斜め横ヘラ磨き	北床+23
20	高坏(?)坏部	口 13.4 底 — 高 (4.2)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	貯蔵穴周辺床直
21	台付甕ミニチュア	口 2.5 底 2.1 高 3.7	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	甕下部から脚部は手づくね、甕上部は2段に輪積 外面 ナデ	東南際+10
22	鉢ミニチュア	口 1.8 底 1.7 高 3.0	胎 緻密、夾雑物をほとんど含まない 焼 良好 色 橙色	手捏成形後、外面縦ヘラ磨き	貯蔵穴周辺床直
23	匙形土製品	長 3.0 幅 2.7 厚 1.7	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	手捏、ナデ仕上げ	覆土中
24	匙形土製品	長 5.1 幅 2.7 厚 1.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	手捏、ナデ仕上げ、柄部破損	東際+17
25	台付甕口縁	口縁端水平に近く開く、くびれ部2節簾状文(6条)→下側に波状文、砂粒を含む、鈍い赤褐色、内外面スス			覆土中

天引74号住居跡出土土器 図164 PL94

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型壺底部	口 — 底 4.6 高 (2.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内外面赤色塗彩(外底面除く)	底部ススけ 北西壁際+35
2	壺底部	口 — 底 10.4 高 (2.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラナデ 内面 横ナデ 外面赤色塗彩	柱穴1内
3	匙形土製品	長 (4.6) 幅 3.2 厚 1.3	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	外面 全体に長軸方向の丹念なヘラ磨き	東床直

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	匙形土製品	長(4.1) 幅 2.0 厚(1.3)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 長軸方向のヘラ磨き	柱穴3周辺

## 天引84号住居跡出土土器 図162・163 PL96・97

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 27.5 底 — 高(27.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 外面 口縁横ナデ→口頸部縦ヘラナデ、 胴中～下部横ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ 文様 折り返し部の上下両端部刻み、くびれ部3～5節 簾状文→胴上部波状文5～6段(上→下)、波状文下端に 有刺突の円形貼付文、波状文は充填波状文	外面体部中位・頸部・ 内面口縁端に黒色が残 る 柱穴3内(8片) 周辺床直(2片)
2	壺 底部	口 — 底 13.6 高(6.4)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横・斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ナデ	貯蔵穴内
3	甕 口縁～頸部	口 15.4 底 — 高(8.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 暗褐色	口縁部に輪積痕を明瞭に残す 外面 横ナデ 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文(7条) 口縁部波状文4～5段、波状文は充填波状文	外面全体スス、内面口 縁端スス 柱穴3周辺床直(2片)
4	壺 口縁～頸部	口 18.6 底 — 高(7.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口頸部縦ヘラナデ→口縁横ナデ→横ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→横ヘラ磨き 文様 胴上部縄文施文 口縁部無文	外面スス、内面赤色が 残り頸部黒色に変色 か? 東床直
5	甕 底部	口 — 底 6.4 高(3.0)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 横・斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	底部～体部スス 貯蔵穴周辺+32
6	甕	口 — 底 4.6 高(11.5)	胎 緻密、砂粒を含む、 褐色粒が目立つ 焼 きわめて良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 縦ヘラ磨き→下端横ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き、下端横ナデ 文様 口唇部押圧、底 面中央に穿孔(0.9cm)	内底部に小さな刺突多 数あり(15～16) 南東+7
7	壺 胴下部	口 — 底 — 高(11.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ	加熱痕なし 中央床直(4片)北東 床直+11(6片)
8	甕	口 11.5 底 6.2 高 19.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色ないし鈍い赤 褐色	外面 口縁斜め縦ヘラナデ→横ヘラ磨き、胴部斜め横ヘ ラ削り→横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 無文	外面スス、内面体部中 ～上位ヨゴレ、底面ス レ 炉周辺床直+24(12片)
9	台付甕 口縁～ 胴下部	口 14.4 底 — 高(13.7)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし暗赤褐 色	折り返し口縁 外面 口頸横ナデ、胴中位横ヘラ磨き、 胴下部縦ヘラ磨き、下端横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨 き 文様 折り返し部波状文→円形貼付文(3ヶ)くびれ部 3節簾状文→胴上部波状文2段(上→下)、波状文の下側 に接して円形貼付文(4ヶ)、波状文は充填波状文	外面全体にスス 内面体部中位に帯状に ヨゴレ 柱穴2周辺床直
10	台付甕	口 10.4 底 — 高(6.2)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き 無文	外面中～下位スス、内 面体部下部コゲ、上位ヨ ゴレ 柱穴3内

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
11	小型台付甕	口 7.2 底 — 高 (4.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 暗赤褐色	折り返し口縁 外面 口縁胴上部横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部3節簾状文、磨きによって文様の一部が消えている 外面・内面口縁赤色塗彩	覆土中
12	台付甕	口 12.4 底 — 高 (6.7)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴部縦ハケ→口縁横ナデ→横ヘラ磨き 内面 胴部斜め横ヘラナデ→横ヘラ磨き 無文	外面全体にスス 内面口縁端スス 中央床直
13	高 坏	口 14.6 底 8.8 高 12.5	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 坏部横ヘラ磨き、脚部縦ヘラ磨き 内面 坏部横ヘラ磨き、脚部横ナデ 外面・坏部内面赤色塗彩	中央床直(5片) 散在 (2片)
14	台付甕 脚部	口 — 底 8.0 高 (5.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 赤褐色	外面 縦ヘラ磨き 内面 斜め横ハケ→部分的に指ナデ	外面スス 中央床直
15	埴	口 14.9 底 4.4 高 6.9	胎 砂粒を多量に含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 内面全体に黒色を呈する	北東床直～+18
16	壺	口 19.5 底 9.0 高 —	胎 砂礫を多く含む 焼 普通 色 橙ないし鈍い赤褐色	折り返し口縁 外面 胴中位横ヘラ磨き→胴下端縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ、ヘラ磨き 文様 くびれ部3～4節簾状文→口頸波状文2段、胴上部波状文5段(上→下)、波状文は充填波状文	外面底～下部スス・加熱痕、胴部スス 柱穴3内(4片)・炉周辺(4片)・床直散在(6片)
17	甕(?)	底部、砂粒を含む、灰褐色 覆土中			
18	甕	口縁～胴上部 LR 縄文、砂粒を多く含む、褐灰色、外面スス 柱穴3周辺床直+16(2片)			
19	壺	胴下部内外ともヘラ磨き、緻密、橙色 柱穴2内			
20	甕 口縁	口縁輪積痕をわずかに残す、無文、砂粒を含む、橙ないし鈍い赤褐色、外面スス 中央+17			
21	甕 口縁	口縁輪積痕を残す、砂粒を少し含む、鈍い橙色、無文、スス 覆土中			
22	小型台付甕	くびれ部2節簾状文、口縁部・胴上部波状文、砂粒を含む、鈍い橙色 覆土中			

天引85号住居跡出土土器 図161 PL98・99

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～頸部	口 10.0 底 — 高 (8.1)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ハケ→口縁上端横ナデ 内面 横ナデ 文様 くびれ部簾状文 内外の表面に剝落があり(特に内面)	内外面スス 入口周辺床直～+17 (5片)
2	甕	口 12.9 底 6.2 高 14.9	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 灰褐色ないし鈍い橙色	胴中位でく字形に屈曲する 外面 縦ハケ→口縁横ナデ、胴部ヘラナデ→頸部～胴部横・斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ削り→ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部斜め横ヘラナデ→横ヘラ磨き 無文	外面スス、内面体部中～頸部に黒色(ヨゴレか?) 入口周辺床直～+9(5片)
3	台付甕	口 14.8 底 — 高 (7.8)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	折り返し口縁、口唇部(7コ)・胴肩部(7コ)に円形貼付文 外面 横ナデ→胴部部分的に横ヘラ磨き 内面 横ナデ→横ヘラ磨き 無文	外面・口縁端内側スス 内面中～上位帯状にコゲ 入口周辺床直
4	台付甕	口 15.9 底 9.2 高 17.5	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色ないし暗赤褐色	外面 口縁横ナデ、胴部横ハケ、ヘラ削り→縦ヘラナデ 脚部横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→口縁～胴部横ヘラ磨き、脚部横指ナデ→横ナデ 文様 くびれ部2節簾状文(9条)→胴上部波状文1段(8条)	外面甕部の体部中に強いスス、内面口縁端にスス、体部中～上位に帯状に強いヨゴレ 柱穴4周辺床直

## 1 弥生住居出土遺物

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
5	甕(?) 底部	口 — 底 5.6 高 (2.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦ヘラ磨き、底面ヘラ削り→ヘラ磨き 内面 指ナデ 黒色を呈する	外面スス 東床+19
6	小型鉢	口 9.8 底 4.8 高 6.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	外面 横ナデ→上半部横ヘラ磨き、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ナデ→上半部横・縦ヘラ磨き 内外面赤色塗彩	南西床直
7	高坏 脚部	口 — 底 — 高 (5.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 器面の摩耗が著しい 内面 指ナデ→部分的にハケ 外面赤色塗彩	外面スス 入口周辺+19
8	高坏 接合部	口 — 底 — 高 (3.5)	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 赤褐色	外面 ナデ→縦ヘラ磨き 内面 坏部横ヘラ磨き、脚部ナデ 外面赤色塗彩	内外面スス 覆土中
9	台付甕口縁	くびれ部単節簾状文2段、口縁端内側波状文、砂粒を含む、鈍い橙色、外面スス、内面体部コゲ	覆土中		
10	甕	くびれ部2節簾状文→胴上部波状文2段以上(上→下、13条)、鈍い黄橙色、外面スス、内面ヨゴレ	入口周辺+18		
11	甕	外面口頸縦ハケ、くびれ部2節簾状文(8条)→胴上部波状文2段(上→下)、緻密、砂粒を含む、鈍い黄橙色、内外面スス	入口周辺+18		
12	壺(?)	砂粒をやや多く含む、鈍い赤褐色	柱穴4周辺床直		

## 天引91号住居跡出土土器 図164 PL99

1	高坏・坏部	口縁端が水平に近く開く、無文、砂粒を含む、橙色	柱穴4周辺床直
2	壺	外面縦ハケ、胴上部波状文、砂粒を含む、浅黄色	覆土中
3	壺(?)	外面横ヘラ削り、内面横ヘラ磨き	砂粒を含む、鈍い黄褐色 覆土中

## 天引100号住居跡出土土器 図165 PL98・99

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 18.3 底 9.2 高 19.5	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 口縁縦ヘラナデ→上端横ナデ、胴部横・斜め横ヘラナデ 内面 横ヘラナデ 文様 口唇部刻み、くびれ部単節簾状文(11条)→胴上部波状文3段(上→下、11条)	西壁+6
2	甕 口縁～胴部	口 21.2 底 — 高(15.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 縦ハケ→口縁横ナデ、胴部縦ヘラナデ 内面 横ハケ→胴部横ナデ→口頸横ヘラ磨き→口縁横ナデ 無文	外面強いスス、内面口縁部スス、胴中位ヨゴレ 西壁床直
3	台付甕	口 16.0 底 — 高 (8.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 灰黄色ないし黒褐色	外面 胴下部横ナデ→横ヘラ磨き 内面 口縁上端横ナデ→口縁～胴部横ヘラ磨き 文様 口縁上端波状文、くびれ部～胴上部波状文2段(上→下、7条)	外面スス、内面体部コゲ 北際床直
4	台付甕	口 13.5 底 — 高(13.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 暗褐色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ナデ→口縁～胴上部横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文(8条)、外面・口縁部内面赤色塗彩、くびれ部の簾状文部分は黒色(塗彩か?)を呈する	貯蔵穴内
5	高坏 坏部～ 接合部	口 — 底 — 高 (7.0)	胎 緻密 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 坏部縦ヘラ磨き、接合部横ヘラ磨き 内面 坏部横ヘラ磨き、脚部指ナデ 外面・坏部内面赤色塗彩	内外面・断面スス 西際床直～+6(2片)

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	高 坏	口 19.4 底 — 高 (4.8)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	内外面とも横へら磨き後に赤色塗彩	入口周辺床直 3片
7	小型台付甕	口 8.2 底 — 高(10.1)	胎 緻密 焼 良好 色 鈍い黄橙ないし橙色	外面 縦ハケ→口縁横ナデ、胴部縦指ナデ→縦ナデ 内面 横ナデ 文様 くびれ部単節簾状文(4条)→下 側にごく一部粗雑な波状文を施す	北際床直
8	壺 底 部	口 — 底 12.0 高 (7.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 器面の剝落が著しい	底部外縁スレ 貯蔵穴内
9	甕 口縁	口縁端立ち上がり気味、くびれ部単節簾状文、口縁部斜め縦ハケ、無文、砂粒を含む、鈍い黄橙色 外面・内面口縁端部スス 柱穴2周辺+33			
10	甕 口縁	口縁波状文、口唇部刻み、砂粒を含む、鈍い褐色、内外面スス 覆土中			
11	壺 口縁	口縁端立ち上がり気味、口縁無文、砂粒をやや多く含む、鈍い橙色 覆土中			
12	甕	くびれ部2節簾状文(9条) 胴上部口縁上半部波状文、微砂粒を含む、鈍い黄橙色、外面・断面スス 覆土中			

天引105号住居跡出土土器 図164 PL98

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	高 坏	口 — 底 — 高(14.0)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦へら磨き 内面 坏部横ナデ、脚部横ナデ 外面・坏部内面赤色塗彩	外面接合部スス、坏部 内面に一部スス 入口床直(2片)

天引108号住居跡出土土器 図164 PL99

1	壺	底部、外面縦へらナデ、内面の摩耗が著しい、砂粒を含む、暗赤褐色、外面スス、内面剝離 炉周辺床直			
2	壺	くびれ部簾状文→胴上部波状文2～3段(上→下)、砂粒をやや多く含む、橙色、内面黒色、外面スス 中央床直			

天引109号住居跡出土土器 図164 PL99

1	甕	くびれ部2節簾状文→胴上部波状文2段以上(上→下)、緻密、微砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 柱穴4周辺床直			
2	高坏	脚部、外面縦へら磨き、底面平らに整形、砂粒をやや多く含む、外面赤色塗彩 北壁際床直			
3	壺(?)	底部、外面縦へら磨き、内面ナデ、砂粒を含む、鈍い赤褐色 柱穴3周辺床直			

天引110号住居跡出土土器 図166 PL99

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	大型高坏(?) 口縁部	口 31.0 底 — 高 (6.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 口縁横ナデ→横へら磨き 内面 横へら磨き	内外面ススけ 入口周辺床直・+10(2片)
2	壺	口 — 底 — 高(16.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 胴下部斜め縦へら磨き 内面 横へら削り→横へら磨き 文様 くびれ部3節簾状文→胴上部波状文5段(上→下、8条)、波状文の下側に接して円形貼付文(剝落)、波状文は充填波状文	内外面・断面スス 柱穴4周辺床直

## 1 弥生住居出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	甕 口縁部	口 14.1 底 — 高 (4.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	内面 横へら磨き 文様 波状文3段(下→上)、波状文は充填波状文	外面・内面口縁端スス 貯蔵穴周辺床直
4	台付甕	口(11.0) 底 — 高 (5.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 横ナデ 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2節簾状文→口縁部波状文3段(下→上4条)、胴上部波状文は充填波状文	外面・断面スス 東南床直
5	高坏 脚部	口 — 底 — 高 (5.0)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 横ナデ	入口+14
6	甕 胴部	口 — 底 — 高(15.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 横へら削り→横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2節簾状文(7条)→口頸部波状文、胴上部波状文4～5段(上→下、7条)、波状文は充填波状文	2号炉周辺床直
7	塊	口 12.7 底 4.0 高 5.4	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色 ないし明褐色	外面 横へら削り→横へら磨き、底面へら削り 内面 横へら磨き	柱穴3周辺床直
8	塊	口 12.3 底 3.4 高 5.1	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙ないし黒褐色	外面 横へら磨き、底面へら削り 内面 横へら磨き	貯蔵穴周辺-10
9	台付甕 脚部	口 — 底 — 高 (3.4)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 脚部ナデ	外面・断面スス 坏内底面赤色 貯蔵穴周辺+8
10	甕(?) 底部	口 — 底 6.6 高 (3.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦へら削り→下端横ナデ、底面木葉痕→指ナデ 内面 横ナデ	外面薄いスス 弥生中期? 柱穴4周辺+19
11	塊 底部	口 — 底 3.5 高 (1.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横へら磨き、底面へら磨き 内面 横へら磨き 内面黒色を呈する	貯蔵穴周辺+17
12	甕(?) 底部	口 — 底 9.6 高 (9.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 斜め縦へら削り、底面へらナデ 内面 横ナデ	東南+36
13	底部	口 — 底 8.4 高 (3.6)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横ナデ、底面網代痕 内面 横ナデ	外面薄いスス 弥生中期? 東+38
14	底部	口 — 底 6.1 高 (9.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 へら削り→横ナデ、底面網代痕 内面 横ナデ	外面薄いスス 弥生中期? 覆土中
15	底部	口 — 底 6.2 高 (2.6)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦へらナデ、底面網代痕 内面 横へらナデ	外面スス 弥生中期? 覆土中
16	ミニチュア 土器	口 3.7 底 2.9 高 1.4	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き、底面へらナデ 内面 指ナデ	南西-6
17	壺			くびれ部2節簾状文(5～6条)、砂粒を含む、橙色	覆土中

遺物観察表

天引112号住居跡出土土器 図167・168 PL100・102

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴部	口 24.2 底 — 高 (21.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し段状口縁、口唇きざみ、くびれ部付近の断面は楕円形 外面 口頸横へら磨き、くびれ部寄り縦へら磨き、胴上部横へら磨き 内面 口頸部横へら磨き、胴部へらナデ 文様 胴上部 RL 縄文→くびれ部3節簾状文(1ヶ所2節、8条) 外面口頸～胴部・内面胴部に黒色を呈する	外面スス  中央+7
2	壺 口縁～胴部	口 19.9 底 — 高 (23.8)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	折り返し段状口縁、くびれ部付近の断面は楕円形 外面 横へら磨き、折り返し口縁の上下端に刻み 内面 横へら磨き 文様 くびれ部3節簾状文(7条) →胴上部波状文4～5段、波状文は充填波状文	柱穴4周辺床直(4片)
3	甕 胴部	口 — 底 — 高 (5.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 胴上部波状文	柱穴4周辺床直
4	埴	口 13.4 底 — 高 (5.8)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	内外面 横へら磨き、赤色塗彩	北壁際床直
5	埴	口 11.8 底 — 高 (5.5)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	内外面 横へら磨き、赤色塗彩	貯蔵穴内
6	甕 口縁～胴部	口 12.1 底 — 高 (8.9)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 暗赤褐色	外面 全体に RL 縄文施文→口縁端部を除いて口縁横ナデ 内面 横へら削り→横へら磨き	東+14
7	台付甕 口縁～ 胴下部	口 14.4 底 — 高 (15.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 外面 胴下部横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 波状文がくびれ部から胴上部3段(上→下、8条)→口頸部2段(下→上)→折り返し部1段	内面ヨゴレ、加熱痕なし  中央床直
8	壺 頸部～胴部	口 — 底 — 高 (12.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	くびれ部付近の断面は楕円形 外面 縦ハケ→口縁斜め横・斜め縦へら磨き、胴中位以下横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 くびれ部3節簾状文(9～10条)→胴上部波状文4段(上→下)、波状文は充填波状文	南西床直～+38(8片)
9	壺 底部	口 — 底 9.2 高 (6.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら削り→縦へら磨き→下端横へら磨き、底面へら磨き 内面 横磨き	外面・断面スス 内面胴下位コゲ 中央床直(3片)
10	埴 底部	口 — 底 3.0 高 (1.8)	胎 緻密 焼 良好 色 鈍い褐色	底面中央がくぼむ	覆土中
11	小型台付甕 (?) 脚部	口 — 底 5.6 高 (5.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	外面 縦へらナデ 内面 甕部横へら磨き、脚部縦指ナデ	入口周辺+8
12	小型高坏 脚部	口 — 底 8.0 高 (4.9)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦へら磨き 内面 横ナデ 脚部外面・坏部内面赤色塗彩	東+14
13	高坏 脚部	口 — 底 12.8 高 (6.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 横へら磨き 外面赤色塗彩、上端は坏部の剥離痕	貯蔵穴内

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
14	壺 口縁				
15	壺か高坏(?) 口縁				
16	小型甕・口縁				
17	甕				
18	甕				
19	壺				
20	甕 底部				

天引116号住居跡出土土器 図169 PL101・102

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴部	口 19.7 底 — 高(18.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 口縁縦ハケ→縦ヘラナデ 内面 横ヘラナデ→横ヘラ磨き 文様 くびれ部単節簾状文2段(上→下7条)→胴上部波状文5～6段(上→下)、波状文は充填波状文 内面口頸部赤色塗彩	内外面ススけ 床直～+15散在(5片)
2	壺 口縁～胴部	口 20.0 底 — 高(17.9)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 口頸縦ハケ→横ヘラ磨き、くびれ部横ナデ、胴部縦ハケ→縦ナデ 内面 口頸部ヘラ削り→横ヘラ磨き、胴部ヘラ削り→横ヘラナデ 文様 くびれ部2～3節簾状文、胴上部波状文2段	加熱痕なし 床直～+15散在(5片)
3	壺 口縁	口 22.0 底 — 高(8.0)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 斜め横ハケ→斜め横ヘラナデ→口縁端横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 口唇部刻み 内面黒色が一部残る	入口周辺床直・+16(2片)
4	甕 胴部～底部	口 — 底 7.0 高(11.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ないし斜め縦ハケ→縦ヘラ磨き、下端横ヘラ削り、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ヘラ削り→横ヘラ磨き、底面横ナデ	外面スス 南東+12～+19(4片)
5	壺	口 — 底 8.0 高(9.0)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦ハケ→縦ヘラ削り→縦ヘラナデ、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ハケ→ナデ→横ヘラ磨き	外面スス、内面コゴレ 中央床直
6	高坏 坏部	口 — 底 — 高(7.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	外面 坏部横ヘラ磨き、接合部縦ヘラ磨き 内面 坏部横ヘラ磨き 外面・坏部内面赤色塗彩	内底面剝離 西床直
7	甕 底部	口 — 底 7.4 高(3.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ハケ→縦ヘラナデ→下端横ナデ 内面 横ナデ→横ヘラ磨き	外面スス 入口床直
8	壺 底部	口 — 底 13.0 高(4.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 斜め縦ハケ→縦ヘラナデ→横ヘラ磨き、底面ヘラ削り→ヘラ磨き 内面 摩耗著しい	外面スス、内外面剝離 入口床直
9	台付甕口縁				
10	甕 口縁				

遺物観察表

天引119号住居跡出土土器 図170 PL101・102

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴部	口 14.3 底 — 高 (11.3)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	折り返し口縁、球形胴 外面 縦ハケ→口縁横ヘラ磨き、くびれ部縦ヘラ磨き、胴中位以下横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部3～4節簾状文(7条)→胴上部横走羽状ハケ	外面強いスス、内面口縁端部薄いスス、体部中～上位にヨゴレ 入口周辺床直
2	壺	口 — 底 — 高 (20.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 胴上部 RL 縄文、胴中位横ヘラ磨き→胴下部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面体下～中位スス、南東ベット状遺構床直～+7 (7片)
3	甕 口縁部	口 15.6 底 — 高 (5.1)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 内面 横ヘラ磨き 文様 折り返し部を含む、口縁部波状文3段(上→下)	外面スス 柱穴2周辺床直
4	甕 口縁～胴部	口 12.2 底 — 高 (9.3)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	折り返し口縁 外面 縦ハケ→縦ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き 無文	内外面・断面スス 柱穴2周辺床直
5	底部	口 — 底 6.2 高 (3.3)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 縦ヘラ磨き→下端横ヘラナデ、底面ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面体部下位にヨゴレ 中央床直
6	甕 口縁			RL 縄文、内面横ヘラ磨き、緻密、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 柱穴2周辺	
7	壺 口縁			折り返し口縁、口唇部刻み、砂粒をやや多く含む、橙色、内面赤色塗彩 南東ベット状遺構床直	
8	高坏脚部			外面横ヘラ磨き、外面赤色塗彩 覆土中	
9	甕 底部			内外面ヘラ磨き、底面ヘラ削り、砂粒をやや多く含む、鈍い褐色、外面スス 貯蔵穴内	

天引121号住居跡出土土器 図170 PL101・102

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 胴～底部	口 16.4 底 6.8 高 25.5	胎 緻密、砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	下脹れ気味 外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴上部斜め縦ヘラ磨き、胴下部縦ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 口縁端波状文、くびれ部2節簾状文(7条)→胴上部波状文2段(上→下) 波状文の下側に接して有刺突円形貼付文、外面の文様帯を除く口頸部から胴上部及び内面口縁部赤色塗彩	加熱痕なし 南西-13～+10(8片)
2	甕 胴～底部	口 — 底 8.4 高 11.8	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い褐色	外面 縦ヘラ削り→胴中位横ないし斜め横ヘラ磨き→胴下部斜め横ないし斜め縦ヘラ磨き、底面ナデ 内面 横ヘラ磨き	外面・断面スス、内面コゲ 中央床直+8 (2片)
3	壺 ? 底部	口 — 底 5.8 高 (1.4)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし橙色	外面 縦ハケ→下端横ナデ、底面ヘラ削り→ナデ 内面 横ナデ、内底面赤色塗彩	外面・断面スス 入口+23
4	壺・口縁			折り返し口縁、折り返し部波状文、口唇部刻み、砂粒をやや多く含む、鈍い黄褐色 覆土中	
5	壺・底部			内面の剝落が著しい、砂粒を含む、淡黄色 入口+8	

天引132号住居跡出土土器 図171 PL102・104

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～胴 上部	口 23.6 底 — 高(14.7)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 外面 横へら磨き 内面 横へらナデ→ 横ないし斜め横へら磨き 文様 くびれ部4節簾状文 (9条)、胴上部波状文2段以上、波状文は充填波状文 外面に一部・内面口縁端に黒色が残る	東- 8～+ 6 散在(4 片)
2	甕 口縁～ 胴下部	口 16.5 底 — 高(22.5)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	球形胴 外面 胴下部横へら磨き 内面 横ナデ→横へ ら磨き 文様 くびれ部4節簾状文(10～11条)→口頸 部波状文3段(下→上)、胴上部波状文3段(上→下、8 条)、波状文は充填波状文	外面体部中位・口縁部 スス 入口周辺床直～+20 (10片)
3	甕 口縁～胴部	口 18.3 底 — 高(17.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	球形胴 外面 口縁端横ナデ、胴中位～下部横へら磨き 内面 横ハケ→横へら磨き 文様 くびれ部2節簾状文 (11条)→口縁部波状文3段、胴上部波状文3段、波状 文は充填波状文	外面体部中位に強いス ス、内面体部中位にヨ ゴレ 西床直
4	埴	口 15.2 底 3.6 高 5.6	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横へら削り、体部斜め横へら磨き→下端横へ ら削り、底面へら磨き 内面 横ないし斜め横へら磨き 赤色塗彩か?	西床直
5	埴	口 13.6 底 — 高(4.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 横へら磨き 内面 横へら磨き 外面赤色塗彩か?	北+ 7
6	埴	口 — 底 3.6 高(3.8)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 横ないし斜め横へら磨き、底面へら磨き 内面 横ないし斜め横へら磨き	入口周辺床直
7	高坏 脚部	口 — 底 7.8 高(16.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 横ナデ 外面赤色塗彩	外面スス 貯蔵穴周辺床直
8	甕 底部	口 — 底 6.6 高(3.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 横ないし斜め横へら磨き、底面へら磨き 内面 横へら磨き 内面黒色を呈する	外面スス、内面コゲ 入口周辺+ 7
9	壺 底部	口 — 底 8.6 高(5.2)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 斜め横へら磨き、底面へらナデ 内面 指ナデ、摩耗	外面スス 北東床直
10	甕 底部	口 — 底 5.4 高(1.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 横へら磨き、底面へら磨き 内面 指ナデ→横へら磨き	外面強いスス 東床直
11 12	甕 甕			胴上部波状文、胴下部へら磨き、緻密、砂粒を含む、鈍い橙色、外面薄いスス 貯蔵穴周辺床直 胴上部波状文、胴下部横へら磨き、緻密、微砂粒を含む、鈍い橙色、外面強いスス 炉周辺+ 8	

天引135号住居跡出土土器 図169 PL103・104

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁部	口 26.0 底 — 高(12.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し口縁 外面 縦へら磨き→折り返し部の下側に 接して横へら磨き 内面 横ないし斜め横へら磨き 文様 折り返し部波状文、くびれ部簾状文 内外面とも部分的に赤褐色を呈する(塗彩か?)	柱穴3周辺床直

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
2	甕 口縁				
3	堦				
4	高坏(?)脚部				

天引136号住居跡出土土器 図164

1	壺(?)				
2	甕				

天引146号住居跡出土土器 図173 PL103

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 一 底 9.6 高(29.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 ヘラ削り→横ヘラ磨き 内面 斜め横ハケ→横ヘラ磨き、器面の剝落が著しい 文様 胴上部波状文	外面中～下位スス、底部外縁スレ 内面中位ヨゴレ 床直散在(3片)
2	甕 口縁				
3	甕 口縁部				

天引151号住居跡出土土器 図172 PL103・104

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	台付甕	口 19.6 底 一 高(15.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 ややあまい 色 暗褐色	折り返し口縁 外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部4節簾状文→口縁部波状文2段(上→下)、胴上部波状文2段(上→下)、施文後のヘラ磨きにより文様の消えている部分が目立つ、整形が粗雑である	外面体部中位に強いスス 柱穴3周辺床直～+35(3片)
2	台付甕 口縁～ 胴下部	口 19.0 底 一 高(13.7)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 普通 色 橙色	外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き 文様 くびれ部2節簾状文→胴上部波状文、ヘラ磨きによって文様が消されてしまっている部分が目立つ、整形が粗雑である	外面スス、内面口縁端スス、体中位ヨゴレ 柱穴3周辺+5～+17(5片)
3	高坏 口縁部	口 12.4 底 一 高(2.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	内外面 横ヘラ磨き 赤色塗彩	北+43
4	甕 胴下部～ 底部	口 一 底 7.8 高(9.2)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 斜め横ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	外面スス、底部外縁スレ、内面コゲ 柱穴3内・周辺+15(4片)
5	甕	口 19.6 底 5.4 高 12.8	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁部横ナデ→縦ヘラ磨き、口唇部刻み 内面 横ヘラ磨き	柱穴1周辺+18散在(2片)
6	高坏(?)	口 一 底 8.4 高(5.0)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 橙ないし暗褐色	脚下端部折り返し 外面 縦ヘラ磨き、折り返し部横ヘラ磨き 内面 脚部横ナデ、坏部ヘラ磨き	外面スス 柱穴2周辺+6

1 弥生住居出土遺物

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
7	小型壺	口 8.2 底 1 高 (5.3)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 橙色	内外面 横へら磨き、赤色塗彩	柱穴1周辺+16
8	小型台付甕 (?) 接合部	口 1 底 1 高 (4.7)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	外面 縦へら磨き 内面 体部へら磨き 外面赤色塗彩	外面・甕内底面スス 覆土中
9	高坏(?) 脚部	口 1 底 8.6 高 (4.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦へら削り→縦へら磨き 内面 へら削り→横ナデ	内外面スス 東+18
10	台付甕 脚部	口 1 底 15.4 高 (6.7)	胎 砂礫を多量に含む 焼 普通 色 橙色	外面 縦へら磨き 内面 横ナデ	外面薄いスス 柱穴4周辺床直
11	甕(?) 底部	口 1 底 7.2 高 (2.5)	胎 砂粒を少し含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 横へら磨き、底面へら磨き 内面 へら磨き 内面黒色を呈する	外面スス、内面コゲ 中央+18
12	甕(?) 底部	口 1 底 7.0 高 2.7	胎 緻密、砂粒を少し含 む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	内外面 横へら磨き	外面・断面スス 北西壁際+35
13	甕 底部	口 1 底 5.6 高 (1.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 横ナデ、底面へら削り→ナデ 内面 横ナデ	外面スス 中央+14
14	手捏土器 ミニチュア	口 4.0 底 2.8 高 3.4	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	小粘土塊の上に輪積 外面 へら削り	柱穴1内
15	甕(?)底部	外面縦へら削り→下端横へら削り、底面へら削り→ナデ、内面横ハケ→ナデ、砂粒を含む、鈍い橙色、外面スス、内面ヨゴレ 柱穴3周辺+5			
16	甕 口縁	口縁に輪積痕を残す、波状文2段以上(上→下)、砂粒を含む、にぶい明黄褐色 覆土中			
17	甕 口縁	折り返し口縁、折り返し部を含む口縁部波状文4段以上(上→下)、砂粒を含む、暗褐色、内面黒色 覆土中			
18	甕 口縁	口縁部に輪積痕を残す→波状文2段以上、砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス 覆土中			
19	小型甕口縁	くびれ部2節籐状文(5条)→口縁部波状文3段(中→上・下)、胴上部波状文、波状文は充填波状文、砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 覆土中			
20	壺 口縁	折り返し口縁、内外とも横へら磨き、無文、砂礫を多く含む、橙色 柱穴1周辺+13			
21	甕 口縁	折り返し口縁、折り返し部無文、口縁部波状文、緻密、砂粒を含む、暗赤褐色、外面スス 覆土中			

天引152号住居跡出土土器 図164

1	甕 底部	外面スス、内面コゲ 中央+11
---	------	-----------------

天引153号住居跡出土土器 図173・174 PL104

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁→胴部	口 13.7 底 1 高 (12.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 塗彩のため不明	折り返し口縁、球形胴 外面 口縁横へら磨き、胴中位横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2節籐状文→胴上部波状文(上→下)、波状文は充填波状文、口頸部内外面赤色塗彩	外面体部強いスス 中央床直

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
2	甕 口縁～胴部	口 11.2 底 — 高(10.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	折り返し口縁、外面 二次加熱のため器面の剥落が著しい 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2節簾状文(8条)→折り返し部を含む口縁波状文3～4段(上→下)、胴上部波状文、波状文は充填波状文	外面全体にスス、内面口縁端に薄いスス、体部中～上位にヨゴレ、剥落あり 炉周辺床直
3	甕 口縁～胴部	口 12.4 底 — 高(12.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	外面 横へら磨き 内面 横へら磨き	外面スス、内面口縁端スス、体中～上位ヨゴレ
4	台付甕(?) 口縁～胴部	口 15.5 底 — 高(11.0)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	球形胴 外面 胴下部横へら磨き 内面 横へら磨き 文様 くびれ部2～3節簾状文(9条)→口頸部波状文3段(下→上)、胴上部LR縄文→下側に接して円形貼付文、口唇部縄文押圧、波状文は充填波状文	外面体中位・口縁部スス 中央床直(3片)
5	壺 胴部	口 — 底 — 高(47.7)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし鈍い褐色	外面 胴中位横へら磨き、胴下部縦ないし斜め縦へら磨き 内面 横へらナデ	加熱痕なし 南東床直～+14(7片)
6	紡錘車	厚 2.1 径 3.2 孔径 0.8	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い褐色	外面 へらナデ 断面山形	スレなし 南西際床直
7	塊 底部	内外面とも横へら磨き、底面へら磨き、砂粒を含む、鈍い黄褐色 中央床直			
8	壺 口縁	段状口縁(3段)、内外面とも横へら磨き、砂粒をやや多く含む、明赤褐色 覆土中			
9	甕 口縁	口縁輪積痕を残す→波状文、砂粒をやや多く含む、鈍い橙色、内面黒色を呈する、外面スス 北東床直			
10	甕 口縁	口唇へ口縁 RL 縄文、砂粒を含む、鈍い橙色、内外面スス 覆土中			
11	甕	胴上部 RL 縄文、胴下部横へら磨き、緻密、砂粒を含む、黒褐色、外面スス 覆土中			
12	甕 か 壺	胴上部 RL 縄文、砂粒を含む、橙色 北東床直			
13	甕	口縁部 RL 縄文、微砂粒を含む、鈍い黄褐色、外面スス 覆土中			
14	甕	胴上部波状文、胴中位以下赤色塗彩、内面黒色を呈す、緻密、砂粒を含む、外面スス 南西+17			
15	甕 底部	内外面とも横へら磨き、緻密、微砂粒を含む、鈍い褐色、外面スス 南壁床直			
16	塊(?)	内外面とも塗彩、砂粒をやや多く含む、明黄褐色 覆土中			

白倉A区52号住居跡出土石器 図196 PL105

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
9	砥石	珪質頁岩	12.4	7.3	5.3	900	両側面は光沢が出るほどの研磨面となっている、下端部に敲打痕あり	覆土中
10	砥石	牛伏砂岩・粗粒	18.6	13.6	4.3	900	表面・右側面は砥石として使用、側面には溝状の研磨痕、右縁部に敲打痕あり	西+19

白倉B区5号住居跡出土石器 図196・197 PL105

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
13	打製石斧	硬質泥岩	9.5	5.9	2.9	175	剥片素材、全周に調整加えられるが、一部に素材面残す、基部欠損、ややえぐりの入った撥形	入口周辺+38
14	石 鋏 ?	雲母石英片岩	12.7	8.3	1.3	195	板状の素材の全周に調整加える、刃部欠損のため全体形状不明	南東+22

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
15	打製石斧	変質安山岩	5.3	4.8	2.0	70	剥片素材、全周に調整加えるが、両面にかなり素材面残す、基部欠損、撥形	中央+26
16	砥石	砂岩	11.6	8.4	4.0	685	各面とも研磨痕あり、特に表裏面は平滑になっている	隅部破損 南+20
17	すり石	流紋岩	12.3	8.6	5.7	900	上下両端・右側面・表面に打痕あり、表裏面とも顕著なすり面あり	入口周辺+5
18	敲石	黒色片岩	19.3	4.5	2.3	380	上端寄りの両側面に敲打痕あり	南西壁際床直
19	くぼみ石	黒色片岩	19.5	7.7	2.0	510	表裏面ともほぼ同位置にくぼみあり	南壁際床直
20	台石	変質安山岩	28.0	19.2	5.5	5,800	表面の中心に研磨痕あり	入口周辺床直

## 白倉B区7号住居跡出土石器 図197 PL105

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
20	打製石斧	硬質泥岩	10.0	4.2	1.6	70	全面に調整加えられる、刃部近くに使用による磨耗有るが先端には無く、刃部再生が行われたと考えられる 短冊形	北床直
21	磨製石斧	はんれい岩	10.1	6.7	4.1	570	上下両端破損、両側面に打痕(?)がある	中央+11
22	砥石	牛伏砂岩・中粒	14.3	9.8	1.9	330	表裏面とも研磨痕、また両面ともくぼみ、上下・左側に打痕	南東+35
23	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.1	8.8	2.3	235	表裏面とも非常に滑らかな研磨痕あり、中央部に両面ともくぼみあり、下端寄り破損	中央+8
24	すり石	粗粒安山岩	6.1	8.5	6.0	490	表面にすり面あり	中央+27
25	砥石	粗粒安山岩	14.2	12.6	3.3	900	表面に研磨痕あり	入口周辺+10
26	台石	緑色片岩	10.5	14.6	4.4	1,000	表面に研磨痕あり	入口周辺床直
27	台石	牛伏砂岩	23.1	17.4	5.1	2,300	中央の皿状の面が使用面の可能性あり、表裏面とも浅いくぼみが多数ある、下端破損	北西+9
28	台石	流紋岩質凝灰岩	30.5	14.5	7.0	2,700	表裏面とも多数の打痕、裏面と右側面にきわめて滑らかな研磨痕	西壁際床直

## 白倉C区1号住居跡出土石器 図198 PL106・111

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
10	磨製石鏃	珪質準片岩	3.1	2.1	0.4	2.6	表裏面とも研磨している、途中で破損	
11	磨製石鏃	珪質準片岩	3.8	1.6	0.3	1.9	表裏面を粗く研磨し、左側面を研磨して整形	
12	磨製石鏃	珪質準片岩	5.3	1.2	0.3	3.5	表裏面と左側面を研磨している、この途中で左半分を破損したと思われる	

遺物観察表

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
13	打製石斧	細粒安山岩	6.4	7.2	1.5	105	ほぼ全面に調整加えられる、刃部には使用による磨耗みられる、基部欠損のため全体形状不明	覆土中
14	打製石斧	硬質泥岩	10.1	7.8	2.4	185	剥片素材で全周に調整加えられるが、一部に素材面残す両側縁のえぐり部に磨耗がみられる、基部を欠くため形状は不明確であるが、刃部が扇状に広がる撥形と思われる	南+6
15	打製石斧	細粒安山岩	7.5	5.3	1.6	90	剥片素材でほぼ全周に調整加えられるが、素材面を大きく残す、刃部欠損	東床直
16	敲石	黒色片岩	10.8	5.5	3.4	300	右側面に打痕	西床直

白倉C区7号住居跡出土石器 図198・199・200 PL106・111・112

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
16	磨製石鏃	珪質準片岩	1.7	1.3	0.2	0.4	表裏面とも整形、片面からの穿孔、裏面からの穿孔中に欠損	
17	磨製石鏃	珪質準片岩	2.5	1.4	0.3	1.0	表裏面に一次的な研磨を施している途中で欠損	
18	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	2.1	0.3	2.1	表裏面・両側・下端とも成形、上端欠損	
19	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	2.3	0.4	2.4	端部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
20	磨製石鏃	珪質準片岩	3.6	2.3	0.5	3.2	端部に明瞭な成形痕がなく、表裏面とも平坦でないので偶然にこの形状になった破片の可能性もある	
21	磨製石鏃	珪質準片岩	3.8	1.9	0.2	2.0	上半の両側と下端を打ちかいて成形 表裏面とも未調整	
22	磨製石鏃	珪質準片岩	4.4	2.1	0.3	3.3	側部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
23	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	3.1	0.3	3.5	両側を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
24	磨製石鏃	珪質準片岩	3.7	2.0	0.2	2.0	側部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
25	磨製石鏃	珪質準片岩	4.4	2.6	0.2	3.3	側部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
26	磨製石鏃	珪質準片岩	4.6	3.3	0.3	4.6	上半の両側を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
27	磨製石鏃	珪質準片岩	4.7	2.1	0.6	7.3	表裏面と左側面を粗い研磨調整	
28	磨製石鏃	珪質準片岩	3.8	1.8	0.2	2.0	表裏面とも未調整	
29	磨製石鏃	珪質準片岩	4.6	1.8	0.4	5.0	表裏面とも未調整	
30	磨製石鏃	珪質準片岩	4.3	2.2	0.15	2.5	左側に沿って切断のための縦の条痕、右側は打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
31	磨製石鏃	珪質準片岩	3.8	2.4	0.2	2.1	下端・右側を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
32	磨製石鏃	珪質準片岩	6.7	2.2	0.6	14.0	右側に沿って縦位の条痕が施されており切断のためのものであることがわかる、上・下端と左側は打ちかきにより成形、表裏面とも未調整	

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
33	磨製石鏃	珪質準片岩	5.1	2.3	0.2	2.3	表面の左側に沿って切断のための縦の条痕がある、表裏面とも未調整	
34	磨製石鏃	珪質準片岩	6.0	2.6	0.7	14.1		
35	磨製石鏃	珪質準片岩	2.7	2.9	0.4	7.0	左右両側は打ちかきによる成形	
36	磨製石斧	変玄武岩	2.7	3.5	1.7	2.4	表面は細かく剥落している	東+25
37	石 錘	緑色片岩	4.1	3.1	1.0	2.0	上下端に切り込みを入れている	覆土中
38	石 匙	黒色頁岩様頁岩	2.0	4.5	0.5	10	横長剝片を素材とし、主に素材腹面に押圧剝離による調整を加える。つまみ部欠損	覆土中
39	スクレイパー	硬質泥岩	9.4	13.2	4.0	390	厚い横長剝片の先端の主に背面側に調整加え刃部を形成刃部には弱い磨耗が見られる	中央+43
40	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	10.1	12.8	2.3	360	表面のほぼ全体と裏面の縁寄りの一部を使用	北+24
41	砥 石	牛伏砂岩・細粒	12.8	7.8	3.0	340	表面・左側面に打痕、表裏面を砥石として使用	掘底面北+34
42	砥 石	牛伏砂岩・細粒	12.9	8.2	2.2	275	表面を主として使用、中心寄りの長軸方向に顕著な浅いU字状の使用痕がある	西+30
43	砥 石	緑色片岩	11.1	3.7	4.0	290	表面のみ使用	西+30
44	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	5.4	10.1	4.2	265	上下の側面を除いて使用、破損の可能性ある	南+33
45	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	6.2	3.1	1.2	40	四角く成形し、表裏面がよく使用されている	覆土中
46	砥 石 くぼみ石	牛伏砂岩・中粒	13.0	10.4	7.3	740	表面に画磨面とくぼみ、裏面にくぼみ、破損品、石皿の可能性もある	柱穴2内
47	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	7.3	6.1	2.2	120	表裏面を使用	南東壁際+23
48	砥 石	牛伏砂岩・中粒	6.3	8.2	4.3	200	表面を研磨に使用、表面下端寄りに打痕	南西+27
49	くぼみ石	牛伏砂岩	13.5	11.3	4.3	705	表面にくぼみ、裏面にくぼみと線状研磨痕	北西+25
50	すり石	細粒安山岩	11.2	10.0	4.0	735	表裏ともすり面、表面中央に打痕	東+46
51	石 皿 (?)	牛伏砂岩	10.3	7.3	5.0	415	表面研磨、縁部にくぼみ、裏面くぼみ、破損品	中央+27
52	くぼみ石	牛伏砂岩	9.4	7.8	4.7	345	表裏面の中央にくぼみ、左右側面の中央がえぐられるように削れている	柱穴2内
53	くぼみ石	牛伏砂岩	8.3	5.8	2.8	140	表裏面とも中央が深くくぼむ	掘底面中央+28

## 白倉C区8号住居跡出土石器 図202 PL107・111

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	磨製石鏃	珪質準片岩	3.0	1.8	0.25	1.5	両面穿孔、側部の研磨の順序は、両側→上下端	
7	磨製石鏃	珪質準片岩	3.0	1.6	0.2	1.0	右側部を打ちかいて成形	
8	くぼみ石	黒色片岩	16.5	9.1	4.6	1,000	表裏面の中央にくぼみ、上下両端打痕	南床直

## 遺物観察表

## 白倉C区9号住居跡出土石器 図201 PL107・112

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
8	磨製石鏃	珪質準片岩	2.4	2.1	0.2	1.4	表面の方が丹念な面調整、両面穿孔であるが表面が主で裏面は補足的	
9	磨製石鏃 に関わる 製品	珪質準片岩	5.7	2.0	0.4	6.7	穿孔中に左側部欠損、上下及び右側面整形、穿孔は表側からを主体とし、裏面からは補足的、表裏面とも面調整をした後にさらに縁部に沿って調整	
10	磨製石鏃	珪質準片岩	0.9	0.9	0.2	0.2	下端部の破片、表裏面とも面調整穿孔中に欠損	
11	磨製石鏃	珪質準片岩	3.5	2.3	0.3	4.2	上半の側部を打ちかきにより成形、表裏面とも未調整	
12	磨製石鏃	珪質準片岩	2.6	4.1	1.5	12.9		
13	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	4.5	1.6	2.6		
14	磨製石鏃	珪質準片岩	10.9	4.2	0.5	35.2	下端を打ちかいて成形	
15	磨製石鏃	珪質準片岩	2.9	4.3	0.5	5.7		
16	磨製石斧	緑色片岩	8.1	4.0	2.3	14.0	基部寄りの破片、上端部打痕	南+8
17	二次加工 ある剥片	砂岩	5.5	7.1	1.6	85	剥片の周辺に一部粗い加工を施す、先端半分程を欠損	南東+6
18	二次加工 ある剥片	珪質頁岩	7.6	8.8	2.1	150	剥片のほぼ全周に粗い加工施す	南床直
19	砥石	牛伏砂岩・細粒	11.5	9.9	1.6	235	表面のみ使用	南+7
20	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.3	4.4	0.95	50	長軸方向の縁部に沿って非常によく使い込まれている	南西床直
21	砥石	牛伏砂岩・細粒	10.1	9.6	2.3	395	表裏面と左側面を使用	北床直
22	砥石	牛伏砂岩・中粒	13.3	6.3	1.7	165	全体によく使い込まれている、特に縁部に沿って使用している為、そこが薄くなっている	柱穴3周辺
23	くぼみ石	牛伏砂岩	19.4	9.9	4.4	1,000	表裏面にやや浅いくぼみ、左側面にくぼみ	北床直
24	敲石	雲母石英片岩	15.2	6.0	3.0	470	表面中心寄りにくぼみあり	中央床直
25	すり石	変はんれい岩	10.2	6.4	4.4	540	表裏面と上端にすり面があり、下端右側に打痕	南床直

## 白倉C区14号住居跡出土石器 図200 PL107・113

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
13	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	2.2	0.25	1.2	両面穿孔	
14	磨製石鏃	珪質準片岩	4.6	1.9	0.35	3.6	穿孔時に破損したものの、両面とも仕上がっている、両面とも鏽明瞭	
15	磨製石鏃	珪質準片岩	4.3	1.7	0.2	2.0	研磨時に左側を破損、穿孔なし、表面の鏽明瞭	
16	磨製石鏃	珪質準片岩	4.2	1.9	0.2	2.1	穿孔時に破損、裏面の鏽が明瞭でない	

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
17	磨製石鏃	珪質準片岩	2.9	1.7	0.15	0.8	表面の一部を研磨しはじめた段階、刃は研ぎ出されていない、穿孔なし	
18	磨製石鏃	珪質準片岩	6.2	3.1	0.6	11.9	側部を打ちかいて形をつかった段階、表裏面とも未調整	
19	磨製石鏃	珪質準片岩	3.5	2.6	0.3	4.1	上右側部を打ちかいている	
20	磨製石鏃	珪質準片岩	6.9	3.8	0.8	34.4	表裏面の中央寄りに多数の小さいくぼみあり、工具を回転させた結果によるものであることから、穿孔に使用した工具痕と思われる	
21	打製石斧	細粒安山岩	4.2	5.1	1.4	35	破損激しく全体形状不明、周辺調整の打製石斧破片と思われる	覆土中
22	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.0	4.3	1.1	63	四角に切り整えられている、全面を使用している	東壁際+9
23	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.3	7.1	1.6	105	両側面に研磨痕、表面の中心と上端寄りにくぼみ	北西+11
24	砥石	牛伏砂岩・細粒	2.8	3.5	0.9	15	四角く切り整えている、全面を使用している	覆土中
25	くぼみ石	牛伏砂岩	15.9	4.9	5.0	630	表裏面にくぼみ、上下両端に打痕	東壁際床直

## 白倉C区30号住居跡出土石器 図207 PL107

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
7	スクレイパー	硬質泥岩	2.5	6.9	1.0	20	上下両端両面に調整加える、被熱により表面が一部剥落している	東床直
8	すり石	細粒安山岩	6.1	8.0	2.5	140	下半分破損、表面使用	西壁際床直
9	くぼみ石	雲母石英片岩	11.1	6.8	3.5	380	表裏面の中央にくぼみ	東床直

## 白倉C区32号住居跡出土石器 図202 PL107・113

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
12	磨製石鏃	珪質準片岩	1.6	1.4	0.25	0.5	穿孔の途中で破損、片面のみの穿孔で裏面がなし	
13	磨製石鏃	珪質準片岩	2.7	2.3	0.25	2.2	穿孔まで終了しているため、完成後または完成直前に上端が破損	
14	磨製石鏃	珪質準片岩	1.3	0.8	0.3	0.4	上側のみ破損、表裏面とも研磨されている	
15	磨製石鏃	珪質準片岩	3.9	1.8	0.3	2.5	表裏面とも未調整	
16	磨製石鏃	珪質準片岩	4.4	2.9	0.6	11.0		
17	打製石斧	硬質泥岩	7.2	4.5	2.5	90	剥片素材、刃部の調整がかなり急角度であるが、刃部再生を繰り返したためと考えられる、基部欠損	覆土中

遺物観察表

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
18	打製石斧	硬質泥岩	9.5	6.6	2.9	160	剥片素材、ほぼ全面に調整加えられるが、一部に素材面残す、撥形	覆土中
19	打製石斧	黒色片岩	10.2	6.3	2.6	250	厚みのある板状の素材の両側と先端に調整加える、打製石斧の未成品か	柱穴4周辺
20	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.3	4.4	2.0	60	表裏面の縁部に沿って使用、表面にくぼみ	南西壁際床直
21	砥石	牛伏砂岩・細粒	10.7	6.0	1.9	150	表裏面とも長軸方向の縁部に沿ってよく使い込み、薄くなっている、左側面に打痕	中央床直
22	砥石	デイサイト質凝灰岩	9.6	5.7	2.5	185	表裏面を使用	北壁際床直
23	すり石	粗粒安山岩	13.2	6.3	6.5	1,000	上下端に打痕	柱穴1内

白倉C区34号住居跡出土石器 図203 PL108・113

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
14	磨製石鏃	珪質準片岩	3.0	1.7	0.25	1.3	縁部に刃を研ぎ出しはじめたところ、表裏面は未調整	
15	磨製石鏃	珪質準片岩	3.7	2.3	0.3	2.3	打ちかいて成形している途中で破損	
16	磨製石鏃	珪質準片岩	4.3	1.3	0.25	1.4	表裏面とも粗く研磨を施して形をつくりあげている際に破損、仕上げの研磨が施されていない、穿孔されていない	
17	磨製石鏃	珪質準片岩	5.2	2.2	0.5	6.8	打ちかいて成形している途中	
18	磨製石鏃	珪質準片岩	5.1	2.7	0.25	4.0	表面中央に切断のための横位の擦痕がある	
19	磨製石鏃	珪質準片岩	5.6	3.0	0.5	12.0	左端に切断のための縦位の擦痕がある、裏面の対応する位置に同じものがある	
20	磨製石斧	緑色片岩	6.1	7.8	2.6	210	基部欠損	
21	打製石斧	細粒安山岩	5.0	4.3	1.6	40	刃部・基部とも欠損し、全体形状不明	覆土中
22	砥石	牛伏砂岩・中粒	5.3	5.0	1.6	45	四角く切り整えている、表裏・両側面を使用、長軸方向の縁部に沿ってよく使用されている	覆土中
23	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.3	6.5	2.4	115	表裏面・右側面に溝状の研磨痕	覆土中
24	砥石	牛伏砂岩・細粒	11.0	8.6	2.2	215	表面全面と裏面の縁部を使用	覆土中
25	敲石	牛伏砂岩	8.8	6.7	2.2	155	表面・右側面に打痕	覆土中
26	くぼみ石	牛伏砂岩	10.1	6.3	2.8	155	表裏面にくぼみ	覆土中
27	すり石	細粒安山岩	9.8	8.5	6.2	705	表裏面・左側面に打痕	北壁際床直
28	すり石	牛伏砂岩	10.0	10.2	3.7	460	表裏面・右側面にすり面、表面にくぼみ	覆土中
29	くぼみ石	緑色片岩	15.3	6.4	2.7	365	表裏面の中央にくぼみ	覆土中

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
30	くぼみ石	雲母石英片岩	11.8	7.6	4.2	620	表裏面の中心にくぼみ	覆土中

## 白倉C区35号住居跡出土石器 図204・205・206 PL108・109・114・115

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
15	勾玉状石製品	変玄武岩	3.5	2.1	1.8	11.1	右側面は刀子状の工具により成形、底面は平滑に研磨、他は自然面	南東+11
16	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	2.0	0.3	1.6		
17	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	1.7	0.3	1.8	先端破損	
18	磨製石鏃	珪質準片岩	1.5	1.0	0.2	0.4	割って側部を成形した状態で破損、表裏面とも未調整	
19	磨製石鏃	珪質準片岩	1.3	1.0	0.2	0.5	縁辺を研磨して刃をつける	
20	磨製石鏃	珪質準片岩	1.4	1.2	0.2	0.2	成形途中で破損か？、表裏面とも未調整	
21	磨製石鏃	珪質準片岩	4.0	1.4	0.2	1.4	表裏面とも未調整	
22	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	1.8	0.2	0.2	表裏面とも全体に研磨し、右側部に刃をつけている	
23	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	1.2	0.3	1.2	穿孔途中で破損したため貫通していない	
24	磨製石鏃	珪質準片岩	3.1	1.6	0.2	1.0	表裏面とも未調整	
25	磨製石鏃	珪質準片岩	6.5	2.6	0.4	10.0	縁辺部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
26	磨製石鏃	珪質準片岩	2.6	2.0	0.3	2.5		
27	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	2.7	0.4	3.1	表面に筋を刻んで分割している、表裏面とも未調整	
28	磨製石鏃	珪質準片岩	3.9	2.0	0.3	3.5	側面は全体に研磨している、表裏面も軽い研磨が認められるが刃はつけていない	
29	磨製石鏃	珪質準片岩	5.6	2.5	0.6	11.2	縁辺部を荒割り成形、表裏面とも未調整	
30	磨製石鏃	珪質準片岩	5.0	2.4	0.4	3.7	荒割り成形か？、表裏面とも未調整	
31	磨製石鏃	珪質準片岩	4.3	2.2	0.2	2.1	表裏面とも未調整	
32	磨製石鏃	珪質準片岩	4.0	2.8	0.3	4.4	縁を割って成形、表裏面とも未調整	
33	磨製石鏃	珪質準片岩	6.3	2.0	0.3	6.6	両側の表面に縦方向の線を複数刻みつけて割っている	
34	磨製石鏃	珪質準片岩	5.2	3.6	0.6	11.8	右側と下端を打割って成形、表裏面とも未調整	
35	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	2.7	0.8	9.0		
36	磨製石鏃	珪質準片岩	4.3	8.1	1.2	64.0		
37	磨製石鏃	珪質準片岩	11.3	7.6	1.3	120.0		

遺物観察表

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
38	二次加工 ある剥片	硬質泥岩珪 質準片岩	2.8	5.4	0.8	15	横長剥片を素材とし、背面の左側に調整加える、先端部には使用によるとみられる微細な剝離痕あり	覆土中
39	打製石斧?	硬質泥岩	4.9	4.5	1.1	35	剥片素材、周辺に調整加えるが、両面に大きく素材面残す、刃部破損後、破断面からの剝離が一部に加えられている	覆土中
40	打製石斧	粗粒安山岩	5.9	5.4	3.1	120	ほぼ全面に調整加える、基部が欠損しているが、破断面からの調整が一部にみられる 短冊形	覆土中
41	石 鋏	変質蛇紋岩	8.9	7.7	1.1	95	薄い剥片を素材とし全周に調整加える、基部が欠損しているため形状は不明だが、石鋏の破損品と考えられる	中央床直
42	打製石斧?	細粒安山岩	4.8	6.6	3.4	85	ほぼ全面に比較的粗い調整加えられる、打製石斧の刃部破片か	南+24
43	打製石斧	粗粒安山岩	6.5	4.9	2.3	80	剥片素材で全周に調整、刃部欠損のため全体形状は不明	覆土中
44	打製石斧	珪質頁岩	8.3	5.1	2.3	120	ほぼ全面に調整加えられる、刃部が斜めに欠損するが、先端には使用による磨耗あり、基部欠損	覆土中
45	打製石斧	珪質頁岩	6.0	4.7	1.8	60	ほぼ全面に調整加えられる、刃部欠損のため全体形状は不明	覆土中
46	打製石斧	粗粒安山岩	5.5	3.9	1.8	50	ほぼ全面に調整加えられる、裏面の刃部近くには使用による磨耗が非常に発達、基部欠損、短冊形	覆土中
47	打製石斧?	珪質頁岩	6.2	4.3	2.0	70	破損激しいため全体形状は不明だが、打製石斧の刃部破片と考えられる	覆土中
48	スクレイパー	緑色片岩	10.6	5.4	1.1	85	薄い板状の素材のほぼ全周に調整加える、裏面右側には一部研磨痕がみられる	覆土中
49	打製石斧	硬質泥岩	11.9	5.8	1.4	100	横長剥片を素材とし全周に調整加える、中央部の両側にえぐりが入る、基部欠損、分銅形	南床直
50	打製石斧	緑色片岩	12.3	5.1	1.5	140	板状の素材の全周に調整加える、刃部は一部欠損、短冊形	南+17
51	打製石斧	硬質泥岩	6.1	4.3	1.7	65	全面に調整加えられる、基部欠損、短冊形	覆土中
52	砥 石	牛伏砂岩・中粒	3.8	4.1	0.7	15.0	上半部破損、よく使用している	覆土中
53	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	6.0	3.9	1.3	45	下端を除く全面が使用	北西床直
54	砥 石	牛伏砂岩・細粒	6.3	9.2	2.0	130	下半部破損、全面を使用している	覆土中
55	砥 石	牛伏砂岩・細粒	5.8	3.2	1.0	15	全面を使用	覆土中
56	砥 石	牛伏砂岩・細粒	7.9	6.6	2.8	165	表裏面を使用	覆土中
57	砥 石	牛伏砂岩・中粒	12.5	5.7	2.5	175	全面を使用、表面のみくぼみ、線状擦痕あり	柱穴3周辺床直
58	砥 石	牛伏砂岩・細粒	7.3	6.3	1.1	65	表面のみ使用	南壁際+21
59	砥 石	牛伏砂岩・中粒	10.7	8.3	2.5	275	両側の下端寄りに打痕、全体に砥石として使用	覆土中
60	砥 石	牛伏砂岩・中粒	8.8	12.9	2.6	305	表面のみ使用	柱穴4周辺+24
61	砥 石	牛伏砂岩・細粒	9.6	12.0	3.0	320	表裏面使用	中央+6

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
62	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.5	4.5	1.8	100	表裏面を使用、裏面にくぼみあり	北床直
63	砥石	牛伏砂岩・細粒	10.1	6.8	1.6	170	表裏面とも縁部寄りを長軸方向に使用	南壁際床直
64	すり石	牛伏砂岩	11.8	8.2	3.1	315	表裏面とも使用	東壁際+8
65	くぼみ石	黒色片岩	13.5	9.3	4.8	1,000	表裏面の中央にくぼみ	覆土中
66	くぼみ石	牛伏砂岩	14.8	15.2	5.1	1,200	表裏面ともくぼみあり、特に表側のものが深い	覆土中
67	くぼみ石	牛伏砂岩	8.2	7.5	3.1	170	表面のみくぼみあり	南東+16
68	敲石	緑色片岩	10.0	5.6	2.8	265	表裏面・左側面・上下端に打痕	南+14
69	くぼみ石	牛伏砂岩	9.8	12.6	2.5	395	表裏面とも中心寄りにくぼみあり	柱穴4内

## 白倉C区39号住居跡出土石器 図207 PL109・116

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
14	磨製石鏃	珪質準片岩	3.4	1.8	0.2	2.0	上端欠損、表裏面とも丹念に面調整、両面穿孔	
15	磨製石鏃	珪質準片岩	2.0	1.4	0.15	0.6	側面を研磨により整形、表裏面とも一部面調整がある	
16	磨製石鏃	珪質準片岩	2.0	1.3	0.2	0.8	基部の扶部と上端の両側面が研磨整形、表裏面未調整	
17	磨製石鏃	珪質準片岩	1.1	0.9	0.3	0.2	穿孔部周辺の小破片、形状から磨製石鏃でない可能性もある	
18	磨製石鏃	珪質準片岩	1.4	2.1	0.3	0.9	表裏面とも研磨あり	
19	磨製石鏃	珪質準片岩	1.4	2.1	0.3	0.8	表裏面とも面調整、両面穿孔、表面からが主で裏面からはわずか、裏面からの穿孔途中で破損した可能性がある	
20	磨製石鏃	珪質準片岩	4.6	3.5	0.4	6.7	右側面の自然の割れ面を基に、石の目に沿って左側を割り山形に成形しているものと推測	
21	磨製石鏃	珪質準片岩	6.0	3.0	0.55	14.2	端部を全体に打ちかいて成形	
22	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	2.2	0.3	3.8	両側は石の目の方向に割り、下端は自然の亀裂面、上端を打ちかいて山形に成形、表裏面とも未調整	
23	磨製石鏃	珪質準片岩	2.8	2.8	0.3	2.6	下端を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
24	磨製石鏃	珪質準片岩	6.1	6.9	2.0	87.0		
25	打製石斧?	珪質頁岩	4.5	5.4	1.4	40	上下を欠損し形状がわからないが、打製石斧の破損品と考えられる	覆土中
26	くぼみ石	粗粒安山岩	9.8	8.7	4.9	530	表裏にすり面、中央にくぼみ、側面に打痕	柱穴2周辺+14
27	くぼみ石	デイサイト	9.5	8.1	3.3	430	表裏に顕著なすり面、中央にくぼみ、上端を中心、側面に打痕	中央+7
28	くぼみ石	牛伏砂岩	10.0	5.8	3.7	245	表裏面中央にくぼみ、上下両端に打痕	柱穴3周辺

遺物観察表

白倉C区47号住居跡出土石器 図207 PL110・116

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	1.5	1.5	0.4	下半部欠損、表裏面とも粗い研磨、表面左縁に沿ってのみ2次的に研磨	
6	ガラス小玉	ガラス	径 0.38	孔径 0.1	0.4	0.1		覆土中

白倉C区53号住居跡出土石器 図208 PL110・112

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
3	磨製石鏃	珪質準片岩	4.1	1.7	0.2	1.6	研磨により最終整形を行なっている途中、未穿孔	
4	磨製石鏃	珪質準片岩	4.0	2.8	0.3	4.0	右側の節理による端部を基準にして、他の端部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
5	磨製石鏃	珪質準片岩	4.4	2.5	0.3	3.3	右端を欠き取って成形しようとしている途中、表裏面とも未調整	
6	砥石	牛伏砂岩・粗粒	14.1	11.0	3.5	735	表裏面の全体を使用、右側面に打痕	北床直
7	ガラス小玉	ガラス	径 0.3	孔径 0.1	0.3	0.2		柱穴2周辺床直

白倉C区55号住居跡出土石器 図208 PL110・116

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
7	磨製石鏃	珪質準片岩	3.7	2.9	0.5	4.7	研磨により右側部を整形している途中、表裏面とも粗い面調整がある	
8	磨製石鏃	珪質準片岩	3.2	2.5	0.3	2.8	下側は打ちかきにより成形、表裏面とも未調整	
9	磨製石鏃	珪質準片岩	3.6	3.5	0.4	5.0	研磨により右側面を整形している途中、表裏面とも粗い研磨が認められる、左側は節理に沿った割れ、下側は打ちかきによる成形	
11	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.5	4.2	1.8	80	全体によく使用されている、最終時には右斜め下半分（裏面も対称の位置）がよく使われていた	南西床直

白倉C区72号住居跡出土石器 図208 PL110・116

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
8	ガラス小玉	ガラス	径 0.36	孔径 0.16	0.36	0.1		覆土中
9	磨製石鏃	珪質準片岩	1.5	1.4	0.3	0.5	表裏面とも端部を研磨により鋭く仕上げている	
10	磨製石鏃	珪質準片岩	3.7	1.9	0.2	1.5	打ちかいて端部を成形している中途に左側を欠損、表裏面とも未調整	
11	磨製石鏃	珪質準片岩	3.9	2.7	0.4	4.4	表裏面とも未調整	

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
12	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.2	6.2	2.4	140	表裏面の縁寄りを部分的に使用	中央+22
13	打製石斧?	硬質泥岩	7.8	6.0	2.4	110	剥片素材でほぼ全周に調整加えられる、刃部は素材腹面からのやや急角度の剥離により調整される、完形品ながらかなり短かく、刃部再生の結果、又は他の用途へ転用されたものか	覆土中
14	砥石	牛伏砂岩・細粒	8.6	5.9	1.0	55	縁部に沿って全体によく使い込まれている	西壁際+18
15	石皿(?)	牛伏砂岩	7.1	12.5	3.4	310	表裏面の中央を使用	中央+26
16	すり石	粗粒安山岩	4.5	4.5	2.3	60	表裏面を使用	西+8
17	くぼみ石	緑色片岩	13.7	7.9	3.5	540	表面中心寄りにくぼみ、左側面下端に打痕	覆土中

## 白倉C区90号住居跡出土石器 図209 PL110・117

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.5	4.3	1.1	60	四角形に成形している、表裏面の長軸方向の縁寄りを中心に全体を良く使用されている	南+28
7	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.5	3.0	1.3	40	表裏面、左右両側が使用されている、上下両端は欠損か	南壁際+21
8	すり石	緑色片岩	13.6	8.0	1.8	395	表裏ともすり面、表裏側面に打痕	南床直
9	くぼみ石	緑色片岩	19.8	6.8	2.6	605	表裏面の縦の中心軸に沿ってくぼみ、表面にすり面	南東-23
10	くぼみ石	牛伏砂岩	11.3	8.2	2.9	290	表面にくぼみ、裏面左上側面・右側面に打痕	南東床直

## 白倉C区91号住居跡出土石器 図209 PL110・117

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	磨製石鏃	珪質準片岩	3.9	2.5	0.15	1.2	端部を打ちかいて成形している途中で右下を欠損、表裏面とも未調整	
6	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	2.0	0.2	0.6	両側面を研磨により整形、表裏面は未調整	
7	磨製石鏃	珪質準片岩	2.7	4.4	0.2	2.2	左側に沿って縦に条線を刻んで切断している、表裏面とも未調整、2点の接合	
8	磨製石鏃	珪質準片岩	4.1	3.0	0.2	3.1	表裏面とも未調整	
9	磨製石鏃	珪質準片岩	5.5	2.2	0.3	5.0	上半部の両側は打ちかいて山形にしている、表裏面とも未調整	
10	磨製石鏃	珪質準片岩	3.6	2.3	0.2	1.3	表裏面とも未調整	
11	磨製石鏃	珪質準片岩	3.4	1.7	0.2	1.3	表裏面とも未調整	
12	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.3	4.6	1.6	60	側面を全体に整形している、表裏面の長軸方向の縁辺部、右側面を中心によく使い込まれている	柱穴1周辺+14

遺物観察表

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
13	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.0	4.9	1.3	55	側面を整形している、長軸方向の縁寄りを中心に良く使い込まれている	柱穴2内
14	すり石	粗粒安山岩	6.2	5.3	4.7	190	全体にすり面、表裏面に打痕	柱穴1周辺+21
15	打製石斧	硬質泥岩	7.5	5.7	1.6	85	ほぼ全面に調整加えられるが、周辺の細かな調整は片面に集中する、完形品ながらかなり短い、撥形	覆土中
16	すり石	粗粒安山岩	8.8	7.3	7.1	575	全体にすり面、表裏面と側面に打痕	南壁際床直
17	すり石	変質安山岩	5.8	5.3	4.4	205	全体にすり面	西壁際床直
18	台石	雲母石英片岩	20.0	19.4	5.0	900	表面にすり面・打痕、裏面にもあるが明瞭でない	南+15

天引2号住居跡出土石器 図210 PL119

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
3	石 鎌	石英閃緑岩	16.5	9.6	28.5	495	大形の剝片を素材とし、両面に大きく素材面を残す、左側縁の上 $\frac{2}{3}$ 程に敲打痕がみられる	貯蔵穴内

天引4号住居跡出土石器 図210 PL119

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
9	くぼみ石	牛伏砂岩	14.6	6.4	4.4	530	表面に浅いくぼみ	東床直
10	すり石	溶結凝灰岩	11.3	9.4	5.4	800	表裏面ともきわめて平滑になっている	南+20
11	くぼみ石	牛伏砂岩	7.3	9.3	2.0	175	表裏面の中央寄りに浅いくぼみ	西-11

天引19号住居跡出土石器 図211 PL119

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
3	すり石	黒色片岩	21.0	4.7	2.3	385	上下両端を使用していると思われるが明瞭でない	南入口周辺床直
4	敲石	黒色片岩	19.8	4.3	3.5	460	上下両端にすり面、下端右側面に打痕	南床直
5	砥石	牛伏砂岩・中粒	9.0	7.0	2.4	125	表裏面とも縁寄りを中心に使用	西床直

天引22号住居跡出土石器 図211 PL119

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
26	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.1	4.1	1.6	55	表裏面とも研磨、表面に線状の研磨痕	中央+7
27	くぼみ石	緑色変質凝灰岩	10.2	7.5	3.3	330	側面が整形され表裏面とも平滑になっている、表面の中央にくぼみ、裏面は剝落のため不明、破損品	中央+6

## 1 弥生住居出土遺物

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
28	くぼみ石	緑色片岩	12.0	7.2	3.9	535	表裏面中心に長軸に沿ってくぼみ	中央+12
29	くぼみ石	牛伏砂岩	9.2	6.0	4.7	280	表裏面・左右側面下端にくぼみ、表面のものが深い	中央+11
30	砥石	牛伏砂岩・細粒	13.2	18.7	5.2	1,400	表面と左側面を砥石として使用、表面に2ヶ所浅いU字形の研磨溝、表裏面の中央寄りにくぼみ、表面には打痕がたくさんある	中央床直
31	砥石 くぼみ石	牛伏砂岩・中粒	11.2	7.9	7.0	585	表裏面と左側面に研磨、表面にくぼみおよび浅いU字状の研磨溝	貯蔵穴周辺床直
32	くぼみ石	緑色片岩	17.3	6.7	2.7	470	表裏面の縦方向の中心軸に沿ってくぼみ	中央+9
33	砥石 くぼみ石	牛伏砂岩・粗粒	12.4	8.0	3.5	390	表裏面とも研磨あり、また中心寄りにくぼみ、表面にU字状の研磨溝、左側面にえぐれるような研磨痕	中央+8
34	すり石 (砥石?)	粗粒安山岩	17.5	10.2	9.8	2,300	表面にくぼみ、左右両側面に研磨、左側面に線状研磨溝	貯蔵穴周辺床直

## 天引42号住居跡出土石器 図212 PL120

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
19	スクレイパー	硬質泥岩	2.8	7.2	1.2	25	横長の剥片を素材とし、打面側に両面から調整加える、素材剥片先端に使用の痕跡とみられる微細な剥離痕あり	覆土中
20	打製石斧	硬質泥岩	7.3	4.5	2.3	105	背面に自然面持つ剥片を素材とする、両面全周に調整加えられるが、一部に素材面残す、基部欠損、短冊型	覆土中
21	打製石斧	硬質泥岩	5.7	4.5	1.7	43	器体の半分以上が欠落し全体の形状不明	北西壁際+9
22	打製石斧	細粒安山岩	8.4	6.0	2.8	185	片面からの二回の大きな剥離により旧刃部失われる、刃部再生の意図によるものか、基部欠損、撥形	北+31
23	砥石	牛伏砂岩・中粒	5.3	3.8	2.7	55	全体に研磨面あり	南西床直
24	砥石	牛伏砂岩・細粒	10.3	5.8	1.3	100	表裏面とも使用、複数の研磨に伴ない浅いくぼみがある、左右側面に研磨	貯蔵穴内
25	砥石	牛伏砂岩・中粒	9.7	6.3	1.7	110	表面の縁部に沿って使用	中央+15
26	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.5	3.7	0.8	20	四角い形に整えている、左右の両側寄りを表裏面ともよく使用している	北壁際床直
27	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.9	6.3	1.6	100	表裏面・左右側面に研磨	北壁際床直
28	すり石	雲母石英片岩	8.7	4.3	1.6	125	表面・左右・上端側面にすり面あり	北壁際+8
29	くぼみ石	牛伏砂岩	8.2	7.2	3.9	205	表面にくぼみ、表裏面ともすり石としての使用の可能性あるが明瞭でない	中央+23
30	敲石	雲母石英片岩	10.8	9.5	4.4	523	表裏面の中央にくぼみ	南+21

遺物観察表

天引43号住居跡出土石器 図212 PL120

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
7	磨製石斧	変質蛇紋岩	5.2	4.4	2.8	90	根元寄り $\frac{2}{3}$ を欠損、刃部のみを研ぎ直している	南西壁際+8
8	打製石斧	硬質泥岩	10.0	6.6	1.9	160	横長剥片を素材とし、両面に素材面をかなり残す、刃部には使用による磨耗がみられる、撥形	北床直
9	すり石	粗粒安山岩	8.8	8.7	7.9	730	全体にすり面あり、打痕が多く認められるが明瞭でない	北西壁際床直

天引53号住居跡出土石器 図213 PL120

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
25	くぼみ石	緑色片岩	15.4	6.3	3.3	613	表裏面の中央寄りにくぼみ、表裏面にすり面、上下・左右側面に打痕	西-26
26	くぼみ石	緑色片岩	11.9	8.0	2.8	490	表裏面ともきわめて平滑になっている、表裏面中央にくぼみ、左右・上下側面に打痕	中央+27
27	すり石	変質安山岩	9.6	6.6	5.0	430	全面が非常に平滑になるまで使用されている、上下両端に打痕	東壁+12
28	台石	粗粒安山岩	21.1	20.0	6.7	5,300	表裏面の中央寄りを広く使用、研磨痕・打痕が認められる	柱穴3内

天引55号住居跡出土石器 図216 PL120

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
19	砥石	牛伏砂岩・細粒	9.1	6.0	1.4	80	表裏面とも使用、特に右縁寄りが、断面が鋭角になるほどにすり減っている	南床直
20	くぼみ石	牛伏砂岩	9.2	11.7	2.8	425	表裏面にU字状の研磨溝がある、表裏中央に2つのくぼみ	貯蔵穴周辺床直
21	すり石	粗粒安山岩	10.2	6.3	4.2	400	表裏ともすり面あり、上下両端に打痕	南+9
22	台石	緑色片岩	22.4	18.1	5.3	3,800	表裏とも全体に研磨面あり、特に表面の使用が著しく平滑になっている、また表裏とも打痕あり	北床直

天引56号住居跡出土石器 図213 PL120

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
9	スクレイパー?	変質安山岩	12.9	9.4	2.1	305	剥片素材、剥片の縁辺を折り取るように剝離した後、両面に調整加工を施す、一部折断面をそのまま残すことから未成品と思われる	南西床直
10	打製石斧	珪質頁岩	6.8	3.9	1.8	45	刃部・基部ともに欠損し、全体の形状不明、側縁の一部に敲打痕がみられる	北掘際床直
11	石 鎌	蛇紋岩	15.7	9.3	2.7	440	両面全周に調整加工を施し撥形に仕上げてある、刃部には使用による磨耗がみられ、特に表面左側が著しい	炉周辺床直
12	砥石	牛伏砂岩・粗粒	6.1	6.1	1.4	60	表裏面の右下寄りに使用面	覆土中

天引58号住居跡出土石器 図214 PL121

単位: cm, g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
12	石 鍬	ひん岩	14.4	8.3	3.5	505	両面全周に調整加えられるが、一部に自然面残す、中央よりやや上部の両側縁に稜線のつぶれがみられる、刃部欠損	中央+19
13	石 鍬	ひん岩	11.8	8.5	3.2	420	片面に大きく自然面残す、調整は主に周辺両面に施される、側縁の下1/2程は、稜線がかなりつぶれている、刃部欠損	中央+34
14	スクレイパー	硬質泥岩	4.3	9.4	1.0	40	横長の剥片を素材とし、打面部両面に調整を加えてある、素材剥片先端には使用によるとみられる微細な剝離痕あり	覆土中
15	砥 石 (有溝研磨器)	牛伏砂岩・粗粒	5.7	7.6	2.5	110	表面には平行する8条のU字形の研磨溝、裏面は同じものが3条あり、砥石としても使用	東床直
16	くぼみ石	緑色片岩	11.7	4.2	2.5	58	表裏面にくぼみ、破損	覆土中
17	多孔石・砥石	牛伏砂岩・中粒	20.2	9.0	6.3	1,300	表裏面にくぼみ、特に裏面に多い、表裏面を研磨に使用、右側が欠損している可能性がある	北西+19
18	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	18.9	28.6	8.9	4,100	表裏面とも複数のU字状に大きくくぼむ研磨痕がある	南・東床直(2片)
19	砥 石	牛伏砂岩・細粒	16.9	10.1	3.2	530	表面の中央よりが浅いU字状にくぼむまで使い込まれ、裏面は縁寄りに極めて平滑な使用面がある、表面には打痕と思われるくぼみが5ヶ所ある	東+32

天引60号住居跡出土石器 図214 PL121

単位: cm, g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	石 鍬	デイサイト	10.6	9.8	2.1	205	被熱により、基部と両面のかなりの部分を欠損、刃部は両面から調整を加え孤状に成形	柱穴4内
7	砥 石	牛伏砂岩・細粒	19.1	17.0	4.2	1,800	表面全体を使用し、面が平滑になっている	中央床直

天引62号住居跡出土石器 図215 PL121

単位: cm, g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
19	打製石斧	珪質頁岩	10.3	6.1	1.2	100	両面全面に調整を加える、両端ともに使用による磨耗がみられるが、特に裏面基部側が著しい、くびれ部の両側縁にも磨耗あり、分銅形	覆土中
20	砥 石	牛伏砂岩・中粒	5.5	5.0	1.1	25	表裏面を中心に非常によく使い込まれている	覆土中
21	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	7.8	9.1	1.4	120	表面の縁部と上端の側面を中心に使用痕跡が認められるが余り明瞭でない	覆土中
22	くぼみ石	牛伏砂岩	10.0	11.1	5.4	540	表裏面ともくぼみあり	覆土中
23	くぼみ石	牛伏砂岩	9.5	7.0	5.2	325	縁部寄りにすり面、表面にくぼみあり、破損品と思われる	南床直
24	くぼみ石 (石皿)	牛伏砂岩	16.1	10.3	6.0	900	表面研磨、中央にくぼみ、裏面と右側にくぼみ	炉周辺床直

遺物観察表

天引65号住居跡出土石器 図215 PL121

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
26	石 鍬	硬質泥岩	13.7	9.3	2.8	370	大形の剥片を素材とし、一部に素材面残す、刃部・基部を欠損	南+37
27	打製石斧	硬質泥岩	5.9	4.9	1.8	65	片面に大きく自然面残す、器体の半分以上が欠損し全体形状は明確ではない	覆土中
28	石 鍬	雲母石英片岩	12.4	6.8	1.0	105	板状の素材の全周に調整加える、えぐり部は特に細かな調整が加えられている、刃部欠損	柱穴3周辺+18
29	磨製石斧	蛇紋岩	8.8	4.3	0.8	40	剥離によって形状を整えた後、全体を磨いている、研磨痕は全面にみられるが、一部剥離面も残し、未成品と思われる	南+14
30	砥 石	牛伏砂岩・細粒	3.4	3.8	0.8	10	表裏面を使用	覆土中
31	砥 石	牛伏砂岩・中粒	8.9	4.8	1.2	55	表裏面の縁寄りを中心に使用	南+13
32	砥 石	牛伏砂岩・細粒	13.3	5.7	3.3	190	表面を砥石として使用、表面に研磨による浅いU字状の溝がある	南+12
33	砥 石	牛伏砂岩・中粒	8.5	6.5	2.4	130	表裏面及び左側を砥石として使用、表面中央に研磨による溝あり	覆土中

天引74号住居跡出土石器 図216 PL122

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	スクレイパー	珉質頁岩	3.3	6.6	0.9	30	横長剥片を素材とし、打面部の両面に調整加工施す、器体の半分を欠損	覆土中
6	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	6.7	6.4	2.2	115	表裏面の縁寄りを中心に研磨、表裏面中央にくぼみ	西壁際+15
7	砥 石	牛伏砂岩・中粒	17.2	10.5	3.1	630	表裏面とも全体に使用	北+24
8	多孔石・砥石	牛伏砂岩・粗粒	15.6	17.6	7.7	2,400	表面を砥石（あるいは石皿）として使用し、複数の研磨面をもつ、また表面に3個、裏面に多数のくぼみを持つ	西+22

天引84号住居跡出土石器 図216 PL122

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
23	砥 石	牛伏砂岩・細粒	8.8	7.5	2.0	130	表面を砥石として使用、溝状の研磨痕がある	覆土中
24	砥 石	牛伏砂岩・中粒	8.9	11.3	1.7	205	中心より打痕	東+10
25	すり石	デイサイト	9.2	10.5	2.8	395	表裏面を使用	中央床直
26	石 鍬	雲母石英片岩	22.1	8.7	1.9	490	薄い板状の素材の全周に調整加える、えぐり部は特に念入りに調整される	東壁+22
27	不明石器	珉質頁岩	6.6	2.0	2.1	45	全面に縦・横の細かい研磨痕が認められる、右側面は使用痕跡かと思われる、平滑な光沢面となっている	北床直

天引85号住居跡出土石器 図217 PL122

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
13	砥石	牛伏砂岩・粗粒	8.9	8.6	2.8	225	左側面に研磨あり、使用によりえぐれている	中央+21
14	有溝研磨器 (砥石)	牛伏砂岩・粗粒	7.9	7.0	3.0	175	表面に研磨によるU字状の溝が多数、裏面は縁寄りに研磨	中央+9
15	砥石	牛伏砂岩・中粒	12.0	6.1	4.3	385	表裏面と右側面が全体に使用されている	炉周辺+7
16	砥石	牛伏砂岩・中粒	6.6	8.1	2.3	95	表裏面とも全体によく使い込まれている、表裏面に研磨溝あり	東+26
17	打製石斧	細粒安山岩	3.5	3.5	1.4	20	基部・刃部両端を欠損し全体の形状は不明、調整は両面に施されるが、一部に素材剥片の面を残す	覆土中

天引91号住居跡出土石器 図217 PL122

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
4	砥石	牛伏砂岩・中粒	8.0	7.2	1.9	115	表裏面とも使用、表面中央に浅い溝状の研磨痕、表裏面に打痕	覆土中
5	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.9	5.9	1.8	75	表裏面とも縁部に沿って使用	覆土中
6	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.5	5.3	1.3	708	表裏面とも縁部に沿って使用されているが、あまり顕著でない	覆土中
7	砥石	牛伏砂岩・中粒	5.6	6.3	1.8	75	表面を使用しているがあまり顕著でない	北西+17
8	すり石	粗粒安山岩	8.1	8.3	5.8	560	表裏にすり面、中央に浅いくぼみ、側面に打痕、下端が著しい	西床直
9	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.9	6.3	1.9	125	表裏面とも使用、あまり使われていない	覆土中
10	不明石器	珪質頁岩	3.7	4.7	2.6	85	定形的な形状のものが破損した後に再利用している、研磨に使用され、縁部に光沢をもつ、特に右側面に著しい	西壁際+27

天引100号住居跡出土石器 図217 PL122

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
13	砥石	牛伏砂岩・粗粒	6.4	7.0	2.1	85	表裏面とも縁部を中心に使用	貯蔵穴内
14	砥石	牛伏砂岩・粗粒	5.8	7.4	3.3	140	表面のみ使用	貯蔵穴内
15	有溝研磨器	牛伏砂岩	9.8	8.0	1.9	155	表裏面とも研磨、U字状の研磨痕がある、特に表面のものが深い、また、右側面に研磨面	東-32
16	くぼみ石	牛伏砂岩	10.1	6.4	3.4	260	表面研磨、表裏面にくぼみ、破損品	貯蔵穴内

遺物観察表

天引105号住居跡出土石器 図218 PL122

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
2	砥石	牛伏砂岩・粗粒	5.8	3.8	2.2	55	表面のみ使用、あまり使用されていない、裏面にくぼみ(?)あり、破損品	覆土中
3	砥石	牛伏砂岩・粗粒	13.3	9.0	3.1	390	表面の中央が研磨によりくぼんでおり、また浅い線状の溝がある	入口周辺+11
4	すり石	粗粒安山岩	11.1	11.4	6.3	1,500	表裏ともすり面、中央寄りにくぼみあり	南床直

天引110号住居跡出土石器 図218 PL123

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
18	石 鋏	硬質泥岩	8.4	8.2	2.8	275	厚手の剥片素材、全周のほぼ両面に調整が加えられる、基部欠損	中央+21
19	打製石斧	珪質頁岩	3.8	4.8	1.7	37	刃部・基部ともに欠損し、全体の形状は不明	覆土中
20	打製石斧	珪質頁岩	13.3	4.8	1.5	157	器体の下1/2程は、使用による磨耗が著しい、また両側縁の上1/2程の部分には研磨痕がみられる、撥形	中央+7
21	石 鋏	粗粒安山岩	13.5	8.4	3.1	375	刃部破損の後、破断面からの調整がみられる、再利用を意図したものか	柱穴3周辺+8
22	磨製石斧	変玄武岩	6.1	8.7	3.4	280	破損後に上端の両側面を敲打用に再利用	柱穴2内
23	石 鋏	変質安山岩	14.4	14.0	4.1	640	刃部が扇状に大きく広がる、刃部の薄さに対し、基部はかなりの厚味を持つ、大形の剥片素材、基部欠損	南+20
24	砥石	牛伏砂岩・中粒	7.3	9.3	2.8	165	表面の中心寄りを主として使用	入口周辺床直
25	すり石	デイサイト	11.0	8.9	6.0	850	表裏面にすり面、上端および左右両側面に打痕	東+14
26	砥石	牛伏砂岩・細粒	3.1	3.9	0.8	15	四角い形に整形して表裏面を使用、特に主軸と平行する縁辺部がよく使い込まれている、下半分破損	覆土中

天引112号住居跡出土石器 図219 PL123

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
21	打製石斧	硬質泥岩	10.1	5.8	2.2	170	全周のほぼ両面に調整加えられる、両端に使用による磨耗がみられるが、刃部側が特に著しい、分銅形	東+16
22	スクレイパー	硬質泥岩	9.7	4.2	1.2	55	全体に大きく剥離を加えた後に上下両端の両面に細かな調整を施す、両側縁にはほとんど加工みられない	覆土中
23	砥石	牛伏砂岩・粗粒	7.2	4.8	1.8	73	表裏面とも使用、表裏面にくぼみあり、破損品	覆土中
24	砥石	牛伏砂岩・粗粒	9.5	8.6	3.3	290	右側面研磨、表裏面にかすかな打痕	北東床直
25	多孔石	変輝緑岩	17.6	22.5	11.2	4,300	表面にくぼみ多数、破損品	北東壁際-5

天引121号住居跡出土石器 図220 PL123

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	打製石斧	硬質泥岩	12.9	8.1	2.4	180	全周のほぼ両面に調整加えられる、刃部に裏面からの大きな剝離がみられるが、使用による破損と考えられる、撥形	貯蔵穴内
7	くぼみ石	黒色片岩	11.4	6.1	2.0	235	表裏面の中央に長軸に沿ってくぼみ、裏面にすり面	西床直
8	石包丁	緑色片岩	3.8	6.1	0.5	20	板状の素材の表面及び周縁部を研磨により整形、裏面は剝離面をそのまま残す、さらに下端部を表裏面から研磨して刃をつけている、使用による刃こぼれが認められる 右半分破損	西-21

天引116号住居跡出土石器 図219 PL123

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
11	石 鋏	緑色片岩	15.2	10.1	2.1	485	板状の素材の全周に調整加える、器体ほぼ中央の両側へえぐりが入る	南+8
12	打製石斧	硬質泥岩	8.2	8.6	2.3	213	剝片素材、全周両面に調整加える、刃部には使用による磨耗がみられる、基部欠損、撥形	北東床直
13	打製石斧	細粒安山岩	10.3	4.0	1.6	85	全面に調整加えられる、刃部に使用による磨耗がみられる、短冊形	炉周辺床直
14	砥 石	牛伏砂岩・細粒	10.1	5.8	1.5	95	表裏面と右側面に研磨、特に右縁辺部がよく使われている、右側面上寄りに研磨溝	東+15
15	砥 石	牛伏砂岩・中粒	10.5	8.5	2.2	22.5	表裏面・左上側面に研磨、表裏面に浅いU字状の研磨溝	南+8
16	砥 石 くぼみ石	牛伏砂岩・中粒	6.6	10.7	2.9	245	表裏面研磨、右左の縁辺部寄りがよく使い込まれている、表裏面の中央寄りにくぼみ	東+8

天引151号住居跡出土石器 図220 PL123

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
22	石 鋏	珪質頁岩	7.7	7.7	3.2	268	大型の剝片素材で一部に素材面残す、刃部欠損	中央床直
23	スクレイパー	泥岩	6.5	6.4	1.6	96	横長の剝片を素材として打面部の両面に調整加える、被熱により周縁部を欠損するため全体形状は不明	南東+15
24	磨製石斧	変玄武岩	11.7	5.7	2.6	280	破損後に表裏面をすり石として使用、下端部周辺に打痕	柱穴3周辺+15
25	砥 石	変玄武岩	13.5	18.0	9.0	3,700	表裏面研磨、表面に打痕	柱穴1内
26	すり石	粗粒安山岩	9.3	7.7	6.2	650	全体にすり面、表裏面の中央寄りに打痕	柱穴3内
27	紡錘車形石製品	硬質泥岩	2.6	2.7	0.4	8.0	表裏面とも平滑に仕上げ、側面は角が少し残る、穿孔は両面から行なっている	西壁際床直

遺物観察表

天引153号住居跡出土石器 図220 PL123

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
17	砥石	牛伏砂岩・粗粒	14.0	9.3	2.8	375	表裏面研磨、表面下端寄りに研磨	南壁際+8(2片)

## 2 弥生方形周溝墓出土遺物

白倉C区1号方形周溝墓出土土器 図175 PL86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 完形	口 16.5 底 7.2 高 29.3	胎 緻密、砂礫を少量混 じる 焼 良好 色 橙ないし明赤褐色	外面 口頸部横ナデ→縦ヘラ磨き、胴部ヘラ削り→縦ナ デ後胴上部 LR 縄文→胴中位～下半斜め縦ヘラ磨き、底 面ナデ 内面 口頸部横ナデ→横ヘラ磨き、胴部横ナデ 内面剥落有り	北東掘底+10
2	壺(?) 底部	口 — 底 7.4 高 (4.3)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ヘラナデ→下端横ナデ、底面網代痕 内面 横ナデ	外面スス 弥生中期 北西掘底+30
3	甕 口縁	口縁部輪積痕を残す、くびれ部2節籐状文→胴上部波状文、砂粒を含む、鈍い橙色 西掘底+39～+48(2片)			
4	壺 口縁	段状口縁、緻密、砂粒を含む、鈍い黄褐色 覆土中			
5	甕	くびれ部単節籐状文(7条)2段、胴上部波状文、砂粒を含む、明黄褐色、14号住居の遺物混入か? 覆土中			

白倉C区2号方形周溝墓出土土器 図175 PL85・86

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁～ 胴下部	口 17.0 底 — 高(17.1)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い黄橙、暗赤褐色	外面 口縁縦ハケ→縦ナデ→口縁端横ナデ、胴部縦ない し斜め縦ヘラ削り→胴上部部分的に縦ハケ、胴中位以下 ヘラナデ 内面 横ナデ 文様 くびれ部単節籐状文→ 上下に波状文各1段、胴中位羽状籐絵描き	8・32・39号住居の遺 物の混入か? 覆土中
2	壺 底部	口 — 底 9.0 高 (5.3)	胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 斜め縦条痕文、底部網代痕 内面 横ナデ→部分的にヘラナデ	弥生中期 北掘底+5
3	壺	口 — 底 6.4 高(20.5)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦ハケ→ナデ 内面 横ヘラ削り→横ヘラナデ 文様 くびれ部波状文2段(上→下、5条)、摩耗著しい	8・32・39号住居の遺 物の混入か? 覆土中
4	甕 胴部	口 — 底 — 高(11.8)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い橙色	外面 縦ハケ→縦ナデ 内面 横ヘラ磨き	39号住居の遺物の混入 か? 南掘底直～+29(5片)
5	甕 胴部	口 — 底 — 高(11.3)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 縦ヘラ削り→縦ヘラ磨き 内面 斜め横ヘラナデ→斜め横ヘラ磨き	32号住居の遺物の混入 か? 東掘底+11～+ 17(3片)

白倉C区1号方形周溝墓出土石器 図221 PL113・117

単位：cm・g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	ヒスイ垂飾 (勾玉?)	ひすい質?石英	2.6	1.9	1.4	11	不定形な形状、両面穿孔	北掘底面-30
7	磨製石鏃	珪質準片岩	2.5	3.1	0.3	3.5	右側を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	
8	磨製石鏃	珪質準片岩	4.5	2.4	0.3	3.2	両側を打ちかきにより山形に成形、下半欠損	
9	磨製石鏃	珪質準片岩	3.8	2.9	0.6	10.2	素材片	
10	磨製石鏃	珪質準片岩	3.7	2.5	0.6	9.3	素材片	
11	二次加工 ある剝片	硬質泥岩	7.5	7.9	2.0	140	剝片を素材とし、両側及び先端に不規則な調整加える、スクレイパーの未成品か	覆土中
12	石 鏃	デイサイト	8.7	7.8	2.9	253	全周に調整加えるが、一部に素材面残す、刃部欠損	覆土中
13	打製石斧	珪質頁岩	5.5	4.7	1.4	65	刃部・基部を欠損、両側に調整加えられるが、素材剝片の面を大きく残す、形状不明	覆土中
14	砥 石	牛伏砂石・中粒	8.6	3.4	1.7	55	表裏面とも使用	覆土中
15	砥 石	デイサイト	9.9	8.6	5.8	695	全体にすり面、表裏中央上下両端に打痕	南西掘底面+11
16	くぼみ石	緑色片岩	11.8	7.6	3.9	490	表裏面の中心にくぼみが縦に並ぶ、左右側面に打痕	覆土中
17	すり石	粗粒安山岩	9.9	9.4	4.7	760	表裏ともすり面、中央寄りにくぼみあり、側面に打痕	南西掘底面+13
18	すり石	粗粒安山岩	7.1	6.0	4.2	230	表裏ともすり面、中央寄りに打痕	覆土中
19	敲石?	デイサイト	9.9	8.0	7.2	775	上寄りには屋根形に面を整形している、根元寄りを中心に打痕が一周している	覆土中
20	石 皿?	変玄武岩	21.7	13.3	9.5	3,400	破損品、表面研磨により浅いえぐれ、裏面くぼみが多数	南西掘底面-8
21	多孔石	牛伏砂岩	17.3	10.6	4.5	900	表裏面にくぼみ、表面に特に多い	西掘底面+30
22	台 石	緑色片岩	11.3	11.8	4.7	1,000	表面に研磨痕・打痕	南西掘底面+9

白倉C区2号方形周溝墓出土石器 図222 PL111

単位：cm・g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	磨製石鏃	珪質準片岩	1.9	1.6	0.3	0.8	表裏面とも粗い研磨後、縁部に沿ってさらに調整、両面穿孔、裏面からの穿孔時に破損か	
7	磨製石鏃	珪質準片岩	1.4	0.9	0.2	0.3	表裏面とも研磨後、縁部に沿ってさらに研磨	
8	磨製石鏃	珪質準片岩	2.3	1.4	0.3	0.9	表裏面とも粗い研磨、右側面研磨による整形	
9	砥 石	牛伏砂岩・細粒	5.1	5.6	1.3	55	四角に切り整え、長軸方向の縁部に沿って中心に全体によく使い込まれている	覆土中
10	砥 石	牛伏砂岩・粗粒	6.9	4.8	1.9	65	表裏面を使用、表面は使用により内湾している	覆土中
11	石 鏃	硬質泥岩	6.5	8.9	2.2	200	刃部・基部欠損、破断面からの剝離が一部にみられる、両側に調整加えられるが、一方は素材剝片の腹面にのみ施す	覆土中

遺物観察表

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
12	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.3	8.2	1.5	85	表裏面の縁部に沿ってよく使用されている、下端に打痕	覆土中
13	砥石	牛伏砂岩・中粒	9.0	4.1	2.4	115	表裏面の縁部に沿って使用	覆土中
14	すり石	粗粒安山岩	8.7	5.7	2.8	207	表面は使用により滑らかになっており、中心寄りにくぼみ 上端寄り破損	覆土中

### 3 弥生土壌出土遺物

白倉B区16号土壌出土土器 図176 PL124

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い橙色	折り返し口縁、口唇部及び折り返し部 LR 縄文 口頸部横走条痕文その下側に羽状条痕文	内外面スス 覆土中
2	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	折り返し口縁、口唇部及び折り返し部は縦の線状痕	外面スス 覆土中
3	壺 頸部		胎 緻密 色 鈍い黄橙色	LR 縄文	外面スス 覆土中
4	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	斜走沈線により区画、区画内 LR 縄文	外面スス 覆土中
5	壺 頸部		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	横走条痕文	覆土中
6	甕 胴上部		胎 緻密、砂粒を含む 色 明赤褐色	横走沈線による磨消縄文	外面スス 覆土中
7	壺 (?) 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走条痕文、内面剝離	覆土中
8	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横・斜走沈線による区画、区画内 LR 縄文	底面
9	壺か鉢 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線を主とする磨消縄文	覆土中
10	甕 (?) 胴部		胎 砂粒を含む 色 黒褐色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	覆土中
11	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	斜走条痕文	外面スス 覆土中
12	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	斜走条痕→ナデ	外面スス、内面コゲ 覆土中
13	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 明赤褐色	横・斜走沈線による三角形の区画に LR 縄文	外面スス 底面+6
14	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗赤褐色	横走条痕文	外面スス 覆土中

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
15	甕 胴下部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 暗褐色	斜走条痕文	外面スス 覆土中
16	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	斜走条痕文	覆土中
17	鉢 ? 胴部		胎 微砂粒を含む 色 鈍い褐色	横走沈線を主とする磨消縄文	外面スス 覆土中
18	壺 ? 底部	底 9.0 高 (3.4)	胎 砂粒を多く含む 色 鈍い橙色	内面剥落	底面周縁スレ 覆土中
19	甕 底部寄り		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い黄褐色		覆土中
20	甕 ? 底部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	外面 斜走条痕文整形、底面網代痕	覆土中

## 白倉B区83号土壌出土土器 図176 PL124

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	鉢(筒形) 口縁部		胎 砂粒を含む 色 明赤褐色	口縁端内傾、磨消縄文 外面 赤色塗彩 内面 ヘラ磨き	外面頸部スス 底面

## 白倉B区97号土壌出土土器 図177 PL124

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 胴上部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 淡黄色	外面 波状文→藤状文(11条) 内面 ナデ 文様帯を除く胴部赤色塗彩	外面スス 底面+16

## 白倉B区152号土壌出土土器 図177 PL124・125

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 胴部		胎 砂礫をやや多く含む 色 橙色	外面 胴下部斜走条痕文整形 内面 横ナデ 文様 胴上部上～下へ横走条痕→羽状条痕→横走条痕	外面中～下位にスス 底面+16
2	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	わらび手状の沈線	覆土中
3	甕 胴下部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	斜走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
4	鉢 ? 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文(LR)	覆土中
5	甕 底部	口 一 底 6.0 高 (3.3)	胎 緻密、砂粒をやや多 く含む 焼 良好 色 鈍い黄褐色	外面 ヘラナデ、底面木葉痕→ナデ 内面 横ナデ	外面スス、底面周縁スレ、内面ヨゴレ 覆土中

遺物観察表

白倉B区162号土壌出土土器 図177 PL124

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	幅広い口縁部縄文帯 (LR)	外面スス 覆土中
2	壺 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色		1と同一個体か? 覆土中
3	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	折り返し口縁、折り返し部と口唇部に縦ハケ状整形	外面スス 覆土中
4	鉢 ? 口縁		胎 緻密 色 暗褐色	口唇部及び外面 LR 縄文→縦走沈線	外面スス 覆土中
5	鉢 口縁		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	口縁端に横走沈線区画の幅 1 cmの縄文帯	覆土中
6	鉢 ? 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 暗褐色	口唇部押圧により波状を呈する 外面 LR 縄文	外面スス 覆土中
7	壺 頸部 ?		胎 緻密 色 鈍い褐色	幅広く浅い横走沈線の上側LR 縄文	覆土中
8	壺 頸部 ?		胎 緻密 色 赤褐色	横走条痕文の上側に縦走条痕文	外面スス 覆土中
9	壺 胴上部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横・斜走沈線による区画内は LR 縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
10	甕 胴下部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
11	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	ナデ→斜走条痕文	外面スス 覆土中
12	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	縦・斜走条痕文	外面・断面スス、内面 コゲ 覆土中
13	鉢 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 鈍い黄橙色	曲線状の沈線による磨消縄文	覆土中
14	壺 ? 底部	底 7.8 高 (2.1)	胎 砂礫を含む 色 橙色	底面網代痕	内面コゲ 覆土中

白倉B区163号土壌出土土器 図176 PL124

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走沈線による区画に縦ハケ状整形(磨消縄文状をなす)	覆土中
2	壺 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 明赤褐色	幅広く浅い曲線状の沈線による磨消縄文	覆土中
3	壺 ? 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 淡黄色	横走沈線による磨消縄文、外面赤色塗彩	覆土中

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	甕 口縁寄り		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横走条痕文	外面スス、内面ヨグレ 覆土中
5	甕 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 黄橙色	上から下へ羽状条痕文、横走条痕文	外面スス 覆土中
6	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	LR 縄文→横走条痕文	外面スス 覆土中
7	甕 胴部		胎 緻密 色 暗褐色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	外面スス、内面コゲ 覆土中
8	鉢 胴部		胎 微砂粒を含む 色 鈍い褐色	縦横の沈線の区画に縦ハケを充填 (磨消縄文状の施文)	外面スス 覆土中

## 白倉B区179号土壌出土土器 図177 PL125

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口頸部	口 7.6 底 — 高(11.2)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙ないし鈍い褐色	横走沈線により3段に区画、区画内はLR 縄文 口唇部 LR 縄文	底面

## 白倉B区183号土壌出土土器 図178 PL131

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型壺 口縁~胴部	口 6.3 底 — 高(8.1)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	口縁部は片側が外反しながら外側へ張り出し片口状を呈する、くびれ部には4条の横走沈線が施され、胴部には中心の小突起を三重に同心円の沈線がめぐり、沈線の区画内に縄文が施される	底面+33
2	小型甕 胴部	口 — 底 — 高(10.8)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい黄褐色	外面 胴上部 LR 縄文→斜走平行沈線→部分的にヘラ磨き、胴下部縦ヘラナデ 内面 横ヘラナデ、ヘラ磨き	底面+31
3	甕 口~胴部		胎 砂礫を含む 色 橙色	折り返し口縁、折り返し部及び口唇部に LR 縄文 口頸部は無文、胴部との間に横走沈線	底面+32
4	浅鉢		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	口縁部は外側に大きく開く、口縁端部は横走沈線により区画された縄文帯、これより下部は縦・横走沈線による磨消縄文、口縁端寄りに横並びに2つの小孔が穿たれている	底面+39
5	鉢		胎 微砂粒を含む 色 にぶい黄褐色	筒形を呈する、磨消縄文	底面+29
6	壺		胎 砂礫を含む 色 暗褐色	縦・横走沈線による磨消縄文	底面+28
7	鉢		胎 砂粒を含む 色 黒褐色	口縁部が大きく開く、口縁端部は横走沈線によるLR 縄文帯、下は弧状沈線による磨消縄文	底面+51

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
8	甕		胎 砂礫を含む 色 赤褐色	右下がりと左下がりの斜走条痕を左から右へ交互にくり返す	底面+29～+47(4片)
9	甕		胎 砂粒を含む 色 褐色	胴上部横走条痕文	底面+21

白倉B区231号土壌出土土器 図179 PL124

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口 縁		胎 砂礫を多く含む 色 明黄褐色	波状沈線	底面+6
2	甕 口 縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	折り返し口縁、口唇部折り返し LR 縄文	外面スス 底面+6
3	壺 頸 部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線の上に羽状沈線	覆土中
4	壺 頸 部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線の下側に斜走沈線区内縄文	外面スス 覆土中
5	壺 胴 部 ?		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線の上側 LR 縄文	外面スス 覆土中
6	壺 胴 上部		胎 砂礫を多く含む 色 浅黄褐色	3条の横走沈線の下側に4条の斜走沈線で三角形に区画、区内縄文	外面スス、内面一部コゲ 覆土中
7	鉢(筒形) 胴 部		胎 緻密 色 褐色	縦・横走沈線による磨消縄文	外面スス 覆土中
8	鉢 ? 胴 部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	磨消縄文	
9	鉢(筒形) 胴 部		胎 緻密 色 褐色	横・縦走沈線による磨消縄文	外面スス 覆土中

白倉B区263号土壌出土土器 図179 PL124

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口 縁		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	折り返し口縁、無文	底面+11
2	壺 胴 部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文	覆土中
3	壺 胴 部		胎 緻密、砂粒を含む 色 暗褐色	胴上部磨消縄文	外面スス、内面コゲ 底面+16
4	甕 胴 部		胎 砂粒を多く含む 色 褐色	斜走条痕文	外面スス 底面+15
5	甕 胴 部		胎 緻密 色 暗褐色	横走沈線を主とする磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中

## 白倉B区谷出土土器 図178 PL131

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	片口 ミニチュア	口 6.5 底 4.0 高 3.5	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	手捏、ナデ整形 内外面とも赤色塗彩	

## 白倉C区1号土壌出土土器 図179 PL125・127

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄橙色	外面 LR 縄文 内面 横へら磨き	覆土中
2	壺 ? 胴上部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	縄文地に横走沈線	内面コゲ 覆土中
3	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	斜走条痕文	覆土中
4	甕 ? 胴下部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	斜走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
5	甕 ? 胴下部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	外面 斜走条痕文 内面 横へら磨き	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
6	甕 底部	口 — 底 7.8 高 (3.9)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 強い縦ハケ→下端横ナデ、底面網代痕 内面 強い横へら磨き	外面スス 覆土中
7	壺 底部	口 — 底 5.2 高 (2.8)	胎 緻密、砂礫を少し含む 焼 良好 色 橙色	外面 地文として LR 縄文→横走沈線による区画を磨消、底面は網代痕を粗くナデ消している 内面 横へら磨き 外面下端から底面縁寄りを棒状工具により斜めに貫通した小孔が2つ対の位置にある	内面ヨゴレ 底面+13

## 白倉C区2号土壌出土土器 図179 PL125・127

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄橙色	外面 LR 縄文	覆土中
2	壺 口頸部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	2条の横走沈線	覆土中
3	壺 ? 胴上部		胎 砂粒をやや多く含む 色 鈍い褐色	縄文地に幅広の沈線	外面スス 覆土中
4	壺 口頸部		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄橙色	口縁部に幅広の LR 縄文帯、下側に3条の横走沈線	覆土中
5	甕 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 褐色	LR 縄文	外面スス、内面コゲ 覆土中

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	甕 ? 胴上部		胎 緻密 色 橙色	外面 縦条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
7	甕 ? 底部	口 一 底 5.4 高 (2.3)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦ヘラナデ→下端横ナデ、底面網代痕 内面 強いヘラナデ	外面全体にスス 覆土中

白倉C区3号土壌出土土器 図181 PL127

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 ? 口縁		胎 緻密 色 灰褐色	口唇部縄文による押圧、口縁端 LR 縄文の文様帯、口頸部は横走条痕文	外面スス 覆土中
2	浅鉢 口縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	口縁端は波状を呈する、横沈線による磨消縄文 (LR 縄文)	内外面スス 覆土中
3	浅鉢 口縁			No 2 と同一個体と思われる	覆土中
4	鉢(筒形) 口縁		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	地文に単節縄文、口縁端は LR、他の部分は不定方向沈線による磨消縄文、文様はT字形にはさまれた区画内に方形を入れ子状に3重に描いたものを単位として一周する	内面薄いヨゴレ 覆土中
5	壺 胴上部		胎 砂礫を含む 色 灰褐色	横走沈線の下に斜走沈線、区画内 LR 縄文	覆土中
6	壺 胴中位		胎 砂礫を含む 色 鈍い褐色	LR 縄文地文の磨消縄文で、文様帯の境界にあたる	覆土中
7	壺 (?) 胴部		胎 緻密 色 鈍い褐色	縦走条痕文の下側に横走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
8	甕 (?) 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 灰褐色	幅広の浅い沈線、区画内 LR 縄文 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
9	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	外面 横走条痕文 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面コゲ 覆土中
10	甕 胴上部		胎 緻密 色 黒褐色	横走沈線による磨消縄文、縄文は LR	覆土中
11	甕 ? 胴上部		胎 緻密 色 暗褐色	地文にLR・RL 縄文→沈線	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
12	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 灰褐色	外面 横走条痕文	外面スス 覆土中
13	甕 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 暗褐色	外面 横走条痕文 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面コゲ 覆土中
14	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	外面 横走条痕文 内面 横ヘラナデ	外面スス、内面コゲ・ ヨゴレ 覆土中
15	甕 底部	口 一 底 6.6 高 (3.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	外面 縦ヘラナデ→下端横ナデ、底面網代痕 内面 横ヘラ磨き	外面スス、内面コゲ 覆土中

白倉C区5号土壌出土土器 図180 PL125・127

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い褐色	2条の横走沈線によって区画された幅広の文様帯に LR 縄文、沈線の下側は横走条痕文	覆土中
2	壺 口縁		胎 砂礫を含む 色 褐灰色	段差をもつ幅広の口縁部文様帯に LR 縄文を施文し、縦位の隆帯を貼付している	加熱痕なし 底面+45
3	小型壺(?) 口縁		胎 砂礫を含む 色 橙色	折り返し口縁、折り返し部及び少し間隔をあけた口頸部に LR 縄文、器面摩耗	覆土中
4	小型壺 口縁		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	折り返し口縁、折り返し部 LR 縄文、口頸部横へら磨き無文、口唇部縄文	外面スス、内面口縁端スス 底面+7
5	甕 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い褐色	折り返し口縁、折り返し部・口唇部 LR 縄文、下側に沿って沈線、頸部横走沈線による磨消縄文?	外面スス 覆土中
6	甕 ? 口縁		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	口唇部押圧により波状をなす、口縁部無文	断面スス 覆土中
7	甕 ? 口縁		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	口縁端に幅1.7cmの文様帯をつくり下側は沈線によって画されている、口唇部から文様帯にかけて、縦位の刷毛状の条痕が施される	外面スス 覆土中
8	甕 ? 口縁		胎 砂粒を含む 色 褐灰色	口唇部押圧により波状をなす、口縁端は幅約2cmの文様帯でNo.7と同一の施文具使用、下側との境は低い段をなす	覆土中
9	甕 口縁		胎 緻密 色 褐灰色	口縁端に沈線によって画された幅2cmの縄文帯(LR) 下側は無文	加熱痕なし 覆土中
10	甕 口縁		胎 緻密 色 鈍い黄橙色	内外面ともに横へら磨き、口縁は幅広の無文帯、その下を沈線で区画し下側は横走条痕文	内外面スス 底面+37・+49(2片)
11	鉢(筒形) 口縁		胎 砂礫を含む 色 灰黄褐色	口縁端に幅1.2cmの縄文帯(LR) をめぐらし、その下は縦・横の沈線による磨消縄文	加熱痕なし 覆土中
12	鉢 口縁		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	横走沈線による磨消縄文(LR)、口唇部にも縄文	加熱痕なし 覆土中
13	壺 口頸部		胎 砂粒を含む 色 灰褐色	浅い沈線による縦走羽状文	加熱痕なし 覆土中
14	小型壺あ るいは鉢 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	縦を中心とした沈線による磨消縄文	加熱痕なし 覆土中
15	甕 胴下部		胎 緻密 色 褐灰色	斜走条痕文	外面スス、内面コゲ・ ヨゴレ 覆土中
16	甕 ? 胴部		胎 緻密 色 灰褐色	縦方向の沈線を主とする磨消縄文	覆土中
17	壺 胴上部		胎 砂礫を多く含む 色 橙色	LR 縄文の下側に平行する4条の横走沈線	覆土中
18	壺 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横走の波状沈線による磨消縄文	内面ヨゴレ 覆土中

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
19	甕 胴部	口 — 底 — 高(30.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙～鈍い黄褐色	外面 胴下部横走・斜走条痕文整形 内面 横ナデ 文様 胴上部横走沈線を主とする磨消縄文 (LR)	外面全体にスス、内面上位ヨゴレ、下位コゲ 底面～+35 (3片)
20	甕 ? 胴部		胎 緻密 色 暗褐色	平行する横走沈線の区画内に LR 縄文、下側には横走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 底面+30
21	甕 胴上部		胎 緻密 色 鈍い黄褐色	平行する横走沈線による磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
22	壺 ? 底部	底 7.2 高 (5.8)	胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	外面 縦ヘラナデ、底面網代痕→ナデ 内面 横ナデ	外面スス、内面コゲめぐる 底面+44
23	甕 ? 底部	底 3.0 高 (1.9)	胎 緻密、砂礫を含む 色 鈍い褐色	外面 縦ナデ、底面木葉痕→横ナデ 内面 横ナデ	外面スス、底周縁スレ 内面ヨゴレ 覆土中
24	甕 ? 底部		胎 緻密 色 灰褐色	外面 斜走条痕文、底面網代痕 内面 黒色を呈する	外面・断面スス 覆土中

白倉C区11号土壌出土土器 図181 PL127

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 頸部		胎 砂粒を含む 色 橙色	3条の横走沈線による区画、その下側に RL 縄文	加熱痕なし 底面+11
2	壺 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 鈍い橙色	横走沈線の区画内に縦の刷毛状工具による施文、下側は横走条痕文	加熱痕なし 底面+6
3	甕 ? 胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い褐色	横走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
4	甕 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	横方向の区画による磨消縄文 (LR)	外面スス 底面
5	鉢 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	外面スス 覆土中
6	鉢(筒形?) 胴部		胎 緻密 色 褐色	縦走沈線による磨消縄文 (RL)	外面スス 覆土中

白倉C区15号土壌出土土器 図181 PL125・128

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 ? 胴部		胎 微砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走の平行沈線の下側に横走羽状の沈線	外面スス 覆土中
2	壺 ? 胴上部		胎 緻密、砂粒をやや多く含む 色 鈍い赤褐色	横走の平行沈線の下側に横走羽状沈線を2段	外面スス、内面ヨゴレ 底面+10

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	壺 頸～胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄橙色	平行沈線の下側に横位の磨消縄文	内面ヨゴレ 底面
4	鉢(筒形?) 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	縦走の沈線を主とする磨消縄文	外面スス 覆土中
5	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	横走沈線による磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 底面
6	壺 ? 底部	口 一 底 7.2 高 (4.6)	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 橙色	外面 縦ヘラ削り→下端横ナデ、底面網代痕 内面 指ナデ	外面スス、内面ヨゴレ 底面+23
7	甕 胴下半	口 一 底 8.1 高(11.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし鈍い橙色	外面 斜・縦走条痕による整形、底面網代痕 内面 横ないし斜め横ナデ	外面スス、内面コゲ・ ヨゴレ 底面・+12(2片)

## 白倉C区16号土壇出土土器 図184 PL128

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂礫を含む 色 明黄褐色	横走の平行沈線により区画された幅の広い縄文帯(LR)	外面スス 底面+20
2	壺 ? 口縁		胎 砂礫を含む 色 橙色	内外面の口縁端部に LR 縄文施文	覆土中
3	鉢(筒形) 口縁		胎 砂粒を含む 色 明黄褐色	口縁端に幅1cmの縄文帯、下は縦位の磨消縄文	覆土中
4	鉢 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 明褐色	横走の平行沈線による磨消縄文	外面スス 底面+19
5	鉢(筒形?) 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	縦横の沈線による区画内に刷毛状工具による施文	覆土中
6	壺 ? 胴上		胎 砂礫を含む 色 橙色	横走条痕文	覆土中
7	壺 胴部		胎 砂礫を含む 色 橙色	幅広く浅い沈線による磨消縄文	覆土中
8	壺 口頸部		胎 砂礫を含む 色 橙色	幅広い縄文帯(LR)の下側は折り返し状の段をなす	覆土中
9	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 黄橙色	磨消縄文	覆土中
10	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 浅黄色	3条の横走沈線の上下に縄文施文(LR)	覆土中
11	壺 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 橙色	平行する横走沈線の上側に斜走の平行沈線	覆土中
12	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	羽状条痕の下側に LR 縄文	外面スス 覆土中

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
13	壺 胴上部		胎 礫を含む 色 橙色	横走条痕文の上側に羽状条痕文	外面スス 底面+22
14	甕 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い褐色	2条の横走沈線による区画に LR 縄文	底面+6
15	甕 ? 胴上部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	上下を横走条痕とする区画内に LR 縄文	外面スス、内面コゲ 覆土中
16	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 赤褐色	LR 縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
17	鉢 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	波状の沈線による磨消縄文	覆土中
18	甕 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い褐色	横走沈線による磨消縄文	外面スス、内面コゲ 覆土中

白倉C区29号土壌出土土器 図182・183 PL126・128

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁	口 27.0 底 ー 高(11.6)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い赤褐色	折り返し口縁 外面 縦走条痕整形 内面 横ナデ 文様 折り返し部・口唇部 LR 縄文	外面スス、内面強いコ ゲ・ヨゴレ 底面+48
2	壺 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	下側を横走沈線によって画された幅広の縄文帯 (LR)	覆土中
3	鉢 ? 口縁		胎 砂粒を少量含む 色 黄橙色	口唇部縄文、口縁部無文	内外面赤色痕跡あり 底面+46
4	鉢 口縁		胎 砂粒を含む 色 赤褐色	口唇部押圧 外面 斜走条痕文	底面+35
5	壺 ? 頸部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走条痕文	外面スス 底面+46
6	壺 胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	横・斜走沈線による鋸歯状区画 RL 縄文施文	底面+19
7	壺 頸部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横走沈線にはさまれた区画内に LR 縄文	覆土中
8	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文	覆土中
9	壺 胴中~下部	口 ー 底 ー 高(16.2)	胎 砂礫の混入が目立つ 焼 普通 色 橙色	外面 胴下部横~斜走条痕 内面 横ナデ 文様 胴上部幅広で浅い2条の横走沈線と3条の斜走沈 線で鋸歯状に区画し区画内に縄文施文	外面スス 底面+42~+51(9片)
10	壺 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 黄橙色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	底面+28
11	壺 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	外面スス 底面+11

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
12	壺 胴上部		胎 砂礫をやや多く含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 底面+26
13	甕 胴部		胎 緻密、砂礫を含む 色 鈍い褐色	胴上部3条の横走沈線と斜走沈線により、鋸歯状に区画、 区画内縄文施文	外面スス、内面コゲ・ ヨゴレ 底面+29
14	壺 胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	横走沈線と斜走沈線による鋸歯状の区画、磨消縄文	外面スス 底面+14
15	壺 頸～胴部		胎 緻密、砂礫を含む 色 明黄褐色	横・斜走沈線による鋸歯状の区画→区画内縄文施文	底面+21
16	壺 胴部		胎 砂礫を多く含む 色 鈍い橙色	ゆるやかな波状沈線の上側に LR 縄文	外面スス 底面+52
17	甕 ? 胴上部		胎 砂礫をやや多く含む 色 橙色	横走条痕と斜走条痕による鋸歯状の区画に LR 縄文	外面スス 底面+49
18	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横位の沈線を主体とする磨消縄文 (LR)	外面スス 覆土中
19	甕 胴部		胎 緻密 色 橙色	横・斜走沈線により鋸歯状に区画、地文に縄文	外面スス 覆土中
20	甕 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走条痕の上側に LR 縄文	外面スス 底面+48
21	甕 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
22	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	横走条痕文の下側に羽状条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
23	甕 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い褐色	縦走羽状条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 底面+42
24	甕 胴部		胎 緻密 色 暗褐色	横・斜走条痕による鋸歯状区画に LR 縄文	外面スス 底面+44
25	甕 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 暗褐色	胴上部縄文施文、下半ヘラナデ	底面+29
26	甕 胴下部		胎 砂礫をやや多く含む 色 鈍い褐色	横走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 底面+45
27	甕 胴部		胎 緻密 色 暗褐色	磨消縄文 (LR)	外面スス 底面
28	壺 胴部		胎 砂礫を多く含む 色 鈍い黄橙色	上下に横走沈線を配し、その内部を斜走沈線で鋸歯状に 区画、区画内に縄文	外面スス、内面コゲ 底面+29～+37(3片)
29	鉢(筒形) 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線	外面スス 底面+43
30	鉢(筒形?) 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	縦・横走沈線による磨消縄文	外面スス 底面+31
31	鉢 ? 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 暗褐色	LR 縄文→上下を横走ナデ	底面+48

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
32	鉢 胴部		胎色 緻密、砂粒を含む 赤褐色	波状の沈線による磨消縄文	外面スス 覆土中
33	甕 胴下半部	口 一 底 7.9 高(13.4)	胎色 緻密、砂粒を含む 良好 鈍い黄褐色	外面 ヘラナデ、底面網代痕 内面 横ナデ	外面スス、底面周縁スレ、内面コゲ・ヨゴレ 底面～+38 (8片)
34	甕 底部	底 6.8 高 (3.7)	胎色 緻密、砂粒を含む 鈍い黄褐色	外面 斜走条痕、底面網代痕	外面スス、内面ヨゴレ 底面+4
35	壺 底部	底 5.4 高 (3.0)	胎色 緻密、砂粒をやや多く含む 鈍い黄褐色	外面 ナデ、底面木葉痕	外面スス、内面ヨゴレ 底面+44
36	壺 底部	底 6.4 高 (1.8)	胎色 砂粒を含む 鈍い黄褐色	底面木葉痕	外面スス 覆土中
37	甕 底部	底 8.4 高 (2.4)	胎色 砂粒をやや多く含む 褐色	外面 ヘラナデ、底面網代痕→ナデ 内面 黒色を呈す	外面スス、内面コゲ 底面+6・+7 (2片)

白倉C区30号土壌出土土器 図184 PL128

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	鉢 口縁		胎色 砂粒を含む 橙色	横走沈線による磨消縄文	外面スス 覆土中
2	壺 胴部		胎色 緻密 黒褐色	幅広で浅い沈線による磨消縄文	覆土中
3	甕 胴上部		胎色 砂礫をやや多く含む 褐色	横走沈線による磨消縄文 (LR)	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
4	甕 胴部		胎色 砂粒を多く含む 鈍い褐色	2条の横走沈線の下に LR 縄文	外面スス 覆土中
5	甕 胴下部		胎色 砂粒を含む 灰褐色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中

白倉C区31号土壌出土土器 図184・185 PL125・129

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	鉢 口縁		胎色 緻密 灰黄褐色	斜走条痕文	底面+6
2	鉢 口縁		胎色 砂粒を含む 褐色	横走・斜走沈線 内面 口縁端に LR 縄文 内外面とも赤色塗彩	底面+10
3	甕 胴下部		胎色 砂粒を含む 暗褐色	横走条痕文	外面スス 底面+9
4	壺 胴下部		胎色 砂粒を含む 浅黄色	斜走条痕文	内面ヨゴレ 底面+7

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
5	鉢(筒形)	口 11.8 底 — 高 (19.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙ないし暗褐色	口縁端は僅かに内傾し、胴部は筒形を呈する、胴下半はやや脹らみながらゆるいくの字形を呈している 文様 口縁部から胴下部の中途までの広い範囲が磨消縄文による文様帯をなす、文様帯は口縁上端の横走沈線により画された縄文帯と横走沈線により画された下端の間にある、基本的には2条の平行沈線により扇形が上下2個描かれ、これが左右に5組繰り返されている 外面には赤色塗彩が施される	底面・+7 (2片)

## 白倉C区32号土壇出土土器 図184 PL129

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 ? 口 縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い褐色	縦走条痕文、口唇部押圧	外面スス 覆土中
2	壺 胴 上部		胎 微砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	横走沈線と斜走沈線による区画内に LR 縄文	加熱痕なし 覆土中
3	甕 ? 頸 部		胎 緻密 色 灰黄褐色	横走条痕文	覆土中
4	甕 胴 部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	横走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中

## 白倉C区72号土壇出土土器 図184

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 胴 下部		胎 砂粒を含む 色 黒褐色(ススのため)	横走沈線	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中

## 白倉C区105号土壇出土土器 図186 PL129

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 頸 部		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄褐色	横走条痕文	加熱痕なし 覆土中
2	甕 胴 部		胎 砂粒をやや多く含む 色 明赤褐色	横走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
3	甕 ? 胴 部		胎 砂礫をやや多く含む 色 鈍い黄褐色	横走沈線を主とする磨消縄文	内面ヨゴレ 底面+20
4	甕 胴 部		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	横走条痕文	外面スス 底面+30
5	壺 ? 底 部	底 8.2 高 (2.3)	胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	底面ワラ状の痕跡、靱痕	外面スス、内面ヨゴレ 底面+19

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	壺 底部	底 6.0 高 (2.3)	胎 砂礫をやや多く含む 色 明黄褐色	底面網代痕	底面+27
7	甕 底部	底 9.4 高 (3.3)	胎 砂粒をやや多く含む 色 暗褐色	底面網代痕	外面スス 底面+34

白倉C区124号土壌出土土器 図186 PL129

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
2	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	磨消縄文	加熱痕なし 覆土中

白倉C区209号土壌出土土器 図186 PL129

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型壺? 頸部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	横走沈線	外面スス 覆土中
2	甕 底部	底 9.6 高 (2.8)	胎 砂粒をやや多く含む 色 灰黄褐色	外面 縦ヘラ削り、底面ナデ	外面スス、内面コゲ 覆土中

白倉C区222号土壌出土土器 図186 PL125・129

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口頸部	口 6.9 底 — 高 (8.7)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 明赤褐色	縦走の隆帯により4分割、区画内は中央の横走沈線の上下に半円形の沈線がくる、地文に縄文、この下側は平行する5条の横走沈線	加熱痕なし 底面+21~+28(6片)
2	甕 口~胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い橙色	折り返し口縁で折り返し部・口唇部 LR 縄文、体部は2条の横走沈線による区画内に同じく2条の沈線により菱形の区画→区画内に縄文施文	外面スス、内面全体に ヨゴレ 底面+11~+ 28(7片)
3	壺 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	幅広く浅い波状沈線による磨消縄文	内外面スス 覆土中
4	壺 頸部		胎 砂粒を含む 色 明赤褐色	2条の横走沈線の上側は LR 縄文、下側は横走条痕文	加熱痕なし 底面+11
5	壺 胴下部		胎 砂粒を含む 色 明黄褐色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 剝離 底面+21
6	甕 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	横走沈線による磨消縄文	外面スス 底面+27

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
7	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 明赤褐色	横走沈線の下側は斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
8	甕 胴部		胎 緻密 色 鈍い褐色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中

## 白倉C区253号土壌出土土器 図187 PL125・129

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	折り返し口縁、折り返し部下端に横走沈線を施し、LR 縄文、口唇部縄文	内面口縁端から外面に スス 覆土中
2	鉢(筒形?) 口縁		胎 微砂粒を含む 色 橙色	口縁端は横走沈線による幅1.2cmの縄文帯、口唇部押圧	内面口縁端から外面に スス 覆土中
3	鉢(筒形?) 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	口縁端は横走沈線による幅1.4cmの縄文帯(LR)、口唇部 押圧	内面口縁端から外面に スス 覆土中
4	壺 頸部		胎 砂礫を多く含む 色 淡黄色	平行する4条の幅広の横走沈線	底面+50
5	壺 頸部		胎 砂粒を多く含む 色 鈍い黄褐色	斜・横走沈線による三角形の区画内に縄文	覆土中
6	壺? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	斜走沈線による三角形の区画内に縄文	外面スス 底面
7	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄色	平行する3条の斜走沈線による区画内に LR 縄文	底面+52
8	壺 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 黒褐色(ススのため)	平行する2条の沈線により菱形文を上下・左右に連ねる、 菱形の中央に沈線で円形を描き、菱形区画内は刷毛を施 す	外面スス、内面強いヨ ゴレ 底面+52
9	甕? 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 橙色	地文を縄文とし縦走沈線を施す	外面スス 覆土中
10	甕 胴下部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	斜走条痕文	内面コゲ 底面+52
11	鉢(筒形?) 胴部		胎 微砂粒を含む 色 橙色	縦・横走沈線による磨消縄文	覆土中
12	鉢? 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文	覆土中
13	鉢 口縁寄り		胎 砂粒を含む 色 橙色	横・縦走沈線による磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
14	鉢? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	横走沈線による磨消縄文	底面+39
15	鉢(筒形?) 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線を主体にした磨消縄文	外面スス 覆土中

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
16	甕 底部	口 — 底 6.4 高 (2.8)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 褐色ないし黄褐色	底面木葉痕	外面スス、内面ヨゴレ  底面

白倉C区255号土壇出土土器 図186 PL129

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁		胎 緻密、砂粒を含む 色 橙色	口縁部に幅4cmの横走条痕帯、下側に羽状条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
2	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	LR 縄文を地文とし、横走条痕の下に波状条痕を施す	外面スス、内面コゲ 覆土中
3	鉢 胴部		胎 砂礫を少量含む 色 鈍い黄橙色	横走沈線を主体とする磨消縄文 外面赤色塗彩	覆土中
4	甕 胴下部		胎 砂礫をやや多く含む 色 黒褐色	斜走条痕文	外面スス 底面+9
5	甕 底部	底 7.6 高 (3.0)	胎 砂粒をやや多く含む 色 鈍い黄橙色	底面網代痕	外面スス、内面コゲ 覆土中

天引46号土壇出土土器 図188 PL130

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	口唇部押圧により波状を呈す 外面 横走条痕文	底面+9
2	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 橙色	斜走条痕文	外面スス 底面+11
3	甕 底部	底 5.4 高 (2.4)	胎 微砂粒を含む 色 暗褐色		内面コゲ 底面+14
4	壺 頸~底部	口 — 底 16.8 高 (44.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴下部縦ヘラ磨き→下端横ナデ 内面 器面の摩 耗が著しい 文様 くびれ部単節簾状文2段→胴上部波 状文8段(上→下)、波状文の下側に円形貼付文	底面外縁スレ  底面 (2片)

天引59号土壇出土土器 図188 PL130

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁~胴部	口 25.4 底 — 高 (17.1)	胎 緻密 焼 良好 色 鈍い黄褐 色 ないし暗褐色	折り返し口縁、口唇部押圧により波状を呈する、折り返 し部を除く外面斜走条痕文 内面 横ヘラ磨き	外面強いスス、内面口 縁端スス 底面+11・+16(2片)
2	甕 底部	口 — 底 7.0 高 (3.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 ナデ、底面木葉痕 内面 横ナデ	外面・断面スス、内面 コゲ 底面+9

天引65号土壌出土土器 図189 PL130

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁		胎色 微砂粒を含む 赤褐色	口唇部押圧、横走条痕文	外面スス 覆土中
2	鉢 口縁		胎色 緻密、微砂粒を含む 褐色	孤状沈線による磨消縄文	覆土中
3	壺 胴部		胎色 微砂粒を含む 灰黄褐色	磨消縄文	覆土中
4	甕 胴部		胎色 砂粒を含む 褐色	横走沈線による区画に縦ハケ状整形	外面スス、内面コゲ 覆土中
5	甕 胴下部		胎色 砂粒をやや多く含む 橙色	斜走条痕文	覆土中
6	甕 胴下部		胎色 微砂粒を含む 鈍い橙色	斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
7	鉢 胴部		胎色 微砂粒を含む 暗褐色	縦走沈線による磨消縄文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
8	鉢 底部	底 6.0 高 (3.9)	胎色 砂粒を多く含む 鈍い黄橙色	器面の摩耗に不明瞭だが沈線による文様が下端まで及んでいる	覆土中
9	甕 底部	口 — 底 7.6 高 (3.5)	胎色 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い黄橙色	底面網代痕	外面スス、内面・底面 コゲ 覆土中

天引66号土壌出土土器 図188 PL130

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 口縁		胎色 砂粒を含む 橙色	口唇部から口縁上端 LR 縄文→下側は横走条痕文 口唇部押圧	覆土中
2	甕 胴下部		胎色 砂粒を含む 鈍い橙色	斜走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
3	甕 胴部		胎色 砂粒を含む 暗褐色	斜走条痕文	外面スス 覆土中
4	甕 胴部		胎色 砂粒を含む 暗褐色	羽状条痕文	外面スス 覆土中
5	甕 底部	口 — 底 6.8 高 (2.5)	胎色 砂礫を含む 焼 良好 色 灰褐色	外面 下端まで LR 縄文、底面網代痕→ナデ 内面 横ナデ 外面から底面へ斜めに貫通する小孔が対である	加熱痕なし、小孔にスレ 覆土中

遺物観察表

天引69号土壌出土土器 図189 PL130

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 明赤褐色	斜走条痕文	外面スス、内面コゲ 覆土中
2	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	曲線状の沈線内に条痕文	内面コゲ 覆土中
3	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 暗褐色	横走条痕の下側に斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
4	甕 胴部		胎 緻密 色 橙色	LR 縄文→横走条痕文	外面スス 覆土中
5	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	横走沈線の下側斜走条痕文	外面スス、内面ヨゴレ 覆土中
6	甕 胴上部		胎 緻密 色 鈍い黄橙色	沈線による三角連繋文に磨消縄文	内面ヨゴレ 覆土中
7	壺 ? 底部	底 7.6 高 (2.7)	胎 砂礫を含む 色 黄褐色	底面網代痕	外面スス、底外縁スレ 内面ヨゴレ 覆土中
8	甕 底部		胎 砂粒を多く含む 色 鈍い褐色	斜走条痕→下端横ナデ	底面外縁スス、内面ヨ ゴレ 覆土中

天引109号土壌出土土器 図189 PL131

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 9.8 底 5.8 高 15.8	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 にぶい赤褐色	外面 頸部から胴上部充填波状文(8条)4段→口縁部 横ナデ、胴下部縦ヘラナデ 内面 横ヘラ磨き	底面～+12 (4片)
2	高 坏	口 — 底 — 高 (6.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 縦ヘラ磨き 坏部内面 横ヘラ磨き、脚部内面 指ナデ 外面・坏部内面赤色塗彩	底面+12

白倉土壌出土石器 図222

単位: cm・g

器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴 等
石 鍬	角閃石安山岩	8.1	7.9	2.2	200	全周両面に調整加えられるが、一部に素材面残す 刃部・基部欠損 B区16号土壌No21 北+55
石皿?	牛 伏 砂 岩	15.0	14.0	3.3	800	表面のみ使用痕のこす。 B区16号土壌No22 南+22
砥 石	牛伏砂岩・粗粒	5.2	3.8	1.6	55	四角形に形を整えている、表裏面は特に縁部に沿って側面全体によく使い込まれている。 C区8号土壌(弥生期の土壌ではない) 覆土中
砥 石	牛伏砂岩・粗粒	5.7	5.3	1.5	45	表裏面とも中央寄りが研磨により浅くくぼんでいる、また表面に3条、裏面に1条の研磨に伴う溝がある、右上側も使用。 C区170号土壌(弥生期の土壌ではない)

## 4 古墳住居出土遺物

白倉B区14号住居跡出土土器 図223 PL133

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 13.8 底 — 高 (5.2)	胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	口縁は短かく外反する 外面 口縁から体部上半横ナデ、体部下半縦ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、体部横ヘラナデ	覆土中
2	甕	口 12.6 底 6.0 高 12.8	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 にぶい褐色	粗雑なつくり、筒形を呈する、丸底気味 外面 縦ヘラ削り 内面 斜め横ヘラナデ→口縁横ナデ	柱穴4周辺+24
3	高坏 坏部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ、底面横ヘラ削り	中央+17
4	壺	口 19.9 底 8.0 高 —	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	丁寧なつくり、単口縁で直立気味、平底 外面 口縁横ナデ、胴上半部横ヘラ削り、胴下半部ナデに近い斜め横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ 上半部と下半部で接合しないため、復元的に図化	西+11～+34 (27片)
5	台付甕 脚台部		胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	粗雑なつくり 外面 ナデ 内面 縦指ナデ	中央+16
6	甕	口 16.8 底 6.0 高 27.6	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	肉厚でどっしりしている、口縁の中位に稜を有し、平底 外面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラナデ→部分的に縦ヘラナデ、下部縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、胴部丹念なヘラナデ	外面胴下部スス 柱穴1内 (3片)
7	壺 口縁	口 21.6 底 — 高 (6.2)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	内外面とも横ナデ	東+24
8	壺 底部	口 — 底 7.0 高 (4.3)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 にぶい赤褐色	粗雑な作り、平底でやや突出する 外面 縦ヘラ削り、底面ヘラ削り→ナデ 内面 底面に粘土をすりつけている	中央+23
9	壺 底部	口 — 底 8.4 高 (5.1)	胎 砂粒赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	平底で突出している 外面 底面ともヘラ削り 内面 横ヘラナデ	東+24
10	甕	口 19.9 底 7.2 高 27.0	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	やや突出する平底 外面 口縁横ナデ、胴部ナデに近い斜め縦ヘラ削り、底面ヘラ削り→ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 柱穴1周辺+15

遺物観察表

天引1号住居跡出土土器 図224・225 PL134・135

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	台付甕 口縁~胴部	口 12.0 底 — 高 (13.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	S字状口縁の形態をかるうじて残す鈍い作り 外面 肩部縦ヘラナデ→口縁横ナデ、胴部横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 中央+10~+14(8片)
2	甕 口縁~胴部	口 16.4 底 — 高 (15.3)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい橙~ぶい赤褐色	外面 くびれ部縦ヘラナデ→口縁横ナデ、胴部横・斜め横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 中央+6~+12(12片)
3	台付?甕 口縁~胴部	口 17.4 底 — 高 (18.0)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 口縁横ナデ→肩部縦ヘラ削り→胴上部横ヘラ削り、胴下部斜め縦ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 中央+12~+19(10片)
4	台付甕 口縁~胴部	口 17.3 底 — 高 23.0	胎 砂礫を多く含む 焼 普通 色 ぶい橙色	外面 口縁横ナデ、肩部縦ヘラ削り→胴上部横ヘラ削り、胴下部縦ヘラ削り 内面 胴部横ヘラナデ→口縁~くびれ部横ナデ	外面スス 中央+9~+18(26片)
5	台付?甕 口縁~胴部	口 16.8 底 — 高 (16.9)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴上部縦ナデ→口縁~くびれ部横ナデ、胴部横ヘラ削り・ナデ 内面 胴部粗雑な横ヘラナデ→口縁~くびれ部横ナデ	外面スス 中央+10~+22(15片)
6	台付甕 胴下部	口 — 底 — 高 (10.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 縦ヘラ削り→下寄りを縦ヘラナデ、部分的に横ヘラナデ 内面 横指ナデ→横ヘラナデ 底面に粘土塊を充填している	外面スス、内面ヨゴレ 中央+8~+18(6片)
7	台付甕 胴下部	口 — 底 — 高 (8.0)	胎 砂礫を多く含む 焼 普通 色 ぶい橙色	外面 縦ヘラ削り→下端寄り横ナデ 内面 横ヘラナデ→底面指ナデ 底面は粘土塊を充填してふさいでいる	内面ヨゴレ 中央+10~+16(6片)
8	台付甕 脚台部	口 — 底 9.3 高 6.1	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 斜めハケ→縦指ナデ→下端横ナデ 内面 縦指ナデ→上端に粘土をすりつけて整形、下端指ナデ、指押さえ、下端を内側へ折り返した形状を残すが明瞭でない	中央床直~+14(2片)
9	台付甕 脚台部	口 — 底 10.4 高 (7.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄色	外面 縦ヘラナデ→下半横ナデ 内面 上半縦指ナデ→しほり込んですぼめる→下半横指ナデ、底面ヘラナデ	中央+10
10	壺 口縁~くびれ部	口 18.8 底 — 高 (8.3)	胎 緻密、砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	2重口縁、稜は余りシャープでない 外面 横ナデ 内面 口縁からくびれ部横ナデ、肩部指押さえ、ヘラナデ	中央+10~+19(9片)
11	台付甕 口縁~胴部	口 18.0 底 — 高 (22.1)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 口縁横ナデ→胴部縦ヘラ削り 内面 胴部斜め横ヘラナデ→口縁からくびれ部横ナデ	外面スス 中央床直~+21(18片)
12	台付甕 胴下部	口 — 底 — 高 (12.9)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 胴下部縦ヘラ削り→下端横ナデ 内面 横ヘラナデ 底面は粘土塊を押しつけてふさぐ	外面スス、内面ヨゴレ 中央+7
13	甕 底部	口 — 底 7.6 高 3.0	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	外面 縦ヘラナデ	柱穴2周辺床直
14	甕 底部	口 — 底 4.8 高 (2.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 ぶい赤褐色	外面 横ヘラ削り、底面はヘラ削りにより平らにする 内面 ヘラナデ	中央+8~+12

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
15	甕 底部	口 — 底 7.6 高 (4.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 縦ヘラナデ 底面 ヘラナデ 内面 横ヘラナデ	外面スス 中央+10～+23(4片)
16	埴 完形	口 13.6 底 4.5 高 6.7	胎 砂粒を多く含む 焼 やや不良 色 にぶい黄橙色	平底で粗雑な作り 外面 縦ハケ→上半縦ヘラナデ、下半横・斜め横ヘラナ デ、底面ヘラナデ 内面 ヘラナデ	柱穴3周辺床直～+ 14.5(4片)

## 天引6号住居跡出土土器 図225 PL135

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 13.6 底 4.5 高 6.3	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい黄橙色	発達した口縁はゆるやかに内湾しながら外側に開く 内外面とも丹念な縦ヘラ磨き 破損後二次加熱を受けている	中央床直～+8
2	埴	口 6.1 底 — 高 6.1	胎 緻密 焼 良好 色 明黄褐色	発達した口縁 内外面とも丹念な縦ヘラ磨き 外面底面の中央のみ磨きが及ばずやくぼむ 破損後二次加熱を受けている	南床直
3	埴	口 9.6 底 — 高 5.8	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	若干突出した平底、厚手 外面 ヘラ削り→横ヘラ磨き、底面ヘラ削り 内面 横・斜め横ヘラ磨き	東床直～+10
4	甕 底部	口 — 底 7.4 高 2.0	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	平底 内外面とも横ヘラ磨き、外底面ヘラ磨き	中央+7
5	壺 口縁～頸部	口 16.4 底 — 高 7.5	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	折り返し口縁 外面 折り返し部横ナデ、口頸部横ナデ→縦ヘラナデ 内面 横ヘラ削り、ヘラナデ→斜め横ヘラ磨き	炉周辺+6
6	甕 口縁～胴部	口 13.5 底 — 高 13.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	球形胴 外面 口縁横ナデ、胴部縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 東床直
7	壺 口縁～胴部	口 12.7 底 — 高 12.0	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	折り返し口縁 外面 折り返し部横ナデ、頸部から胴部 縦ヘラ削り(ヘラナデに近い) 内面 口縁から胴上部 ハケ→横ナデ、胴下部横ヘラナデ	炉内
8	台付甕 くびれ部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 灰褐色	外面 肩部左斜め縦ハケ 内面 肩部指ナデ	覆土中
9	台付(甕?) 脚台部	口 — 底 7.0 高 (4.9)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 黄橙色	外面 縦ハケ→縦ヘラナデ→上端寄り指押え、横ナデ 内面 指ナデ→下端横ナデ	南床直
10	台付甕 脚台部	口 — 底 7.4 高 4.3	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 縦ヘラ削り→上寄り縦ヘラナデ 内面 横ハケ→横指ナデ	東床直

遺物観察表

天引10号住居跡出土土器 図226・227・228 PL135・136・137

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕(?) 口縁	口 11.0 底 — 高 (4.9)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	口縁は二段に開く 内外面とも横ナデ	西床直
2	壺 口縁	口 14.3 底 — 高 (6.1)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 におい橙色	折り返し口縁 外面 横ナデ 内面 横ナデ→横ヘラナデ	炉周辺床直
3	壺 口縁	口 12.0 底 — 高 (5.0)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 におい黄褐色	外面 ヘラナデ→上端横ナデ 内面 横ナデ	外面スス 中央+7
4	甕 口縁~胴部	口 13.3 底 — 高(10.4)	胎 砂礫を少し含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 口縁横ナデ→口縁縦ヘラナデ、胴部横ヘラ削り→ 横ヘラナデ 内面 口縁から胴上部横ヘラナデ、胴下部縦ヘラナデ	外面スス 西床直~+10(6片)
5	台付(?)甕 脚台部	口 20.3 底 — 高(21.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ、胴上部横・斜め横ヘラ削り、胴中位 斜めヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 西床直~+9(6片)
6	台付甕 胴部~ 脚台部	口 — 底 10.8 高(21.4)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 赤褐色~におい赤褐色	外面 甕部縦・斜め縦ヘラ削り、脚台部指ナデ→接合部 縦ヘラナデ 内面 甕部横ヘラナデ、脚台部斜め指ナデ、下端部は粘 土紐をつぎ足して折り返し状に表現	外面スス 中央床直~+7(3片)
7	台付甕 脚台部	口 — 底 10.8 高(5.6)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 におい褐色	外面 上半横ナデ、下半縦ナデ 内面 縦指ナデ→下端横ヘラ削り	外面スス 西床直~+9
8	台付甕 胴下部~ 脚台部	口 — 底 11.2 高(12.6)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 甕部斜め・縦ヘラ削り→くびれ部横ナデ、脚台部 縦ヘラナデ→下端横ナデ 内面 甕部横ヘラナデ、脚台 部斜め縦・斜め指ナデ→甕部のへそ状の突出が脚台部の 上端をつぎ破って接合、下端は内側に折り返し	外面スス、内面コゲ 西+6~+11(4片)
9	台付甕 胴下部~ 脚台部	口 — 底 11.6 高(24.7)	胎 砂礫を多く含む 焼 普通 色 におい橙色	外面 甕部縦・斜め縦ヘラ削り、脚台部縦指ナデ→下端 横ナデ 内面 甕部横・斜めヘラナデ、脚台部横ナデ	外面スス 西床直~+7(3片)
10	高 坏 完 形	口 21.4 底 15.6 高 18.5	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	坏部の底面中央をへそ状に突出させる、脚部の裾はやや 内湾している、器面が摩耗している 外面 坏部口縁横ナデ、底部横ヘラ削り、脚柱状部縦ヘ ラナデ→裾部横ナデ 内面 坏部横ナデ、脚柱状部上半縦指ナデ→しぼり込み →柱状部下半から裾部輪積成形→裾部横ナデ	西床直(3片)
11	高 坏 完 形	口 19.0 底 17.4 高 15.4	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 坏部口縁横ナデ→縦ヘラナデ、ヘラ磨き、底部横・ 斜め横ヘラナデ、脚柱状部縦ヘラ削り→ヘラ磨き、裾部 ヘラナデ→横ナデ 内面 坏部横ヘラナデ→口縁端横ナ デにより整形痕をきれいに消している、脚柱状部縦指ナ デ、裾部横ヘラナデ→端部横ナデ	貯蔵穴内
12	高 坏	口 19.2 底 13.6 高 16.3	胎 砂礫を少量含む 焼 良好 色 橙色~におい橙色	坏部は明確な稜をもたない、脚部は太身、坏部の底面中 央をへそ状に突出させる 外面 坏部口縁横ヘラナデ→上半横ナデ、底部横ヘラ削 り→縦ヘラ削り、脚柱状部縦ナデ→上端縦ヘラ削り、裾 部横ナデ 内面 坏部横ヘラナデ→横ナデ、脚柱状部縦指ナデ→し ぼり込み→三段に粘土紐をついで裾部を接合	外面スス、坏部内面黒 色を呈する 貯蔵穴内

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
13	高坏部	口 13.6 底 — 高 (8.7)	胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	碗形を呈する、底面中央をへそ形に突出させ脚部を接合する 外面 横ナデ→底部縦ヘラ削り(ナデに近い) 内面 口縁横ナデ、底面横ヘラナデ	貯蔵穴内
14	高坏部	口 15.7 底 15.9 高 17.8	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 橙色	坏部は碗形を呈し、底面中央をへそ状に突出させ脚部と接合させている 外面 坏部口縁横ナデ、底面横ヘラ削り、脚柱状部縦ナデ→裾部横ナデ 内面 坏部口縁横ナデ、底面横ヘラナデ、脚柱状部縦指ナデ→しぼり込み→上端をくり抜いて坏部との接合部をつくる→柱状部下半を輪積によりつくる→裾部横ナデ	北床直(2片)
15	高坏部	口 23.0 底 — 高 (6.8)	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	脚部との接合のため底部中心をへそ状に突出させている 外面 横ナデ→斜めヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 横ナデ→斜め縦ヘラ磨き、器面の磨耗が著しい	16と同一個体か 西床直～+21(2片)
16	高脚部	口 — 底 19.8 高(11.3)	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	脚裾部は2段に開く 外面 柱状部縦ヘラナデ、上段裾部上半横ヘラナデ、下段裾部横ナデ 内面 柱状部縦指ナデ→しぼり込み→裾部接合、横ナデ	15と同一個体か 西+7
17	高坏部	口 19.2 底 — 高 (6.4)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	口縁上端は内湾気味 外面 口縁横ナデ→斜めヘラ磨き、底部横ヘラ削り(ナデに近い) 内面 口縁横ナデ、底面ヘラナデ→全体に斜め縦ヘラ磨き	西+7～+10(4片)
18	高坏部	口 22.8 底 — 高 (7.3)	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	器面の磨耗が著しい 底面の中央をへそ状に突出させ脚部と接合している	西+10～+15(2片)
19	高坏部	口 19.6 底 — 高 5.0	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 口縁横ヘラナデ→上端横ナデ→斜めヘラ磨き、底部横ヘラ削り 内面 横ヘラナデ→口縁上端横ナデ	西+11～+21
20	高坏部	口 17.2 底 — 高 (5.5)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 口縁から底面中途まで横ナデ、底面縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、底面ヘラナデ	西床直～+15
21	高坏部	口 — 底 — 高 (5.3)	胎 微砂粒、赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラ磨き、底面横ヘラ削り(ナデに近い) 内面 横ナデ→縦ヘラ磨き	貯蔵穴周辺床直(2片)
22	高坏部	口 — 底 13.6 高(11.5)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 柱状部から裾部密に縦ヘラナデ、裾部横ナデ 内面 柱状部縦指ナデ→柱状下端から裾部上端横ヘラナデ→裾部横ナデにより整形痕を丁寧に消している	柱穴1周辺床直
23	高脚部	口 — 底 — 高 (8.2)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラ磨き 内面 縦指ナデ→しぼり込み	西+6
24	高脚部	口 — 底 — 高 (7.1)	胎 緻密 焼 普通 色 にぶい橙色	外面 縦ヘラ削り→縦ヘラナデ→上端寄り横ヘラナデ 内面 上半しぼり込み→下半横ヘラナデ	中央床直
25	高脚部	口 — 底 — 高(10.5)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	丸みの柱状部 外面 縦・斜めナデ→裾部横ナデ 内面 上半縦指ナデ→しぼり込み→下半3段の輪積により裾部にいたる	南+12
26	高脚部	口 — 底 — 高 (9.6)	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 縦ナデ→下端横ナデ 内面 上端ヘラ状工具でくり抜いている、上半縦指ナデ→しぼり込み→下半横指ナデ→裾部を接合	柱穴3周辺+11

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
27	高坏 脚裾部	口 — 底 14.0 高 (1.3)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 にぶい橙色	端部は反り返り気味 外面 横ナデ 内面 横ナデ	南床下-11~+11
28	高坏 脚部	口 — 底 16.0 高 (3.7)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 横ナデ 内面 輪積痕を2段に明瞭に残して裾部にいたる、裾部横ナデ	西床直~+15
29	高坏 脚部	口 — 底 16.2 高 (5.2)	胎 砂礫を少し含む 焼 良好 色 にぶい浅黄橙色	脚裾部は、はねるように外反する 外面 柱状縦ナデ→裾部横ナデ 内面 三段に輪積痕を残す、横指ナデ→裾部横ナデ	覆土中
30	壺 口縁	口 25.0 底 — 高 (8.0)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラナデ	外面スス 南床直~+8(5片)
31	埴 完形	口 9.7 底 — 高 11.3	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	底部は丸底 外面 口縁横ナデ、胴上部横指ナデ、胴下部横ヘラ削り→底部横指ナデ 内面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラナデ、胴下部強い指ナデ	中央床直~+10
32	埴 完形	口 9.8 底 2.8 高 10.1	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい橙色	底部は平底に近い 外面 口縁横ナデ、胴上部横指ナデ、胴下部横・斜めヘラナデ、底面ヘラ削りくぼんでいる 内面 口縁横ナデ、胴部指ナデ	西床直
33	埴 完形	口 9.8 底 5.3 高 10.6	胎 緻密、砂礫をわずかに含む 焼 きわめて良好 色 橙色	肉厚でやや粗雑なつくり、平底 外面 口縁からくびれ部横ナデ、胴部指ナデ、底面ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、底面指ナデ	西+17

天引11号住居跡出土土器 図230 PL137

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	瓶 完形	口 15.8 底 3.5 高 8.3	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	底面の中心に径1.2cmの孔、底面は平ら 外面 体部斜め縦ハケ→口縁横ナデ、下半部縦ナデ、底面指ナデ 内面 体部斜め縦ナデ→下半部不定方向ハケ、口縁横ナデ	外面スス、内外の口縁端ヨゴレ 炉周辺+7
2	埴 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明褐色	外面 口縁横ナデ、底部ヘラ削り 内面 横ナデ、体部横ヘラ削り	中央床直
3	壺 底部	口 — 底 7.8 高 (2.2)	胎 砂礫を含む 焼 きわめて良好 色 にぶい褐色	外面 斜め縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き 内面 ヘラ磨き	南西+28
4	浅鉢	口 24.8 底 5.1 高 11.9	胎 砂粒をやや多く含む 焼 普通 色 灰褐色~にぶい橙色	外面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラ削り、体部斜め横ヘラ削り、底面ヘラ削りにより平らにしている 内面 口縁横ナデ、体部斜め横ヘラナデ	外面スス、内面コゲ 西+9~+16(4片)
5	台付壺	口 13.0 底 9.6 高 24.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい褐色・橙色	外面 口縁横ナデ、胴上部左斜め縦ハケ、胴下部右斜め縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部右斜め縦ハケ→縦指ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ、底部横指ナデ、脚台部端部折り返し、指ナデ	炉周辺+9

天引13号住居跡出土土器 図229 PL138

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	罎	口 9.8 底 — 高 (5.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄色～灰黄色	口縁は内湾しながら立ちあがる 外面 口縁からくびれ部横ナデ、胴部横ヘラ削り→全体に縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴部横ヘラナデ	覆土中
2	罎	口 11.4 底 3.0 高 5.8	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 黒色	外面 口縁部横ナデ→縦ヘラ磨き、底部ヘラナデ→上寄り縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、底部縦ヘラ磨き→くびれ部横ヘラ磨き	内外面とも黒色を呈する 東壁際+11
3	壺 口縁		胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	2重口縁、シャープで丁寧なつくり、内外面横ナデ→縦ヘラ磨き、上段の口縁及び下段の口縁上端の突帯部に櫛状工具による斜め刺突を施す	柱穴4周辺+19
4	台付甕	口 14.0 底 10.0 高 28.0	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 口縁横ナデ、胴上部左斜め縦ハケ、胴下部右斜め縦ハケ→胴中位横指ナデ、脚台部右斜め縦ハケ→縦ナデ→下部横ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ、肩部指押え、脚台部ヘラナデ→上部粘土をすりつけて指ナデ→横指ナデ、下端を内側に折り返し	東壁際+11
5	罎 完形	口 13.4 底 3.9 高 5.4	胎 緻密 焼 良好 色 褐灰色～黒色	外面 口縁ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き、底部不定方向ヘラナデ 内面 横ヘラナデ→口縁横ナデ→全体に縦ヘラ磨き	東壁際+6
6	器台 完形	口 9.0 底 11.0 高 8.4	胎 緻密 焼 良好 色 黒色	丁寧なつくり、受部は2段に外側へ開く、中心で脚台部から受部に径1cmの孔が貫通している 外面 受部横ナデ→縦ヘラ磨き、脚台部縦ヘラナデ→下端横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 受部ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き、脚台部横ヘラナデ→横ナデ	東壁際+6～+21(6片)
7	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (4.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 甕部縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 甕部底面粘土をつめて指ナデ脚台部上端指ナデ	貯蔵穴内
8	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (3.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 暗灰黄色	外面 甕部縦ハケ、脚台部縦ハケ→縦ナデ 内面 甕部横指ナデ、脚台部指ナデ	外面スス、内面コゲ 貯蔵穴内
9	罎 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	やや大型品、内外面とも横ナデ→縦ヘラ磨き	東床直～+15
10	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (3.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 甕部縦ハケ、脚台部右斜め縦ハケ 内面 甕部ヘラナデ→底部中心を粘土を充填し指ナデ、脚台部粘土をすりつけて指ナデ	外面スス 柱穴2周辺+9
11	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (3.4)	胎 微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 甕部縦ハケ→部分的にヘラナデ、脚台部右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 甕部ヘラナデ→底面に粘土をつめて指ナデ、脚台部粘土をすりつけて指ナデ	貯蔵穴内
12	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (3.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 甕部縦ハケ、脚台部右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 甕部底面横方向にヘラ押え、脚台部強い指ナデ	外面スス 柱穴4周辺+28
13	台付甕 胴下部～ 脚台部	口 — 底 9.1 高(10.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 甕部縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデ→下部横ナデ 内面 脚台部斜め縦ヘラナデ→上部に粘土をすりつけて縦指ナデ→下端を内側に折り返し	外面スス、内面全体にコゲ 東際+9～+14

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
14	台付甕 口縁～肩部	口 16.0 底 — 高 (6.5)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 暗灰黄色	シャープな作り 外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→指横ナデ、胴部横ヘラ ナデ 15と同一個体か	12と接する 床直～+5
15	台付甕 胴部	口 — 底 — 高 (19.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 暗灰黄色	外面 肩部左斜め縦ハケ、胴部右斜め縦ハケ 内面 横ヘラナデ	外面スス 東壁際+9
16	壺 底部	口 — 底 8.3 高 (3.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 におい黄褐色	やや突出する平底 外面 縦ヘラ削り→横ナデ、底面ヘラナデ 内面 ナデ	中央+6

天引18号住居跡出土土器 図230 PL138

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁～肩部	口 19.0 底 — 高 (10.8)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 におい黄褐色	二重口縁、丁寧な作り 外面 頸部縦ヘラナデ→口縁（上段から下段中途）及び くびれ部横ナデ→くびれ部に棒状工具による横ナデを一 周、胴上部縦ヘラナデ→縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ、肩部横ヘラナデ	貯蔵穴周辺+8～+10
2	埴 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 浅黄色	薄手、下端は口縁部の最下端で、これに胴部が接続する 外面 横ナデ 内面 ヘラナデ→横ナデ	東際床直
3	台付甕 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 灰黄褐色	口縁内外とも横ナデ 外面 胴上部縦ハケ	覆土中
4	台付甕 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 褐灰色	内外面とも横ナデ	外面スス 覆土中
5	台付甕 脚上部	口 — 底 10.6 高 6.3	胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 明黄褐色	外面 右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 上面に粘土をつめて強い指ナデ→下半横指ナデ→ 下端内側に折り返し	柱穴2周辺床直
6	台付甕 脚上部	口 — 底 10.6 高 5.3	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 におい褐色	外面 右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 指ナデ、下端部内側に折り返し	東+15

天引20号住居跡出土土器 図231 PL138・148

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	高坏 坏部	口 11.6 底 — 高 (5.8)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ→右斜め横ヘラ磨き、底部横ヘラ削り 内面 横ヘラナデ→口縁横ナデ→縦ヘラ磨き	新しい時代の遺物の流 れこみ 覆土中
2	台付甕 口縁～肩部	口 13.6 底 — 高 (6.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ、胴上部右斜めハ ケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→指ナデ	柱穴2周辺床直

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	高脚部	口 — 底 17.8 高 (2.6)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 横へらナデ→横ナデ→縦へら磨き 内面 横へらナデ→横ナデ	覆土中
4	壺口縁	口 12.2 底 — 高 (7.4)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	内外面とも横へらナデ→横ナデ	覆土中
5	台付甕口縁		胎 砂粒を含む 焼 普通 色 にぶい褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ	東壁際+床直
6	台付甕口縁		胎 緻密 焼 きわめて良好 色 にぶい褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 横ナデ	覆土中
7	壺	口 — 底 10.0 高 (14.0)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 にぶい褐色	底部やや突出し、平底、表面の剥落が著しく整形が粗雑 外面 下端寄り縦へらナデ 内面 横へらナデ	東+13
8	鏡	径5.8、厚0.15、紐 縦1.0、横0.7、高0.4		東+8	

## 天引23号住居跡出土土器 図230 PL139

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕	口 12.4 底 — 高 (7.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	折り返し状の口縁 外面 口縁横ナデ、胴部ナデ→部分的にへらナデ、底部横へら削り 内面 口縁から胴上部横ナデ、胴下部斜め横指ナデ	中央+11～+20(4片)
2	埴口縁	口 12.0 底 — 高 (8.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	器面の摩耗が激しい 外面 縦へら削り→横ナデ 内面 横ナデ	中央+14
3	高脚部	口 16.4 底 — 高 (5.5)	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 橙色	下位に鈍い段を持つ 外面 口縁横ナデ、底部へら削り→全体に縦へら磨き 内面 横ナデ、斜め縦へら磨き	入口周辺床直

## 天引24号住居跡出土土器 図232 PL139

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 14.7 底 (5.5) 高 28.1	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	球形に近い胴、底部はやや突出し平底 外面 口縁縦へらナデ→上端横ナデ、胴上部縦へらナデ、中位横へらナデ、胴下部斜め縦へらナデ、(胴部のへらナデは削りに近い) 内面 口縁部下半縦へらナデ→上半横へらナデ→上端横ナデ、胴上部斜め縦へらナデ	外面下半スス 貯蔵穴内
2	台付甕口縁		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	内外面とも横ナデ	覆土中

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
3	台付甕 胴下部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 縦ハケ 内面 ヘラナデ	外面スス 覆土中
4	台付甕 胴部		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 黒褐色	外面 縦ハケ	外面スス 覆土中

天引25号住居跡出土土器 図232 PL139

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	器台	口 12.5 底 11.1 高 18.0	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 明赤褐色	高坏形を呈する、脚から坏に貫通する径1cmの孔、坏部口縁に斜めの上下に2個の小円透しを1単位として、3～4cm間隔で一周、脚部には対称に2個の小円形透し 外面 坏部口縁端横ナデ、体部及び底面縦ヘラ磨き、脚部縦ヘラ磨き 内面 坏部横ナデ→縦ヘラ磨き、脚部上半しぼり込み→横指ナデ、下半横ナデ	柱穴1周辺+55
2	台付甕	口 12.5 底 ー 高 (3.2)	胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 ぶい黄褐色	シャープな作り 外面 口縁横ナデ、胴上部縦ハケ 内面 口縁横ナデ、くびれ部横ヘラナデ、胴上部指ナデ	外面スス 南西+25
3	台付甕 口縁		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	シャープな作り 外面 口縁横ナデ、胴上部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指ナデ	覆土中
4	台付甕 脚台部	口 ー 底 9.6 高 (9.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴下部斜め縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部斜め縦ハケ→縦指ナデ→下半横ナデ 内面 縦ヘラナデ、脚台部横指ナデ、下端を内側に折り返し	西+17
5	台付甕 胴下部～ 脚台部	口 ー 底 9.8 高 12.5	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 胴下部斜め縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部斜め縦ハケ→縦指ナデ→下端横ナデ 内面 胴下部横ヘラナデ→底面土をすり付けて指ナデ、脚台部斜め縦指ナデ、下端は内側に折り返して横指ナデ 上端は土をすり付けて指ナデ	外面スス 中央+20～+47
6	高坏 脚部	口 ー 底 ー 高 (7.6)	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 ぶい橙色	外面 きめ細かい縦ヘラ磨き 内面 上半縦指ナデ→しぼり込み→下半横指ナデ	覆土中
7	台付甕 脚台部	口 ー 底 ー 高 (5.1)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 斜めハケ→縦指ナデ 内面 上半指ナデ→下半横ナデ	中央+11
8	台付甕 脚台部	口 ー 底 9.4 高 (6.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 斜めハケ→縦指ナデ→下半部横ナデ 内面 指ナデ、下端内側に折り返し	中央+9～+10
9	台付甕 脚台部	口 ー 底 6.6 高 (5.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 斜め縦ハケ→縦指ナデ 内面 指ナデ→下端を内側にかすかに折り返し→下半横ナデ	貯蔵穴周辺+9
10	台付甕 脚台部	口 ー 底 10.0 高 (7.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 斜めハケ→縦指ナデ→下半部横ナデ 内面 上半部指ナデ→下半横ヘラナデ、下端を内側へ折り返し	中央+20

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
11	台付甕 脚台部	口 — 底 — 高 (3.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 斜めハケ→部分的に縦指ナデ 内面 指ナデ、指押え	外面スス 貯蔵穴周辺
12	台付甕 脚台部	口 — 底 — 高 (3.1)	胎 微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 ぶい黄橙色	外面 斜めハケ→縦指ナデ 内面 土を指でナデつけている	貯蔵穴内
13	小型壺?	口 6.2 底 — 高 3.0	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 黒褐色	手づくね製 内外面とも指ナデ	覆土中
14	壺 底部	口 — 底 (7.4) 高 (6.9)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい褐色	平底、底面に布圧痕 外面 縦ヘラナデ→縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ	中央+20～+47
15	甕		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	口縁部は折り返し状を呈する 外面 口縁横ナデ、胴上部縦ヘラ削り 内面 横ナデ→ヘラ横ナデ	外面スス 中央+6
16	壺 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	内外面とも横ナデ	中央+17
17	小型器台? 口縁		胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	内外面とも横ナデ 口唇部赤色塗彩	西+17
18	壺 口縁	口 17.3 底 — 高 (7.1)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	内外面とも横ナデ	外面スス 中央+6

## 天引28号住居跡出土土器 図233 PL140

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 10.0 底 3.0 高 5.0	胎 緻密、砂粒を少量含む 焼 良好 色 浅黄色	外面 横ヘラナデ→口縁端横ナデ→底面を除き縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ→縦ヘラ磨き	東+14
2	埴	口 15.2 底 — 高 6.6	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁部ヘラナデ→上半横ナデ→縦ヘラ磨き、底部ヘラ削り 内面 斜め縦ヘラ磨き	柱穴3周辺+21～+38
3	壺 ? 口縁	口 17.0 底 — 高 6.0	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	折り返し口縁、口頸部は内湾ぎみ 外面 折り返し部横ヘラ削り、頸部ナデ→縦ヘラナデ 内面 横ナデ	南+19
4	壺 口縁～ 胴上部	口 12.6 底 — 高 9.0	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴上半部ヘラナデ→縦ヘラ磨き、その後にくびれ部横ナデ 内面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、肩部指押え→横指ナデ、胴部横ヘラナデ	南西+25
5	壺 口縁	口 16.6 底 — 高 (5.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 黒褐灰色	内外面とも横ナデ	中央+41

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
6	台付甕 口縁	口 9.0 底 — 高 (5.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ、胴上部右斜め縦ハケ 内面 口縁からくびれ部横ナデ 7と同一個体と思われる	外面スス  中央+23~+39
7	台付甕	口 — 底 6.4 高 (9.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 ヘラナデ、底面ヘラで強く押える、脚台部指ナデにより接合部に粘土をすり付ける、下端内側に折り返し 6と同一個体と思われる	外面スス  中央+23~+39
8	台付甕 脚台部	口 — 底 — 高 (4.9)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 明黄褐色	外面 体部縦ハケ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 脚台部ヘラナデ→上端に粘土をすりつけて指ナデ	中央+33
9	台付甕 口縁		胎 砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 にぶい黄橙色	シャープでバランスのとれたつくり 外面 口縁横ナデ、肩部斜め縦ハケ 内面 口縁からくびれ部横ナデ、肩部指押え、指ナデ	南西+33
10	台付甕 脚台部	口 — 底 10.3 高 10.7	胎 砂粒を少量含む 焼 良好 色 にぶい褐色	外面 本体縦ハケ、脚台部斜めハケ→縦ナデ 内面 本体横ヘラナデ、脚台部指ナデ→接合部に粘土をすりつけるように縦指ナデ、下端を内側に折り返し	西+36~+38
11	壺	口 15.1 底 7.9 高 30.6	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	口縁中途にかすかな稜をもつ、平底でやや突出し、底面中央はくぼむ 外面 口縁縦ハケ→上半横ナデ→下半縦ヘラ磨き、胴部斜め縦ヘラ削り→斜め縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	西+33
12	台付甕 脚台部	口 — 底 — 高 (3.3)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 横指ナデ→上端粘土をすりつけて縦指ナデ	外面スス  中央+13
13	台付甕 脚台部	口 — 底 9.1 高 (6.5)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 斜め縦ハケ→縦ナデ→下端寄りを横ナデ 内面 縦斜め縦指ナデ、下端内側に折り返し	西+16
14	台付甕 脚台部	口 — 底 11.2 高 (8.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 本体縦ハケ、脚台部ハケ整形後全体を横ヘラナデとし、ハケをまったく残さない 内面 本体底面横指ナデ→胴下部横ヘラナデ、脚台部横ヘラナデ→上端の本体との接合部に粘土をすりつけて指ナデ、下端は内側に折り返し	外面スス  中央+22
15	壺 胴下部~ 底部	口 — 底 9.9 高 (14.2)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	底部はやや突出し平底 外面 胴下部縦ヘラ削り、下端部縦ヘラナデ、底面ヘラナデ 内面 横ヘラナデ→底面に砂質土をすりつけている	中央+25
16	壺 胴部		胎 緻密 焼 きわめて良好 色 赤褐色	横方向に綾杉状の櫛描列点文→部分的に横ハケ	覆土中

天引30号住居跡出土土器 図234 PL140

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 頸部~肩部	口 — 底 — 高 (8.4)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	くびれ部よりわずかに上の頸部にかすかな稜をつくる 外面 口頸部横ナデ→部分的にヘラ磨き、肩部斜め横ヘラナデ 内面 口頸部からくびれ部横ナデ、肩部横ヘラナデ	南床直~+9 (5片)

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
2	台付甕 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 ぶい黄褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部ヘラナデ	外面スス 柱穴2周辺床直
3	台付甕 接合部	口 — 底 — 高 (4.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 斜め縦ハケ、脚台部斜め縦ハケ→縦指ナデ 内面 指ナデ、横ヘラナデ	体部内面ヨゴレ 南+15
4	器台 脚台部	口 — 底 — 高 (3.3)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	受部から脚台部に径1cmの円孔が完通する、器面の磨耗が著しい	中央床直
5	台付甕 脚台部	口 — 底 9.2 高 (6.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 斜め縦ハケ→縦ナデ→下半部横ナデ 内面 縦ナデ、体部との接合後、内面から土をすりつけている 脚下端は内面に折り返し	南+11
6	台付甕 胴部	口 — 底 — 高 15.0	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 斜め縦ハケ 内面 斜め縦ヘラナデ	外面スス、内面ヨゴレ 南床直
7	甕 底部	口 — 底 3.4 高 (2.8)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 ぶい橙色	平底で底面中央が若干くぼむ 外面 ハケ→底部寄り縦・横ヘラナデ、底面ナデ 内面 ハケ→斜め横ヘラナデ	外面スス 南床直 (2片)
8	塊? 口縁	口 14.0 底 — 高 (3.0)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 良好 色 ぶい黄褐色	外面 縦ヘラナデ→口縁横ナデ 内面 横ナデ	南床直

## 天引31号住居跡出土土器 図234 PL139

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 9.4 底 2.7 高 7.3	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	丸底 外面 口縁→胴上部横ナデ→胴中位以下横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 炉内
2	高坏 坏部	口 15.4 底 — 高 5.4	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 ぶい褐色	坏部の底面中心は粘土塊を充填している 内外面とも横ナデ→縦ヘラ磨き	外面スス 東床直
3	高坏 脚部	口 — 底 12.0 高 (7.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	柱状部から裾部でくの字形に屈曲して外側へ開いている 外面 ヘラナデ→裾部横ナデ→全体に縦ヘラ磨き 内面 柱状部縦指ナデ→横指ナデ→柱状部下端から裾部横ナデ、整形痕を丁寧に消している	炉周辺床直
4	台付甕 脚台部	口 — 底 10.6 高 (7.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 甕部斜め縦ハケ→部分的に縦ヘラナデ、脚台部右斜め縦ハケ→縦・斜め縦ナデ 内面 脚台部横ヘラ押え→上部に粘土をすりつけて縦・斜め縦指ナデ→下端を内側へ折り返し	炉周辺床直
5	台付甕	口 15.7 底 10.8 高 30.3	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい褐色	口縁のS字の形状は鈍い 外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ、胴部長さの短い右斜め縦ハケ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデが全体に及ぶ 内面 口縁横ナデ、胴部ヘラナデ、脚台部指ナデ、下端を内側に折り返し	外面スス 炉周辺床直

遺物観察表

天引35号住居跡出土土器 図235・236 PL141

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	罎	口 10.6 底 3.9 高 9.9	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 口縁横ナデ、胴上部縦ナデ、胴下部横ヘラナデ、 底部粗雑なヘラ削りにより平らにする。 内面 口縁横ナデ、底面強い指ナデ、胴部横ヘラナデ	南壁際+15
2	甕 口縁～胴部	口 14.0 底 — 高 (6.2)	胎 緻密 焼 良好 色 ぶい橙色	口縁端部は内湾する 外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、 胴上部横ナデ、胴中位以下横ヘラナデ 内面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴部横ヘラナデ	中央床直～+7
3	小型甕	口 11.2 底 3.0 高 7.0	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 橙色	丸みをもった平底 外面 口縁からくびれ部横ナデ、胴 上部縦ナデ、胴下部から底面斜めヘラ削り 内面 口縁横ヘラナデ、胴上部斜め横ヘラナデ、胴下部 縦ヘラナデ	外面スス、内面黒色を 呈する 東床直
4	高坏部	口 19.6 底 — 高 (6.8)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい橙色～橙色	脚部破損後に底面中心を穿孔し、甕として再利用 外面 口縁横ヘラナデ→上端横ナデ 内面 横ナデ→底面中心に粘土を充填し横指ナデ	西床直～+7 (7片)
5	高坏部	口 17.4 底 — 高 (5.8)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色～明黄褐色	口縁内外面とも横ナデ 外面・底面縦ヘラナデ	東+7
6	高坏部	口 19.4 底 — 高 (5.4)	胎 緻密、赤色粒を多く 含む 焼 良好 色 橙色	口縁と底部の接合部できれいにはがれている 外面 縦ヘラナデ→上・下端横ナデ 内面 横ナデ→縦ヘラ磨き	西床直
7	高坏部	口 17.6 底 — 高 (4.6)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	口縁部と底部の接合部できれいにはがれている 内外面とも横ナデ	中央床直～+7 (4片)
8	高坏部	口 17.6 底 — 高 (5.0)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色～明黄褐色	口縁部と底部の境に明瞭な剝離痕 内外面とも横ナデ	北西床直
9	高坏部 ほぼ完形	口 15.5 底 13.3 高 16.4	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 ぶい黄橙色	坏部の底の中心をへそ状に突出させ、脚部に装着 外面 坏部ヘラナデ→口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、脚部柱 状部縦ヘラナデ→縦ヘラ磨き、裾部横ヘラナデ→横ナデ →縦ヘラ磨き 内面 坏部横ナデ→縦ヘラ磨き、脚部柱 状部縦指ナデ→しぼり込み→裾部を接合→裾部横ナデ	中央+10 (2片)
10	高脚部	口 — 底 13.6 高(11.2)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	坏部の底面中心をへそ状に突出させ、脚部に装着して接 合 外面 柱状部縦ヘラナデ→縦ヘラ磨き、裾部横ナデ →縦ヘラ磨き 内面 柱状部頂部中心にヘラでつきさす ようにして粘土を欠き取り、坏部の受部をつくっている、 上部は縦指ナデ、中位横指ナデ→横ヘラナデ、裾部横 ヘラナデ→横ナデ→部分的に横ヘラ磨き	裾部内面に、三本線の 線刻 中央床直
11	高坏部	口 — 底 — 高 (4.0)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	外面 口縁部横ナデ→不定方向ヘラ磨き、底部縦ヘラ磨 き 内面 ヘラナデ→不定方向ヘラ磨き、底部中心は粘 土を充填してふさぐ	南・西+7
12	高脚部	口 — 底 14.0 高 9.1	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 柱状部縦ヘラナデ (磨きに近い)、裾部横ナデ 内面 柱状部しぼり込み→横指ナデ→上端部横ナデによ り坏部の装着部をつくる、裾部横ヘラナデ→横ナデ	北西床直
13	高脚部	口 — 底 13.3 高 (9.4)	胎 緻密 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 柱状部縦ナデ→接合部縦ヘラナデ、裾部横ナデ 内面 柱状部縦指ナデ→しぼり込み→裾部接続→再度し ぼり込み→裾部横ナデ	北西+10

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
14	高坏脚部	口 — 底 14.6 高 (8.6)	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 柱状部縦ヘラナデ→ナデ→裾部横ナデ→縦ヘラナデ 内面 柱状部しぼり込み→横ヘラナデ、裾部横ヘラナデ→横ナデ	西床直
15	甕 口縁～胴部	口 20.2 底 — 高 (21.0)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 胴縦ヘラナデ、口縁からくびれ部横ナデ 内面 胴縦ヘラナデ→胴上部横ヘラナデ、口縁横ナデ	外面スス 中央床直 (3片)
16	甕 口縁～胴部	口 18.0 底 — 高 (8.5)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい褐色	外面 胴上部斜め横ヘラナデ、口縁横ナデ 内面 口縁横ナデ、胴上部ヘラナデ	外面スス 西床直へ+9 (3片)
17	甕 胴部	口 — 底 — 高 (19.1)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 縦ヘラナデ (ナデに近い) 内面 下半横ヘラナデ→全体に縦ヘラナデ	外面スス、内面ヨゴレ 北西床直へ+6 (4片)

天引51号住居跡出土土器 図236 PL142

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 23.5 底 — 高 (32.4)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	二重口縁、整ったつくり 外面 口縁斜め縦ヘラナデ→ 上端・中位の稜の部分・くびれ部横ナデ、胴部縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→横指ナデ、胴部横ヘラナデ	東+7～+15 (4片)

天引69号住居跡出土土器 図237 PL142

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁	口 16.6 底 — 高 (5.8)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	口縁上端は直立気味 外面 口縁上端面は中心に沈線→ 狭い間隔で斜め縦に櫛状工具による刺突、口頸部縦ヘラ 磨き 内面 口頸部横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き	中央
2	甕 口縁～胴部	口 15.4 底 — 高 (11.4)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい赤褐色	折り返し状口縁 外面 口縁横ナデ、胴部縦ナデ 内面 横ナデ	外面スス 北
3	埴		胎 緻密 焼 普通 色 灰褐色	外面 口縁縦ヘラ磨き、胴部横ヘラ削り 内面 口縁縦ヘラ磨き、胴部横ヘラナデ	外面スス 覆土中
4	ミニチュア 土器	口 — 底 2.6 高 (2.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	手捏→ナデ 内外面赤色塗彩	貯蔵穴周辺

天引77号住居跡出土土器 図237 PL142

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	器台	口 — 底 11.8 高 (7.2)	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	丹精なつくり、上部寄り三方向に円形透し、脚部から受 部に径0.9cmの円孔が貫通 外面 下端横ナデ→全体に 縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ→下半横ナデ	南西床直

遺物観察表

天引88号住居跡出土土器 図237 PL142

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	高坏 脚部	口 — 底 12.6 高 (9.8)	胎 緻密 焼 良好 色 黄橙色	接合部付近で首が急激にすぼまる 外面 縦ヘラ磨き→ 下端部横ナデ 内面 上端しぼり込み→中位縦指ナデ→ 下端横ナデ、成形痕を丁寧に消している 外面赤色塗彩	貯蔵穴内
2	台付甕 脚台部	口 — 底 8.6 高 (6.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 斜めハケ→縦ナデ→下端横ナデ 内面 横ヘラナデ→指ナデ、下端を内側に折り返し	外面スス 炉周辺+91
3	壺	口 — 底 — 高 (8.5)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁～胴上部ヘラナデ、胴下部斜めヘラ削り→縦 ヘラ磨き 内面 胴下部横ヘラナデ、胴上部指押え、縦 指ナデ→口縁横ヘラナデ後縦ヘラ磨き	内面黒色を呈する 4と同一個体か 炉周辺+91
4	甕 底部	口 — 底 4.4 高 (3.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	ややくぼみ気味の平底 外面 横・斜め横ヘラ削り→縦 ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 ヘラナデ	内面黒色を呈する 3と同一個体か 北壁際床直

天引90号住居跡出土土器 図237 PL142

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	小型甕	口 8.3 底 2.0 高 8.1	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	丸底に近い 外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴部横ヘ ラ削り→縦ヘラ磨きを上下2段に 内面 口縁横ナデ→ 横ヘラ磨き、胴部縦指ナデ	北床直
2	器台 脚部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	裾寄りに円形透し 外面 横ナデ 内面 ヘラナデ→横ナデ 外面赤色塗彩	床下
3	壺 口縁	口 24.0 底 — 高 (12.3)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	二重口縁、くびれ部に突帯がめぐる 外面 上段口縁縦ハケ→横ヘラ磨き、下段口縁縦ハケ→ 縦ヘラ磨き 内面 上段口縁横ヘラナデ→横ヘラ磨き、 下段口縁横ヘラナデ→横ヘラ磨き	外面及び胴部、内面上 段口縁赤色塗彩 南床直
4	高坏 坏部	口 — 底 — 高 (6.2)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 粗雑な横ヘラ磨き、接合部ナデ 内面 横ヘラ磨き 外面・坏部内面赤色塗彩	外面スス 覆土中
5	壺 底部	口 — 底 8.0 高 (2.0)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 縦ハケ→下端横ヘラナデ、底面ヘラ削り 内面 横ヘラナデ、磨耗が著しい	覆土中
6	台付甕 脚台部	口 — 底 10.0 高 (9.2)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 甕部縦ハケ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデ→下半横 ナデ 内面 甕部ヘラナデ→底面砂質粘土をすりつけて 指ナデ、脚台部接合部に粘土をすりつけて縦指ナデ、下 端内側に折り返し、内面は丁寧な整形	外面スス 炉周辺床直
7	台付甕 脚台部	口 — 底 9.0 高 (6.8)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 縦・斜め縦ナデ→下端内側へ折り返し	外面スス 南西床直

天引94号住居跡出土土器 図237 PL142

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 口縁		胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 灰黄色	二重口縁 内外面とも横ナデ	南西床直

天引96号住居跡出土土器 図237 PL142

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴 口縁		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁ヘラナデ→上端横ナデ→斜め縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラ磨き	貯蔵穴内
2	台付甕 口縁	口 12.2 底 — 高 (5.2)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→指ナデ	南東床直

天引106号住居跡出土土器 図238 PL143

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 13.0 底 — 高 (5.3)	胎 砂粒・赤色粒を含む 焼 普通 色 にぶい橙色	外面 口縁横ナデ→斜めヘラ磨き、底面横ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、底部縦ヘラ磨き	貯蔵穴内
2	埴 ?	口 13.6 底 — 高 (3.3)	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	内外面とも横ヘラ磨き	覆土中
3	小型壺? 口縁	口 8.2 底 — 高 (4.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 浅黄色	外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、頸部斜めハケ→横ヘラ ナデ 内面 横ナデ	炉周辺床直～+7 (散在)
4	小型壺	口 — 底 — 高 (9.8)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 にぶい黄橙色	丸底 外面 ハケ→ヘラナデ→横ヘラ磨き 内面 ヘラナデ	炉周辺床直
5	壺	口 — 底 4.7 高 (14.5)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	口縁上端部欠損、平底 外面 口頸部横ナデ、胴部斜め ヘラナデ→くびれ部横ナデ→全体に縦ヘラ磨き、底面ヘ ラ削り 内面 口頸部縦ヘラ磨き、肩部指押え、胴部横 ヘラナデ	炉周辺床直
6	台付甕 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ	外面スス 貯蔵穴周辺+8
7	台付甕 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 にぶい黄褐色	口縁部のづくりがややぎこちない 外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ	東+7

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
8	壺 口縁	口 11.0 底 — 高 (6.0)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	二重口縁 外面 横ナデ 内面 横ヘラナデ→横ナデ	炉内
9	塊 ?	口 14.8 底 — 高 (7.7)	胎 砂粒をやや多く含む 焼 普通 色 灰褐色	粗雑なつくり 外面 口縁横ナデ→全体に縦ナデ 内面 横ヘラナデ	外面スス 貯蔵穴内
10	台付壺 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 褐色	やや小用品 外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→縦指ナデ	外面スス 東+10
11	台付壺 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明褐灰色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え	外面スス 北+22
12	甗 底部	口 — 底 4.8 高 (5.5)	胎 緻密 焼 良好 色 明赤褐色	外面底面は内側にくぼみ、中央に円形の孔が焼成前に穿たれる 外面 縦ヘラ磨き、底面横ヘラ磨き 内面 縦ヘラ磨き(?)	炉内
13	台付壺 脚台部	口 — 底 9.6 高 (6.3)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 横ヘラナデ→上端接合部に粘土をすりつけて指ナデ、下端部を内側に折り返し	貯蔵穴内
14	台付壺 接合部	口 — 底 — 高 (4.9)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 体部縦ヘラ磨き→部分的に縦ナデ、脚台部斜めハケ→縦ナデ 内面 体部横ヘラナデ→底面縦指ナデにより粘土をすりつける、脚台部縦指ナデ	中央+5
15	高坏 脚部	口 — 底 — 高 (9.9)	胎 緻密 焼 きわめて良好 色 明褐色	外面 縦ヘラ磨き 内面 接合部寄り縦指ナデ、中位から下端横ヘラナデにより整形痕を消している	炉周辺床直
16	小型器台 口縁	口 9.4 底 — 高 (2.7)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	口縁は段をもたない 外面 横ナデ→下半縦ヘラナデ 内面 ヘラナデ→横ナデ	貯蔵穴内
17	小型器台 口縁	口 8.6 底 — 高 (2.4)	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい黄橙色	口縁中途に段をもつ 外面 横ナデ→下段斜め縦ヘラ磨き 内面 横ナデ→縦ヘラ磨き	覆土中

天引107号住居跡出土土器 図238 PL142

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 15.1 底 — 高 6.1	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	底面中央がへそ状にくぼむ 外面 口縁縦ヘラ磨き、底部ヘラ削り→ヘラ磨き 内面 口縁縦ヘラ磨き、底部横ヘラ磨き	覆土中
2	坏	口 10.0 底 2.6 高 3.5	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい褐色	巻き上げ後指押え、指ナデによる粗雑な整形で、内面積み上げ痕を残す 外面 指ナデ→ヘラ削り 内面 あらい横ハケ→指ナデ	内外面スス 東+1
3	台付壺 口縁		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	内外面とも横ナデ	外面スス 北+8

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	台付甕 口縁		胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	内外面とも横ナデ	覆土中
5	埴	口 11.15 底 — 高 6.8	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、底部指ナデ→ヘラ削り 内面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラ磨き、底部ヘラナデ→縦ヘラ磨き	中央+20
6	台付甕 肩部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 左斜め縦ハケ→横ハケ 内面 指押え→指ナデ	外面スス 中央+39
7	台付甕 脚台部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明褐色	下端を内側に折り返し	覆土中
8	台付甕 脚台部		胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	下端を内側に折り返し	覆土中
9	壺 口縁		胎 緻密 焼 良好 色 にぶい橙色	二重口縁、比較的シャープな仕上がりであるが磨きはやや粗雑 外面 横ヘラ磨き 内面 横ヘラ磨き	中央+17

## 天引114号住居跡出土土器 図239・240 PL143

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴	口 11.0 底 — 高 (5.0)	胎 緻密 焼 良好 色 浅黄色	外面 口縁横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き、底部横ヘラナデ 内面 口縁横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き、底部横ヘラナデ	柱穴4周辺+29
2	埴	口 12.8 底 — 高 (7.1)	胎 緻密 焼 良好 色 浅黄色	外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、胴上部縦ヘラ磨き 内面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き胴部横ヘラナデ	覆土中
3	埴 口縁	口 11.6 底 — 高 (7.2)	胎 砂粒を含む 焼 普通 色 浅黄橙色	口縁部はやや内湾ぎみに外へ開く 外面 横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き	中央+10
4	高坏 坏部	口 7.0 底 — 高 (5.3)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	口縁は二段に外反する 外面 縦ヘラ磨き、底面ヘラナデ 内面 縦ヘラ磨き	東+13
5	壺 口縁	口 — 底 12.2 高 (6.3)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 縦ヘラナデ、口縁上半横ナデ 内面 横ヘラナデ→横ナデ	中央+31
6	高坏 坏部	口 19.4 底 — 高 (4.8)	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 横ナデ→斜め縦ヘラ磨き→口縁端横ナデ 内面 ヘラナデ→横ナデ→斜め縦ヘラ磨き	中央+20～+30
7	台付甕 口縁	口 — 底 — 高 —	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄褐色	外面 口縁横ナデ、肩部ヘラナデ、ハケ目なし 内面 口縁横ナデ、肩部横ヘラナデ	外面スス 覆土中

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
8	高坏 坏部	口 — 底 — 高 (2.3)	胎 赤色粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 底面へラ削り→縦へラナデ 内面 へラ磨き	中央+32
9	高坏 坏部	口 17.1 底 — 高 (4.3)	胎 赤色粒を多く含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 口縁横へラナデ→横ナデ、底部横へラ削り→口縁 寄りを横へラナデ 内面 横へラナデ→横ナデ	外面スス 中央+28
10	台付甕 脚台部	口 — 底 8.9 高 (5.5)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	外面 斜め縦ハケ→縦・斜め縦ナデ→下端横ナデ 内面 横指ナデ→上部粘土をすりつけて指ナデ、下端内 側に折り返し	柱穴3周辺床直
11	高脚 坏部	口 — 底 — 高 (9.3)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 へラナデ 内面 柱状部縦指ナデ→しぼり込み→下端に裾部との接 合痕	中央+29
12	高脚 坏部	口 — 底 13.0 高 (10.3)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 柱状部縦へラナデ 内面 柱状部縦指ナデ→しぼり込み→裾部接合→裾部横 ナデ	中央+33
13	壺	口 — 底 8.0 高 (22.3)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	胴下半寄りで大きく張る、平底 外面 口縁ハケ→ナデ、 胴部ハケ→へラナデ削り→縦へラ磨き 内面 口縁へラ 磨き、胴部横ハケ→胴上から中位横へラナデ	中央床直～+33(15片)
14	壺 口縁	口 22.4 底 — 高 (8.3)	胎 砂粒・赤色粒を含む 焼 良好 色 浅黄橙色	二重口縁 外面 縦へラ磨き、口唇部に櫛状工具による縦の刺突 内面 横ナデ→縦へラ磨き	貯蔵穴周辺+35(2片)
15	鉢	口 9.6 底 5.4 高 5.9	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 赤褐色	平底 内外面とも丹念な横へラ磨き	縄文土器の可能性が強 い 東南+12
16	壺	口 23.0 底 9.6 高 39.0	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい黄橙色	二重口縁、平底でやや突出する 外面 口縁横ナデ→口 縁上端と中位の段の部分に櫛状工具による斜め刺突、胴 部へラ削り→縦へラ磨き（へラ削り痕が明瞭に見えるほ どの磨き） 内面 口縁横ナデ、胴部横へラナデ	中央+10～+20(3片)

天引117号住居跡出土土器 図240 PL146

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	甕 完形	口 9.8 底 — 高 8.3	胎 砂粒を多く含む 焼 普通 色 にぶい褐色	外面 口縁から肩部横ナデ、胴部横へラナデ、底部粗い へラ削りにより面を整える 内面 口縁横ナデ、胴部横へラナデ	外面スス 西+15～+21(2片)
2	甕 口縁～胴部	口 18.6 底 — 高 (19.8)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色	外面 口縁からくびれ部縦ハケ→横ナデ、胴部縦ハケ→ 中位横指ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横へラナデ	外面スス 北+31

天引122号住居跡出土土器 図240

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	台付甕 口縁	口底 高	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ	覆土中
2	台付甕 口縁	口底 高	胎 緻密、微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	内外面とも横ナデ	覆土中
3	台付甕 脚台部	口底 高	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 明黄褐色	外面 ナデ 内面 上端横指ナデ→横ヘラナデ、下端内側に折り返し →縦横ヘラナデ	中央床直～+7(2片)
4	高 坏 口縁	口 23.0 底 高 5.3	胎 緻密 焼 良好 色 ぶい赤褐色	内外面とも横ナデ、下端はきれいな剝離痕	流れ込み遺物

天引131号住居跡出土土器 図241・242・243 PL144・145・148

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺 完形	口 9.8 底 5.0 高 11.6	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	口縁中位に折り返し状の稜をもつ、底部中央は円形にくぼみ平底状を呈する 外面 口頸部ヘラナデ→縦ヘラ磨き、肩部縦ヘラ磨き、胴部横ヘラ磨き 内面 口頸ヘラナデ→横ナデ、胴部ヘラナデ	北+9
2	埴 完形	口 11.2 底 高 12.9	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	丸底、器面の磨耗が著しい 外面 口縁からくびれ部横ナデ、胴部中位以下横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部指ナデ、輪積痕を明瞭に残す	南床直～+17(8片)
3	壺	口 19.6 底 高(26.3)	胎 砂礫を含む 焼 きわめて良好 色 橙色	二重口縁 外面 口縁横ナデ、胴部ヘラ削り→ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、肩部指ナデ、胴中位から下部ヘラナデ	中央+11～+15(2片)
4	甕 口縁～胴部	口底 高	胎 緻密 焼 普通 色 ぶい橙色	器面の磨耗が著しい 外面 横ヘラナデ→口縁横ナデ、底部寄り横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	北床直(2片)
5	甕 口縁～胴部	口 15.0 底 — 高(9.0)	胎 赤色粒を含む 焼 良好 色 ぶい橙色	外面 口縁からくびれ部横ナデ→胴部横・斜め横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部斜め横ヘラナデ	外面スス 南西+14～+17(3片)
6	壺	口 12.6 底 — 高(15.6)	胎 微砂粒・赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	やや粗雑なつくり、底面中央が少しくぼみ平底に近い 外面 口頸縦ヘラ削り→口縁・くびれ部横ナデ、胴部ナデ、底部ヘラ削り 内面 口頸横ナデ、胴部横ヘラナデ	外面スス 北+10
7	甕	口 16.2 底 — 高(23.5)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	胴長で底面は丸味をもった平底で突出しない 外面 口縁横ナデ、胴部ナデ、粘土の積み上げ痕を残す 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ→下半細かい縦ヘラナデ	外面スス 台付甕の可能性もある 中央床直～+14(5片)

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
8	罎	口 11.7 底 5.0 高 8.9	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 橙色	粗雑なつくり、平底で底面の中央がややくぼむ 外面 口縁横ナデ、胴部ナデ、底部横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部指ナデ	南+15
9	罎	口 6.6 底 高 (7.5)	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 におい橙色	丸底 外面 くびれ部横ナデ、胴上半指ナデ→胴下半横ヘラ削り 内面 くびれ部横ナデ、胴部指ナデ	南+13
10	台付甕	口 20.0 底 11.9 高 35.4	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 橙色	長胴でやや粗雑なつくり 外面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラ削り、中位以下斜め縦ヘラ削り、脚台部縦ナデ→接合部横ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ、底部縦ヘラナデ、脚台部上端に粘土の充填痕、下端は内側へ粗雑に折り返し	中央床直～+17(9片)
11	壺 口縁	口 22.4 底 — 高 (5.0)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	口縁部は折れるように外側に開く 外面 縦ヘラナデ→横ナデ 内面 横ナデ→横ヘラナデ、磨き 内外面赤色塗彩	中央+7～+15(6片)
12	壺 口縁	口 14.0 底 — 高 (6.5)	胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 におい橙色	外面 横ナデ→縦ヘラ磨き 内面 横ナデ→斜め縦ヘラ磨き	外面スス 中央床直～+10(5片)
13	台付甕	口 15.1 底 10.8 高 30.4	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 橙色	やや胴長 外面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラ削り、中位以下斜め・斜め縦ヘラ削り→部分的にヘラナデ、脚台部縦ナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ、接合部に粘土を充填し指ナデ	中央床直～+20(14片)
14	台付甕 脚台部欠損	口 18.9 底 — 高(27.2)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 におい橙色	やや胴長で、やや粗雑なつくり 外面 口縁横ナデ、胴上部横ヘラ削り、中位以下斜め縦ヘラ削り→部分的に縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、胴部ヘラナデ	中央+8～+17(5片)
15	台付甕 脚台部	口 — 底 11.7 高(10.9)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 におい橙色	粗雑なつくり 外面 甕部縦ヘラナデ、接合部横指ナデ、脚台部ナデ→下端寄り横沈線 内面 甕部ヘラナデ、脚台部下端内側へ折り返し→縦指ナデ	外面スス 北東床直
16	高 坏	口 19.4 底 14.6 高 16.3	胎 緻密、砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 坏部口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、底面縦ヘラ削り、柱状部縦ナデ、裾部横ナデ→斜め縦ヘラ磨き 内面 口縁横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き、柱状部しぼり込み→縦指ナデ、裾部横ナデ	外面スス 南西床直～+21(3片)
17	高 坏 坏部	口 20.4 底 — 高 (7.3)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 橙色	外面 口縁横ナデ、底部縦ヘラ削り 内面 ヘラナデ→横ナデ、底面中心は、へそ状の突出部分にあたり欠落している	南西+8～+18(5片)
18	高 坏 坏部	口 21.0 底 — 高 (5.5)	胎 赤色粒を含む 焼 良好 色 明赤褐色～橙色	外面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラ磨き、底部横ヘラ削り 内面 口縁ヘラナデ→横ナデ→斜め縦ヘラ磨き	床直～+18散在
19	高 坏 脚部	口 — 底 13.4 高 (9.0)	胎 緻密 焼 普通 色 橙色	外面 柱状部縦ヘラナデ→裾部横ナデ 内面 柱状部指ナデ→しぼり込み→裾部横ナデ、器面の磨耗が著しい	中央+10～+16(3片)
20	高 坏	口 20.6 底 — 高 (7.7)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 橙色	形状が歪んでいる、底面中央はへそ状に突出させ脚部と接合 外面 口縁横ナデ→下半斜め縦ヘラ削り、底部横ヘラ削り→接合部横指ナデ 内面 ヘラナデ→口縁横ナデ	南東床直～+14(4片)

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
21	高脚 坏部	口 — 底 16.0 高(10.2)	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 橙色	外面 柱状部縦ヘラナデ、裾部ヘラナデ、横ナデ 内面 柱状部縦指ナデ→しぼり込み→裾部接合→指ナデ →端部横ナデ	中央+8~+12(2片)
22	高脚 坏部	口 — 底 13.1 高(10.0)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 坏部底面ヘラ削り、柱状部縦ヘラ削り→下半横ハ ケ→縦ヘラナデ、裾部ヘラナデ→横ナデ 内面 柱状部しぼり込み→下端横ハケ→柱状部下端から 裾部にかけて横ナデ、柱状部上端は坏部との接合後強い 横指ナデ	南+13
23	鎌先状鉄 製品	横長の鉄板の両側を幅約2cm内側に折り曲げさらにその下端を打ちつぶして木質部の先端に装着したものと思われる 刃部は本来弧状を呈していたものと思われるが、片側が破損したため調整しなおしている、通例のものより小型品である こと、刃部が弧状を呈することから手鎌の可能性もある、住居東南床直出土 縦5.0、横9.4、厚0.3、重59.9			

天引142号住居跡出土土器 図244 PL146

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴 完形	口 10.6 底 — 高 7.7	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	丸底、底面中央がくぼむ 外面 口縁横ナデ、胴上部から 中位ナデ、胴下部から底部横ヘラ削り 内面 口縁から胴上部横ナデ、底部指ナデ	貯蔵穴内
2	埴 完形	口 9.1 底 2.8 高 8.3	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	底部は平底ぎみでやや突出する 外面 口縁からくびれ 部横ナデ、胴上部ナデ、胴下部横ヘラ削り→ナデ 内面 口縁横ナデ、胴下部縦指ナデ→胴上部横指ナデ	炉内
3	埴 完形	口 9.1 底 4.0 高 9.0	胎 砂礫をやや多く含む 焼 良好 色 橙色	平底、底面中央がくぼむ 外面 口縁横ナデ、胴上部ナデ→胴下部横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横指ナデ	西床直
4	埴 完形	口 9.0 底 4.0 高 10.4	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	平底、焼成時に、胴中位にぱっくり亀裂が入っている 外面 口縁横ナデ、胴上部から中位ナデ→部分的にヘラ ナデ、胴下部横ヘラ削り、底面ヘラ削り→ナデ 内面 口縁横ナデ、部分的に縦ヘラ磨き、胴上部横ヘラ ナデ、胴下部ヘラナデ→ナデ	西床直
5	埴 完形	口 12.3 底 — 高 15.5	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 橙色	口縁は折り返し状を呈する、底面はやや丸味をもち、中 央がややくぼむ 外面 口縁横ナデ→部分的に縦ヘラナ デ、胴上部ナデ→胴中位から下部横ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部縦指ナデ	外面ススが強く付着 貯蔵穴内
6	台付甕 脚台部欠損	口 13.5 底 — 高(14.0)	胎 砂礫を含む 焼 普通 色 橙色	口縁はくの字形に大きく開く、底部中央をへそ状に突出 させる 外面 口縁から肩部横ナデ、胴中位、斜め横ヘ ラナデ、胴下部縦ヘラナデ 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ→横指ナデ	外面スス付着 西床直
7	高脚 坏部	口 14.0 底 — 高(5.7)	胎 砂礫を含む 焼 普通 色 にぶい褐色	口縁内外面とも横ナデ	中央+8
8	高脚 坏部	口 — 底 12.4 高(8.3)	胎 緻密 焼 良好 色 にぶい褐色	外面 柱状部指ナデ、裾部横ナデ 内面 柱状部横指ナデによる成形痕を丹念に消す、 裾部横ナデ	貯蔵穴内

遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
9	高脚 坏部	口 1.4 底 8.1 高 (9.6)	胎 微砂粒・赤色粒を含む 焼 良好 色 橙色	外面 縦ヘラナデ 内面 横ヘラナデにより成形痕を消している	東床直
10	高脚 坏部	口 — 底 — 高 (10.6)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 柱状部ナデ→縦ヘラナデ、裾部横ナデ 内面 柱状部→縦指ナデ→しぼり込み→柱状部下端から裾部を巻き上げ接合→裾部横ナデ	北床直
11	高完 坏形	口 19.6 底 16.2 高 16.8	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	外面 坏部口縁横ナデ、底部指ナデ、柱状部ナデ→部分的に縦ヘラ磨き、裾部横ナデ 内面 坏部口縁横ナデ柱状部上半縦指ナデ→しぼり込み→柱状部下半から裾部を巻き上げ接合後横ナデ	東壁際+6～+9 (2片)
12	甕	口 16.8 底 — 高 (15.5)	胎 砂礫を含む 焼 良好 色 におい褐色	外面 口縁横ナデ、胴部斜め横ヘラ削り (ヘラナデに近いものもある) 内面 口縁横ナデ、胴部斜め横ヘラナデ→部分的に縦指ナデ	外面スス付着 中央床直～+16 (3片)
13	塊	口 10.2 底 4.2 高 (3.5)	胎 緻密 焼 良好 色 橙色	内斜口縁、平底 外面 口縁から体部上半横ナデ、体部下半ナデ、底面ヘラ削り 内面 横ナデ	中央床直

天引143号住居跡出土土器 図243 PL146

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	埴 完形	口 10.6 底 3.3 高 11.1	胎 緻密 焼 良好 色 におい橙色	体部は厚手のつくり、平底 外面 口縁横ナデ、肩部ナデ→胴中位以下横ヘラ削り、底面ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴上部横指ナデ、胴下部縦指ナデ	貯蔵穴内
2	高 坏口縁		胎 緻密、赤色粒を含む 焼 良好 色 褐色	二段に開き丁寧で形が整っている 外面 横ナデ→斜め縦ヘラ磨き 内面 横ナデ	貯蔵穴内
3	埴 口縁部欠損	口 — 底 4.4 高 (8.2)	胎 砂粒を多く含む 焼 良好 色 におい黄褐色	平底、底面の周縁部を除いて少しくぼむ 外面 口縁から胴上部ヘラナデ、胴中位以下ナデに近い横ヘラ削り 内面 口縁横ヘラナデ、胴上部横指ナデ、胴下部縦指ナデ	外面スス付着 貯蔵穴際床直 (2片)

天引6号住居跡出土石器 図247 PL149

単位: cm, g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
11	砥石	流紋岩	10.4	3.9	3.5	210	表裏面及び左右両側面が、ややえぐれるようによく使用されている、上部欠損	西床直

天引10号住居跡出土石器 図247 PL149

単位: cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
34	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.9	0.4	0.5	周囲を荒割り成形した段階、表裏面とも未整形	覆土中
35	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.8	0.3	0.3	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
36	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	1.0	0.9	0.5	0.6	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
37	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.9	0.3	0.4	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
38	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	1.0	1.0	0.4	0.4	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
39	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.9	0.4	0.4	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
40	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	1.0	1.0	0.4	0.4	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
41	滑石製白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.8	0.4	0.4	周囲を荒割り成形、表裏面とも未整形	覆土中
42	石核	滑石質蛇紋岩	5.5	4.1	1.9	34	母岩と思われる	覆土中

天引11号住居跡出土石器 図247 PL149

単位: cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
6	有溝研磨器	牛伏砂岩	8.7	7.4	2.2	165	表裏面の先端寄りに研磨面、また両面の中央に溝状の研磨痕	南壁+11
7	打製石斧?	黒色安山岩 (多斑晶)	12.8	9.2	5.9	1000	礫の分割面に全周から剝離を加える、打製石斧の未成品か	覆土中

天引18号住居跡出土石器 図247 PL149

単位: cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
7	すり石	砂岩	7.8	8.4	4.0	374	表裏面にすり面、側面に打痕、下端欠損	北+7.2

天引23号住居跡出土石器 図248 PL149

単位: cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
4	石  鎌	緑色片岩	15.5	8.9	2.9	464	板状の素材の全周に調整加える	中央+21
5	台  石	粗粒安山岩	30.7	25.4	9.3	11500	扁平な自然石を使用、表面の中央寄りの平の面が磨滅し、滑らかになっている	北+13

天引25号住居跡出土石器 図250 PL149

単位: cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
19	打製石斧	硬質泥岩	10.0	6.1	2.0	125	ほぼ全面に調整加える、刃部欠損、撥形	東壁+20.2

遺物観察表

天引28号住居跡出土石器 図248 PL149・150

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
17	砥石	牛伏砂岩・粗粒	6.5	4.5	3.0	85	表・左側面と裏面の一部を使用しており、使用面はややえぐれている	中央+18.8
18	砥石	牛伏砂岩・細粒	7.7	3.9	1.4	54	右上の縁に沿って表裏面・および左側面を使用	柱穴4内
19	くぼみ石	緑色片岩	9.0	8.1	2.7	370	表裏面の中央にくぼみ、表面の縁寄りにすり面を残す	西+25.7
20	たたき石	緑色片岩	14.3	4.5	3.6	460	上下両端に打痕	南+29.2
21	すり石	珩質変質岩	8.7	11	3.5	485	表面全体がすり面で、きわめて平滑になっている	西+30.3
22	台石	雲母石英片岩	33.6	25.4	11.9	18,200	厚みのある板状の自然石をそのまま使用、表面全体を使用しており平滑になっている	西-10.1

天引30号住居跡出土石器 図250 PL150

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
9	くぼみ石	デイサイト質凝灰岩	9.7	7.6	3.6	239	表面にくぼみ、すり面	南床直

天引31号住居跡出土石器 図249 PL150

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
6	砥石	流紋岩	25.4	12.0	7.8	3,200	上下両端を除く全面が使用されている、特に表面と左右両側面がよく使用されており、使用面はえぐれるようにカーブしている	中央床直
7	すり石	変質玄武岩	10.9	7.5	4.7	540	表裏面ともすり面、表面の上寄りに打痕	南+29.8
8	砥石	流紋岩	12.8	7.1	4.3	760	表裏と左右両側の四面を使用している、特に表面と右側面がよく使用されており、面がえぐれている、下半を欠損しているが、欠損後も使用している	北壁周辺床直
9	台石	雲母石英片岩	29.4	33.0	4.9	8,800	下側破損、裏面剝離、剝離した面を床に設置させて使用	中央床直
10	台石	雲母石英片岩	28.9	17.4	5.0	3,800	表面は使用により面が磨滅し、平滑になっている	貯蔵穴内

天引51号住居跡出土石器 図250 PL150

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特 徴	出土位置等
2	打製石斧	硬質泥岩	11.0	5.3	1.4	87	素材剥片の全周に調整加える、刃部に使用による磨耗顕著にみられる、撥形	南西床直

天引69号住居跡出土石器 図250 PL150・151

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	砥石	牛伏砂岩・細粒	5.8	6.8	2.0	88	表裏面とも使用、表面に1条・裏面に2条の浅いU字形のくぼみがある、下半部欠損	中央+22
6	ガラス小玉	ガラス	0.5	0.6	0.17	0.3	やや緑がかった水色を呈する、端部はやや丸味をもち、形はいびつである	覆土中

天引88号住居跡出土石器 図250 PL150

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	砥石	デイサイト	21.0	12.3	9.2	3,500	表裏面と左右側面の4面の中央寄りが使用されている、特に左右側面がよく使用されている	北+6.5

天引90号住居跡出土石器 図251 PL151

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
8	砥石	牛伏砂岩・中粒	4.6	4.2	1.0	15	表面の中央が舟底形にくぼむ、表裏面とも全体に使用	床下
9	砥石	牛伏砂岩・粗粒	9.2	4.6	2.3	104	表裏面とも溝状の研磨痕がある、右側欠損	南壁床直
10	石 鋏	変質安山岩	20.0	9.5	2.9	620	大形の剥片素材、全周の両面に調整加えるが、素材面をかなり残す	北西+24(掘底)
11	石 鋏	硬質泥岩	16.7	7.8	2.7	363	素材剥片のほぼ全周に調整加えるが、素材の面を大きく残す	中央+12
12	台 石	変玄武岩	20.8	11.4	8.0	3,200	左右両側が断面山形になっており、そこに打痕が著しい裏面にくぼみあり	柱穴3内
13	すり石	変質安山岩	9.6	7.8	5.5	592	表裏面ともすり面、中心寄りに打痕、側面打痕、右側欠損	柱穴3周辺+16.8
14	たたき石	緑色片岩	18.5	5.9	2.5	430	表面の中央寄りに打痕、右側面にも打痕	覆土中
15	多孔石	緑色片岩	34.7	8.4	9.4	5,000	表面は被熱により表面が剥離し、赤味をおびる、全面に多くのくぼみがある	炉内
16	台 石	雲母石英片岩	25.9	26.2	6.6	7,600	扁平な自然石をそのまま使用、表面は使用のため面が平滑になっている、中心寄りに打痕あり	柱穴1周辺床直

天引106号住居跡出土石器 図252 PL151

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
18	管 玉	蛇紋岩	1.8	0.5	孔径0.22	1.3	上下端部がやや丸味をおびる、表面は丁寧に研磨され平滑である、両面穿孔	覆土中
19	管 玉	蛇紋岩	2.4	0.7	孔径0.27	2.2	端部寄りやや丸味、表面は丁寧に研磨され、平滑である、両面穿孔	貯蔵穴内

遺物観察表

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
20	管玉	凝灰質泥岩	(2.8)	1.3	孔径 0.44	7.0	表面は非常に丁寧な整形、上端部は破損後に研磨しているため形がいびつ、下半部欠損	南東壁際+15.2
21	石 鋏	ひん岩	13.8	9.7	2.6	365	大形の剥片素材、全周に調整加えるが、素材面を大きく残す、基部欠損	南

天引107号住居跡出土石器 図252 PL151

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
10	砥石	牛伏砂岩・中粒	8.0	6.6	1.9	137	表裏面の全体を使用	南壁周辺床直

天引114号住居跡出土石器 図252 PL151

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
17	くぼみ石	黒色片岩	14.4	12.3	2.9	795	表裏面とも中心寄りに浅いくぼみ	柱穴3周辺+15.6

天引117号住居跡出土石器 図252 PL151・153

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
3	管玉	蛇紋岩	2.21	0.55	0.21	0.9	非常に丁寧なつくりで整形痕を残さない、上下端部も平らに仕上げられている、両面穿孔	覆土中
4	くぼみ石	砂岩	5.7	6.7	3.4	205	表裏面ともすり面、中心寄りにくぼみ、下半部欠損	ピット内
5	台石	デイサイト	25.3	15.8	1.6	1,200	板状に割り取った石材の縁辺部を打ちかいて、小判形に成形している	覆土中
6	台石	粗粒安山岩	23.8	24.8	7.7	7,400	扁平な自然石をそのまま使用、縁部を除いた表面を使用しており平滑になっている	南壁周辺床直

天引122号住居跡出土石器 図254 PL151

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	石 鋏	粗粒安山岩	11.5	10.1	2.8	428	剥片素材、全周に調整加えるが素材面を大きく残す、基部と刃部の一部欠損	覆土中
6	石 鋏	黒色片岩	14.4	9.5	2.1	369	板状の素材の全周に調整加える、中央よりやや上の両側に入ぐりが入る	覆土中

天引142号住居跡出土石器 図253 PL151・152・153

単位：cm、g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
14	剣形模造品	滑石質蛇紋岩	3.5	1.4	0.5	3.2	表面は丁寧に研磨し、錆を明瞭につくり出しているが、裏面は平坦で整形もややあらい、穿孔は両面穿孔で、基部の一部を欠損	覆土中
15	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.3	0.9	0.25	1.1	表裏面および側面全体を研磨、穿孔がないので未完成であるが、形状は完成しているものと思われる	覆土中(ピット1)
16	勾玉	滑石質蛇紋岩	3.4		1.0	7.4	ゆがみが少なく、逆くの字形を呈する、面は丹念に磨かれ、整形痕をほとんど残さない、小孔は両面穿孔	北東+5.8
17	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.3	2.3	0.4	2.6	表裏面研磨、側面を研磨により円形に整形する途中、有孔円盤の未完成品か？	西+7.5
18	白玉	滑石質蛇紋岩	0.7	0.6	0.4	0.7	表裏面研磨、周囲を荒割り	覆土中
19	白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.7	0.4	0.7	表裏面研磨、周囲を荒割り	覆土中
20	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	1.0	0.3	0.6	表裏面研磨、周囲を荒割りし、側面の一部研磨	覆土中
21	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	0.1	0.5	0.9	表裏面研磨、周囲を荒割りし、側面の一部研磨	覆土中
22	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	0.8	0.3	0.6	表裏面研磨、周囲を荒割り	覆土中
23	白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	0.9	0.3	0.7	表裏面研磨、周囲を荒割り	覆土中
24	滑石製品	滑石質蛇紋岩	3.0	1.8	0.3	2.1	表裏面研磨	西+14.5
25	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.9	1.9	0.2	1.1	表裏面研磨	西+6
26	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.4	1.8	0.3	1.4	表裏面研磨	西+17
27	滑石製品	滑石質蛇紋岩	1.9	1.3	0.2	0.9	表裏面研磨	西床直
28	滑石製品	滑石質蛇紋岩	1.3	1.2	0.2	0.6	表裏面及び左側面	西+12
29	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.1	1.2	0.2	0.6	表裏面研磨	西+13
30	滑石製品	滑石質蛇紋岩	3.6	1.4	0.3	2.1	表裏面研磨、上端側面をナミ状工具により削る	中央床直
31	滑石製品	滑石質蛇紋岩	3.5	2.2	0.3	2.7	表裏面研磨、下端および右上の側面を研磨整形	西床直
32	滑石製品	滑石質蛇紋岩	3.5	1.7	0.2	1.5	表裏面研磨	覆土中
33	石 鋏	変質安山岩	17.2	9.5	2.4	470	剝片素材、全周に調整加えるが、素材面を大きく残す、刃部に使用による弱い磨耗がみられる	北+19
34	台 石	粗粒安山岩	29.6	23.9	9.6	9,400	表面平らで裏面は丸味をおびる、表面に打痕がある、側面に沿って全体に面が剝離しているが、使用の痕跡かは不明	西床直

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
4	滑石製紡錘車	蛇紋岩	4.2	4.1	1.3	27.6	表面は斜面部に細かい単位の研磨面が認められる、裏面は平滑で、基本的に2方向の研磨が認められる、裏面の孔の周囲の研磨痕が磨滅して平滑になっていることから使用されていた、完成品である	南床直
5	白玉	滑石質蛇紋岩	0.5	厚さ0.2	孔径0.16	0.1	表裏面は未整形、側面はきれいな円形に仕上げられている	入口-7
6	白玉	滑石質蛇紋岩	0.5	厚さ0.3	孔径0.16	0.1	表裏面及び側面を研磨整形	入口+16
7	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	厚さ0.3	孔径0.15	0.1	表裏面研磨、側面も研磨により、円形に研磨している途中破損	入口-12
8	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	厚さ0.3	孔径—	0.1	表裏面とも研磨整形、側面は未整形、表面からの穿孔が、貫通する直前に破損	入口床直
9	白玉	滑石質蛇紋岩	0.6	厚さ0.25	孔径0.17	0.2	表裏面とも研磨整形、側面は未整形	掘り方
10	白玉	滑石質蛇紋岩	0.9	厚さ0.3	孔径0.16	0.3	表裏面、側面とも研磨整形	入口床直
11	白玉	滑石質蛇紋岩	0.8	厚さ0.2	孔径—	0.4	表裏面とも研磨整形、側面未整形、表面からの穿孔途中に破損	掘り方
12	滑石製品	滑石質蛇紋岩	2.2	1.1	0.5	1.7	表裏面、上下及び右側面を丹念に研磨整形、左側面は未整形（破損可能性あり）	入口+19
13	滑石未成品	滑石質蛇紋岩	3.1	1.6	0.6	5.5	表裏面と左右側面を研磨整形、上下側面は未整形	柱穴4周辺床直
14	滑石製品	滑石質蛇紋岩	1.4	1.5	0.5	1.9	表裏面、左右および上側面を丹念に研磨整形、下半を欠損	入口床直
15	滑石未成品	滑石質蛇紋岩	2.7	2.3	0.4	3.2	表裏面とも研磨整形、側面は未整形	入口床直
16	滑石片	滑石質蛇紋岩	4.5	2.6	1.3	21.5	荒割り成形を施している、部分的に端部の凹凸を取り除く研磨が見られる	西壁床直
17	滑石片	滑石質蛇紋岩	7.6	4.4	1.5	55.1	母岩と思われる、表裏面からはがすように素材片が取られている	西床直

## 5 古墳方形周溝墓出土遺物

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	台付甕口縁	口 12.0 底 — 高 (4.5)	胎砂粒を多く含む 焼良好 色 明黄褐色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→横指ナデ	東溝底床直
2	埴形完	口 11.2 底 6.6 高 6.4	胎砂粒をやや多く含む 焼良好 色 明黄褐色	外面 口縁横ヘラナデ→上端横ナデ、底部ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、内面赤色塗彩	南西溝底+12

天引1号方形周溝墓出土石器 図255 PL153

単位: cm, g

No.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
3	砥石	牛伏砂岩・粗粒	7.6	5.8	1.4	45	表裏面とも使用、特に中心寄りには浅いU字形を呈するほどにすり減っている、左上半欠損	南西掘底+6
4	打製石斧	デイサイト	8.7	5.6	1.7	110	刃部欠損、両側に調整加えるが、素材剥片の面を大きく残す	北西掘底+18
5	砥石	牛伏砂岩・細粒	12.0	8.6	2.2	335	縁寄りを除く表裏面を使用	北西掘底床直
6	くぼみ石	緑色片岩	13.4	9.0	5.2	1,100	表裏面の中央寄りにくぼみ	北西掘底+31
7	石 鎌	デイサイト	9.0	8.9	3.5	353	基部及び刃部の一部欠損、刃部には使用による磨耗みられる	南東掘底+14

## 6 古墳土壙出土遺物

白倉B区266号土壙出土土器 図245 PL147

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	台付甕	口 15.7 底 ー 高 (20.9)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 ぶい黄色	外面 口縁横ナデ、肩部左斜め縦ハケ、胴上部以下右斜め縦ハケ、脚台部右斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 口縁横ナデ、肩部指押え→横指ナデ、胴部横ヘラナデ 底部指ナデ、脚台部指ナデ	外面スス  中央床直

天引160号土壙出土土器 図245 PL147

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	壺	口 19.5 底 ー 高 (27.8)	胎 砂礫を多く含む 焼 良好 色 ぶい黄橙色	肉厚である、口縁端部を大きく外反させる 外面 口縁からくびれ部横ナデ→胴部上半横ヘラ削り、下半斜め縦ヘラ削り 内面 口縁横ナデ、胴部横ヘラナデ	中央+10
2	甕	口 ー 底 6.0 高 (21.6)	胎 砂粒・赤色粒を含む 焼 普通 色 橙色	粗雑なつくり、平底でかすかに突出する 外面 胴上半・下半縦ヘラ削り、胴中位横ヘラ削り→胴上部部分的に短い単位の斜め横ハケ 内面 ヘラナデ	中央+7

天引171号土壙出土土器・石器 図222・245 PL147・153

単位: cm, g

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
1	器台受部	口 8.0 底 ー 高 (2.4)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 浅黄色	外面 口縁横ナデ→縦ヘラ磨き、底部ヘラ削り→ヘラナデ 内面 横ヘラナデ→横ナデ→縦ヘラ磨き	中央床直
2	塊完形	口 11.3 底 6.0 高 4.6	胎 微砂粒を含む 焼 普通 色 灰褐色	粗雑なつくり、平底 外面 縦指ナデ→口縁端横指ナデ、ヘラ削り→底面ナデ 内面 斜め横ヘラナデ	外面全体にスス  中央+10
3	台付甕	口 25.2 底 ー 高 (13.0)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 灰黄色	大型品で口縁部が発達 外面 口縁横ナデ→斜め縦ヘラナデ→くびれ部横ヘラナデ、肩部左斜め縦ハケ→胴上部右斜めハケ 内面 口縁横ナデ、肩部ヘラナデ	中央+18

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様	使用痕・出土位置等
4	台付甕 口縁	口底高	胎 微砂粒を含む 焼 きわめて良好 色 にぶい褐色	シャープな作り、口縁内外面とも横ナデ、肩部外面左斜め縦ハケ	北+22
5	台付甕 脚台部	口底高 (5.2)	胎 微砂粒を含む 焼 良好 色 にぶい橙色	外面 甕部斜め縦ハケ、脚台部斜め縦ハケ→縦ナデ 内面 甕部コゲ付着、脚台部横へラナデ→上端部粘土をすりつけて甕と接合	外面スス 中央床直

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
1	砥石	珪質頁岩	3.7	2.8	2.5	36	原形は四角錐形であるが、研磨（あるいは使用）により角がとれている、面はきわめて平滑であり丸味をおびる、全体に細かい研磨整形痕が認められる	西+24

## 7 遺構外出土遺物

### 白倉遺構外出土土器 図256 PL132

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
1	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	LR 縄文地に羽状条痕、横走条痕文	白倉C区1号住
2	壺 ? くびれ部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走条痕文	白倉C区1号住
3	鉢 ? 口縁		胎 砂粒を含む 色 明黄褐色	口縁端部 LR 縄文	白倉C区7号住
4	壺 頸部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	羽状条痕文	白倉C区7号住
5	甕 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横走条痕文の下側に LR 縄文	白倉C区7号住
6	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 浅黄橙色	斜走条痕と横走条痕による三角文	白倉C区 2号方形周溝基
7	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	折り返し口縁、口唇部・折り返し部 LR 縄文 外面スス	白倉C区39号住
8	鉢 ? 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 灰黄褐色	縦・横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉C区39号住
9	鉢 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	縦・横走沈線の区画内に細かい、縦ハケ状、擦痕	白倉C区39号住
10	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 にぶい黄橙色	折り返し口縁、口唇部・折り返し部 LR 縄文 頸部横走条痕文	白倉C区 1号方形周溝基
11	甕 ? 口縁		胎 砂粒を含む 色 にぶい黄橙色	折り返し口縁、折り返し部 LR 縄文	白倉C区 1号方形周溝基
12	鉢 ? 口縁		胎 砂礫を含む 色 暗褐色	口縁端山形を呈する、横・縦沈線による磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉C区 1号方形周溝基

No.	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整成形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
13	鉢 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線を主とする磨消縄文	白倉C区 1号方形周溝墓
14	鉢 口縁		胎 砂粒を含む 色 橙色	口唇部内傾、斜走沈線による三角形の区画に LR 縄文	白倉C区 1号方形周溝墓
15	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	斜走条痕文 外面スス	白倉C区 1号方形周溝墓
16	鉢 胴部		胎 砂粒を含む 色 黒褐色	磨消縄文 外面スス	白倉C区 1号方形周溝墓
17	鉢 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 暗褐色	横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面ハクリ	白倉C区 1号方形周溝墓
18	鉢 胴部		胎 砂粒をやや多く含む 色 黒褐色	横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面コゲ・ヨゴレ	白倉C区 1号方形周溝墓
19	鉢(筒形) 下半部	口 一 底 (6.0) 高 (4.6)	胎 砂粒を含む 焼 良好 色 鈍い橙色	横・縦走沈線による横長の四角形を連ねる 加熱痕なし	白倉C区 1号方形周溝墓
20	鉢(筒形) 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	横・縦走の幅広で浅い沈線による磨消縄文	白倉C区34号住
21	壺 頸部		胎 砂礫を含む 色 暗赤褐色	横走沈線による磨消縄文	白倉C区34号住
22	鉢 胴部		胎 砂粒を含む 色 褐灰色	横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉C区91号住
23	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	折り返し口縁→口唇部きざみ、折り返し部 LR 縄文 外面スス	白倉C区35号住
24	壺 頸部		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	平行する2条の横走波状沈線	白倉C区35号住
25	甕 口縁		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	折り返し口縁、無文 外面スス	白倉C区35号住
26	甕 口縁		胎 砂礫を含む 色 鈍い赤褐色	羽状条痕の下に横走条痕 外面スス	白倉C区35号住
27	鉢 口縁		胎 微砂粒を含む 色 橙色	磨消縄文	白倉C区35号住
28	鉢 胴部		胎 微砂粒を含む 色 暗褐色	横走沈線を主とする磨消縄文	白倉C区35号住
29	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走条痕文 外面スス	白倉C区35号住
30	甕 胴部		胎 微砂粒を含む 色 暗褐色	斜走条痕の下側に横走条痕、その下 RL 縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉C区35号住
31	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 暗赤褐色	斜走条痕文 外面スス、内面コゲ	白倉C区35号住
32	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 灰褐色	2条の沈線による三角連繫文、磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉C区35号住

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
33	壺 底部	底 4.4 高 2.0	胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	LR 縄文 加熱痕なし	白倉C区35号住
34	小型鉢? 胴部		胎 緻密、微砂粒を含む 色 灰黄褐色	横走沈線による磨消縄文	白倉C区72号住
35	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄橙色	横走条痕文	白倉C区72号住
36	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	LR 縄文地文→下側に横走・斜走条痕文→沈線による 円形区画内に横走条痕文 赤色塗彩	白倉C区55号住
37	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い赤褐色	横走沈線による磨消縄文 外面スス	白倉C区47号住
38	甕? 口縁		胎 砂礫を含む 色 橙色	口唇部面とり斜走条痕文	白倉B区13号住
39	壺 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 明褐色	横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	白倉B区5号住

天引遺構外出土土器 図257 PL131・132

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
1	壺 口頸部	口 3.9 底 — 高 9.0	胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	3条の横走沈線により区画された上端部は、さらに縦走 沈線により4分割され、内部を刺突でうめる その下側の横走沈線区画にはLR 縄文施文後、中央に横 走波状沈線が描かれる 口縁端部から外面スス	天引22号住
2	壺 胴部		胎 砂粒を多く含む 色 鈍い黄橙色	縄文地文に同心円沈線	天引5号住
3	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 赤褐色	上下を横走条痕にはさまれた区画内に斜走条痕 内面ヨゴレ	天引119号住
4	甕 胴部		胎 緻密 色 鈍い黄橙色	横走沈線による磨消縄文	天引119号住
5	鉢 胴部		胎 緻密、砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走沈線による磨消縄文 外面スス、内面ヨゴレ	天引108号住
6	壺 胴上部		胎 砂粒を多く含む 色 鈍い橙色	羽状条痕文	天引65号住
7	甕 口縁		胎 緻密、微砂粒を含む 色 灰褐色	口唇部は押圧により波状を呈す、横走沈線により口縁端 に幅狭の縄文帯	天引65号住
8	甕 口縁		胎 砂粒を多く含む 色 暗褐色	口唇部押圧により波状を呈す、羽状条痕文	天引65号住
9	甕 口縁		胎 微砂粒を含む 色 灰褐色	No21と同じ	天引65号住
10	鉢(筒形)? 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	縦走沈線を主とする磨消縄文	天引65号住

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
11	壺 ? 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	斜走条痕の下側に横走条痕	天引74号住
12	壺 底部		胎 砂粒を含む 色 赤褐色	外面 ナデ整形→下端寄りに2条の横走沈線→縄文施文 底面網代痕 内面 横指ナデ	天引65号住
13	壺 胴部		胎 砂粒を含む 色 明赤褐色	平行する横走沈線 外面スス	天引65号住
14	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄褐色	LR 縄文地に横走沈線、下側は斜走条痕 外面スス	天引65号住
15	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 橙色	横走沈線による磨消縄文	天引74号住
16	甕 頸部		胎 砂粒を含む 色 鈍い橙色	横走沈線による磨消縄文	天引62号住
17	甕 ? 口縁		胎 緻密、微砂粒を含む 色 灰黄褐色	口縁端に横走沈線、区画による幅1.2cmの LR 縄文帯	天引55号住
18	甕 口縁部		胎 緻密 色 鈍い黄褐色	口縁端 LR 縄文→下側横走条痕、口唇部刻み 外面スス	天引55号住
19	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 灰黄褐色	羽状条痕文 外面スス、内面ヨゴレ	天引55号住
20	甕 胴部		胎 緻密 色 明赤褐色	横走条痕文 外面スス	天引62号住
21	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 黒褐色	縄文地に横走沈線 外面スス	天引62号住
22	壺 ? 頸部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	横走沈線による磨消縄文	天引55号住
23	甕 胴上部		胎 砂礫を含む 色 灰褐色	羽状条痕文 外面スス	天引55号住
24	甕 くびれ部		胎 砂礫を含む 色 黒褐色	斜走条痕文 外面スス、内面うすいヨゴレ	天引55号住
25	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い黄色	縦走条痕文 外面スス、内面ヨゴレ	天引55号住
26	壺 胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い橙色	不定方向の条痕文 外面スス、内面ハクリ	天引55号住
27	甕 胴下部		胎 砂粒を含む 色 鈍い褐色	羽状条痕 外面スス、内面ヨゴレ	天引55号住
28	甕 胴部		胎 緻密 色 暗褐色	横走沈線を主とする磨消縄文	天引55号住
29	甕 胴部		胎 砂粒を含む 色 暗灰黄色	横走条痕文	天引55号住
30	壺 ? 胴部		胎 砂礫を含む 色 鈍い黄褐色	羽状条痕文 外面スス	天引55号住

遺物観察表

No	器種	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・整形の特徴・文様・使用痕	出土位置等
31	鉢 胴部		胎色 砂粒を含む 鈍い褐色	横走沈線を主とする磨消縄文 外面スス	天引153号住
32	壺 胴部		胎色 緻密、砂粒を含む 鈍い黄橙色	斜走条痕文 赤色塗彩、内面ヨグレ	天引153号住
33	壺 胴部		胎色 砂粒を含む 鈍い橙色	縄文地文に斜走沈線による鋸歯状文	天引153号住
34	壺 胴部		胎色 砂粒を含む 鈍い黄橙色	縦走沈線による磨消縄文	天引153号住
35	鉢 口縁		胎色 砂粒を含む 橙色	LR 縄文地文に横走山形沈線、その下に横走沈線	天引146号住
36	甕 口縁		胎色 緻密、砂粒を含む 黒褐色	口唇部、押圧により波状を呈す、横走沈線による幅1.5cm の縄文帯、口唇部にも縄文 外面スス	天引146号住
37	鉢 口縁		胎色 緻密、微砂粒を含む 淡黄色	縄文地文に横・斜走沈線 唇部縄文	天引42号住
38	鉢 口縁		胎色 緻密、微砂粒を含む 黒褐色	口縁端は、ゆるやかな波状 強い円形沈線内に LR 縄文 口縁端部外面スス・内面ヨグレ	天引110号住
39	甕 口縁		胎色 砂粒を含む 鈍い褐色	斜走条痕文 内外面スス	天引110号住
40	鉢(筒形?) 胴部		胎色 砂粒を含む 黒褐色	磨消縄文 外面スス、内面コゲ	天引110号住
41	壺 胴部		胎色 砂粒を含む 黒褐色	波状沈線、2段の下側に横走沈線	天引110号住
42	甕 胴部		胎色 砂粒を含む 鈍い橙色	横走沈線を主とする磨消縄文 外面スス、内面コゲ・ヨグレ	天引151号住
43	壺 口縁		胎色 微砂粒を含む 暗褐色	口縁端は立ち上り気味、平行する横走沈線による区画は、 部分的な縦走沈線を除いて無文 外面スス	天引151号住
44	鉢 口縁		胎色 砂粒を含む 鈍い黄橙色	横走沈線による幅1.2cmの LR 縄文帯、口唇部縄文	天引151号住

遺構外出土石器 図258・259・260 PL118

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
1	磨製石鏃	珪質準片岩	4.8	2.0	0.3	3.3	面は極めて平滑で研磨痕を残さない、下端は尖った形に仕上げない、両面穿孔	白倉A区104号住
2	磨製石鏃 (?)	珪質準片岩	4.2	2.5	0.3	4.1	穿孔も終了しており、これで完成品となるので石鏃にはならない、側面はすべて研磨整形、表裏面とも未調整	白倉C区東側表採
3	磨製石鏃	珪質準片岩	6.0	2.2	0.3	4.2	表裏面とも丹念に研磨整形、両面穿孔	白倉B区谷
4	磨製石鏃	珪質準片岩	1.9	1.4	0.2	0.9	左右両側沿って研磨、表面に失敗した穿孔がある、穿孔途中で破損	

## 7 遺構外出土遺物

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
5	磨製石鏃	珪質準片岩	4.2	1.6	0.2	1.6	左右両側面を研磨整形、表裏面とも未調整	白倉C区49号住
6	磨製石鏃	珪質準片岩	4.2	1.2	0.2	1.3	表裏面とも粗い研磨	白倉C区15号住
7	磨製石鏃	珪質準片岩	2.8	2.0	0.2	1.2	穿孔途中で欠損したものである	白倉C区22号住
8	磨製石鏃	珪質準片岩	3.0	1.4	0.2	0.9	左右側面は研磨による整形、表裏面未調整、片面から穿孔きっかけあり	白倉C区18号住
9	磨製石鏃	珪質準片岩	2.7	1.4	0.2	0.5	表面からの穿孔時に破損	白倉C区50号住
11	磨製石鏃	珪質準片岩	2.4	1.6	0.3	1.0	表裏面とも丹念な研磨調整、裏面からの穿孔が不完全なので、この途中で破損したことがわかる	
12	磨製石鏃	珪質準片岩	2.8	2.1	0.2	1.7	左右側面は研磨により平らにしている、表裏面は左右両側に沿って研磨整形	白倉C区23号住
13	磨製石鏃	珪質準片岩	4.5	1.3	0.2	1.1	表裏面とも未調整	白倉C区11号住
15	磨製石鏃	珪質準片岩	2.6	1.0	0.3	0.9	表裏面の整形が終了、上側から穿孔している途中で欠損	白倉C区23号住
16	磨製石鏃	珪質準片岩	2.4	2.7	0.2	1.7	表面粗い研磨、下側の面、研磨による整形、裏面未調整	白倉C区36号住
17	磨製石鏃	珪質準片岩	1.8	0.9	0.2	0.3	条線による切断	白倉C区209号土壌
18	磨製石鏃	珪質準片岩	2.1	1.7	0.3	1.2	表裏面粗い研磨、左側面研磨整形	白倉C区4号住
19	磨製石鏃	珪質準片岩	2.0	2.5	0.2	1.0	左右の縁部に沿って研磨、裏面未調整	白倉C区1号井戸
21	磨製石鏃	珪質準片岩	2.8	2.2	0.2	1.5	表裏面とも未調整	白倉C区5号住
22	磨製石鏃	珪質準片岩	4.2	2.4	0.3	3.9	表裏面とも未調整	白倉C区42号住
24	磨製石鏃	珪質準片岩	4.4	3.0	0.4	6.2	左側の自然の割れ面を基準に、右下側を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	白倉C区63号住
25	磨製石鏃	珪質準片岩	5.7	2.3	0.3	4.9	端部に沿って丹念に打ちかいて成形、表裏面とも未調整	白倉C区54号住
26	磨製石鏃	珪質準片岩	5.3	2.9	0.3	3.5	自然の割れ口である、右側を基準に左側に条線を刻んで切断、表裏面とも未調整	白倉C区45号住
27	磨製石鏃	珪質準片岩	3.4	2.0	0.3	3.0	表裏面とも未調整	白倉C区45号住
28	磨製石鏃	珪質準片岩	3.9	2.4	0.2	2.3	左右両側面を研磨整形、表裏面とも未調整	白倉C区45号住
29	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	2.1	0.5	5.2	表裏面は粗い研磨、側面は研磨による整形	
30	磨製石鏃	珪質準片岩	3.4	2.6	0.2	1.9	左側面は研磨整形、表裏面は未調整	白倉C区18号住
31	磨製石鏃	珪質準片岩	3.1	2.3	0.3	3.2	表裏面とも未調整、下端打ちかきにより切断	白倉C区57号住
32	磨製石鏃	珪質準片岩	2.6	2.8	0.2	1.8	表裏面とも未調整	白倉C区4号住
33	磨製石鏃	珪質準片岩	5.2	2.4	0.5	7.2	左右両側とも打ちかきによる成形	白倉C区1号井戸
34	磨製石鏃	珪質準片岩	3.5	3.6	0.4	6.7		白倉C区46号住
35	磨製石鏃	珪質準片岩	4.6	2.8	0.5	8.7	下端は打ちかいて成形	白倉C区表採

遺物観察表

単位：cm、g

No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置等
36	磨製石鏃	珪質準片岩	3.3	5.2	0.7	18.7		白倉C区表採
37	磨製石鏃	珪質準片岩	4.8	2.9	0.4	8.0	端部の打ちかきによる成形、表裏面とも未調整	白倉C区74号住
38	磨製石斧	変玄武岩	13.2	6.2	3.9	470	根元寄り半分を欠損	白倉C区31-64
39	砥石	牛伏砂岩・中粒	6.2	5.5	2.3	100	表裏面とも使用、また両面の中央寄りに平行する線状痕がある、特に表面が顕著	白倉C区西側表採
40	砥石	砂岩?	4.6	3.0	0.6	10	表裏面とも縁部に沿ってよく使用されており、端部断面がとがっている	白倉C区6号住
41	石鏃	珪質頁岩	18.5	9.4	2.6	530	大形の剥片素材、全周の両面に調整加える	白倉B区54号住
42	石鏃	変輝緑岩	13.2	9.9	1.5	255	剥片を素材とし全周に調整加える、両面に大きく素材面残す、刃部欠損	白倉B区57号住
43	スクレイパー	硬質泥岩	11.0	5.7	1.5	120	剥片素材、調整は周辺に加えられるが、主に下辺に集中、下縁には使用による磨耗がみられる	白倉B区表採
44	砥石	砂岩	11.9	5.7	1.0	90	四角い形に整えている、主として表裏面の長軸方向の縁部に沿って使用されている	白倉C区東側表採
45	打製石斧	変質安山岩	7.4	5.6	2.3	103	両面ほぼ全面に調整加える、基部欠損、短冊形	白倉B区7号住
46	打製石斧	硬質泥岩	12.4	8.2	3.0	230	中央両側にえぐりの入る分銅形、全面に使用による磨耗がみられるのに対し、刃部には無く、刃部再生を行ったと考えられる	白倉B区13号住
47	スクレイパー	珪質頁岩	5.3	10.7	1.2	74	横長の剥片を素材とし、打面部と先端部に調整加える、器体右側を一部欠損	白倉B区7号住
48	打製石斧	珪質頁岩	10.9	4.8	1.4	131	全周の両面に調整加える、両端に使用による磨耗がみられるが、刃部がより著しい、短冊形	白倉C区91号住
49	打製石斧	硬質泥岩	8.7	4.1	1.7	75	ほぼ全面に調整加える、刃部には使用による弱い磨耗がみられる、短冊形	白倉B区13号住
50	石鏃	硬質泥岩	19.4	9.4	2.8	482	ほぼ全面に調整加える、刃部近くに使用による磨耗みられる、刃部一部欠損	白倉C区16号住
51	石鏃	緑色片岩	19.1	8.0	2.1	405	板状の素材の全周に調整加える、中央よりやや上の両側にえぐりが入る、えぐり部は入念に調整、刃部欠損	
52	石鏃	雲母石英片岩	19.3	7.4	2.7	480	板状の素材の全周に調整加える、中央よりやや上の両側にえぐり、えぐり部の調整はより細かい、刃部先端の稜につぶれ	白倉C区22号住
53	磨製石鏃	珪質準片岩	2.2	2.1	0.2	1.5	表裏面の粗い整形後、両側の縁に沿って再度整形、下端は側面を平らに整形しており、尖った形状になっていない、両面穿孔	天引4号井戸
54	磨製石鏃	珪質準片岩	4.9	2.2	0.5	3.9	端部を打ちかいて成形、表裏面とも未調整	天引153号住
55	磨製石鏃	珪質準片岩	6.6	3.4	0.8	29.7		天引153号住

群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告第173集

白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ  
《弥生・古墳時代遺物観察表編》

関越自動車道(上越線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第26集

平成6年3月20日 印刷  
平成6年3月25日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社